



# **SigmaSystemCenter 2.0**

**インストレーションガイド**

**－第3版－**

## 改版履歴

| 版数 | 改版     | 内容        |
|----|--------|-----------|
| 1  | 2008.2 | 新規作成      |
| 2  | 2008.3 | 機能追加に伴い改版 |
| 3  | 2008.5 | 機能追加に伴い改版 |

Copyright © NEC Corporation 2003-2008. All rights reserved.

## 免責事項

本書の内容はすべて日本電気株式会社が所有する著作権に保護されています。  
本書の内容の一部または全部を無断で転載および複製することは禁止されています。  
本書の内容は将来予告なしに変更することがあります。  
日本電気株式会社は、本書の技術的もしくは編集上の間違い、欠落について、一切責任を負いません。  
日本電気株式会社は、本書の内容に関し、その正確性、有用性、確実性その他いかなる保証もいたしません。

## 商標および著作権

SigmaSystemCenter、WebSAM、NetvisorPro、iStorageManager、ESMPRO、および EXPRESSBUILDER は日本電気株式会社の商標および登録商標です。

Microsoft、Windows、Windows Server、Microsoft Internet Explorer、および SQL Server は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。  
Linux は Linux Travalds 氏の米国およびその他の国における登録商標または商標です。  
SUSE は、米国およびその他の国における Novell, Inc. の登録商標もしくは商標です。  
Red Hat は、米国 Red Hat Software, Inc. の登録商標です。  
HP-UX、Ignite-UX、および HP OpenView は、米国 Hewlett-Packard 社の登録商標です。  
Intel、Pentium、Xeon、Itanium は、米国 Intel 社の登録商標です。  
AMD は、Advanced Micro Devices, Inc. の商標です。

EMC、Symmetrix、CLARiX、Navisphere は EMC Corporation の登録商標です。  
VMware、ESX Server および VMotion は、VMware, Inc. の登録商標もしくは商標です。  
Xen、Citrix、XenServer、XenCenter は、Citrix Systems, Inc. の登録商標もしくは商標です。

ORACLE は、米国 ORACLE Corporation の登録商標です。  
PXE Software Copyright (C) 1997 - 2000 Intel Corporation.  
Copyright (C) 2005, 2007, ALAXALA Networks Corporation. All rights reserved.  
(C) 1992-2007 Cisco Systems Inc. All rights reserved.  
Foundry Networks, FastIron, ServerIron and the 'Iron' family of marks are trademarks or registered trademarks of Foundry Networks, Inc. in the United States and other countries.  
BIG-IP は米国および他の国における F5 Networks, Inc. の登録商標です。  
InstallShield is a registered trademark and service mark of Macrovision Corporation and/or Macrovision Europe Ltd. in the United States and/or other countries.

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems, Inc. の商標または登録商標です。  
Apache は、Apache Software Foundation の商標です。  
本製品には、Sun Microsystems 社が無償で配布している JRE (Java Runtime Environment)、および、Apache Software Foundation が無償で配布している TOMCAT を含んでいます。これらの製品については、それぞれの製品の使用許諾に同意したうえでご利用願います。著作権、所有権の詳細につきましては以下の LICENSE ファイルを参照してください。  
TOMCAT: TOMCAT をインストールしたフォルダ¥LICENSE  
JRE: JRE をインストールしたフォルダ¥LICENSE

Some icons used in this program are based on Silk Icons released by Mark James under a Creative Commons Attribution 2.5 License. Visit <http://www.famfamfam.com/lab/icons/silk/> for more details.

その他、本書に記載のシステム名、会社名、製品名は、各社の登録商標もしくは商標です。  
なお、® マーク、TMマークは本書に明記しておりません。

# 目次

|   |          |
|---|----------|
| はじめに .....  | vii      |
| 対象読者と目的 .....   | vii      |
| 本書の構成 .....   | vii      |
| SigmaSystemCenter マニュアル体系 .....                               | viii     |
| 本書の表記規則 .....   | x        |
| <b>1. SigmaSystemCenterのインストールの概要 .....</b>                   | <b>3</b> |
| 1.1. 本書の読み方 .....   | 4        |
| 1.2. SigmaSystemCenterのインストーラ .....                           | 5        |
| 1.2.1. SigmaSystemCenterのインストールモード .....                      | 5        |
| 1.2.2. インストーラ画面の基本構成 .....                                    | 6        |
| 1.2.3. DPMオプション .....   | 7        |
| 1.3. SigmaSystemCenter 2.0のCD-R構成 .....                       | 8        |
| <b>2. インストールを実行する .....</b>                                   | <b>9</b> |
| 2.1. インストールを始める前の注意 .....                                     | 10       |
| 2.1.1. システムの構成 / 動作環境の確認 .....                                | 10       |
| 2.1.2. NetvisorProと同一マシンにインストールする場合の注意 .....                  | 10       |
| 2.1.3. Apache Tomcatが既にインストールされている場合の注意 .....                 | 11       |
| 2.1.4. ESMPRO/ServerManagerユーザグループ設定に関する注意 .....              | 11       |
| 2.1.5. 管理サーバ for DPMをインストールする際の注意 .....                       | 12       |
| 2.1.6. SystemProvisioningのインストールに関する注意 .....                  | 12       |
| 2.1.7. Windows (x86 / x64) 管理対象マシンへインストールする場合の注意 .....        | 13       |
| 2.1.8. Windows Vista / Windows Server 2008にインストールする際の注意 ..... | 13       |
| 2.1.9. .NET Framework 3.0に関する注意 .....                         | 14       |
| 2.1.10. 管理サーバ for DPM (HP-UX) のインストールに関する注意 .....             | 14       |
| 2.1.11. Ignite-UXのインストールに関する注意 .....                          | 14       |
| 2.1.12. ターミナルサービスへインストールする場合の注意 .....                         | 15       |
| 2.2. 管理サーバコンポーネントのインストール .....                                | 18       |
| 2.3. 管理サーバコンポーネントを個別にインストールする .....                           | 19       |
| 2.3.1. インストールを実行するには .....                                    | 19       |
| 2.3.2. Java 2 Runtime Environmentのインストール .....                | 24       |
| 2.3.3. Apache Tomcatのインストール .....                             | 24       |
| 2.3.4. ESMPRO/ServerManagerのインストール .....                      | 24       |
| 2.3.5. Webサーバ for DPMのインストール .....                            | 27       |
| 2.3.6. データベース (DPMインスタンス) のインストール .....                       | 28       |
| 2.3.7. 管理サーバ for DPMのインストール .....                             | 28       |
| 2.3.8. SystemMonitor性能監視のインストール .....                         | 30       |
| 2.3.9. SystemProvisioningのインストール .....                        | 30       |
| 2.3.10. インストールを完了するには .....                                   | 31       |
| 2.3.11. 管理サーバ for DPM (HP-UX) をインストールする .....                 | 31       |
| 2.3.12. SIGMABLADE controllerをインストールする .....                  | 32       |
| 2.4. 管理サーバコンポーネントを一括でインストールする .....                           | 33       |
| 2.4.1. インストールを実行するには .....                                    | 33       |
| 2.5. 管理対象マシンコンポーネントのインストール .....                              | 38       |
| 2.6. Windows (x86 / x64) 管理対象マシンへインストーラ画面からインストールする .....     | 39       |
| 2.6.1. インストールを実行するには .....                                    | 39       |
| 2.6.2. クライアントサービス for DPMのインストール .....                        | 42       |
| 2.6.3. インストールを完了するには .....                                    | 42       |

|           |   |           |
|-----------|---|-----------|
| 2.7.      | Windows (x86 / x64) 管理対象マシンへインストール画面表示なしでインストールする                                 | 43        |
| 2.7.1.    | インストールを実行するには   | 43        |
| 2.8.      | Windows (IPF) 管理対象マシンへインストールする  | 46        |
| 2.8.1.    | インストールを実行するには   | 46        |
| 2.9.      | Linux管理対象マシンへインストールする   | 47        |
| 2.9.1.    | クライアントサービス for DPMのインストールに向け準備する  | 47        |
| 2.9.2.    | クライアントサービス for DPMをインストールするには   | 48        |
| 2.10.     | HP-UX管理対象マシンへインストールする   | 49        |
| <b>3.</b> | <b>アップグレードインストールを実行する</b>   | <b>51</b> |
| 3.1.      | SigmaSystemCenter 2.0へのアップグレードインストール  | 52        |
| 3.2.      | インストール (アップグレード) を始める前の注意   | 53        |
| 3.2.1.    | 動作環境の確認   | 53        |
| 3.2.2.    | インストール (アップグレード) に伴いNetvisorProをインストールする際の注意                                      | 53        |
| 3.2.3.    | 管理サーバ for DPMをアップグレードインストールする際の注意   | 53        |
| 3.2.4.    | SystemProvisioningのアップグレードインストールに関する注意  | 54        |
| 3.3.      | BladeSystemCenter、ExpressSystemCenter、SigmaSystemCenter 1.1からアップグレードインストールに向け準備する | 55        |
| 3.3.1.    | Webサーバ for DPMをアンインストールするには   | 56        |
| 3.3.2.    | Apache Tomcatをアンインストールするには  | 56        |
| 3.3.3.    | SystemProvisioning Connector Frameworkをアンインストールするには                               | 56        |
| 3.3.4.    | アンインストールを完了するには   | 57        |
| 3.4.      | SigmaSystemCenter 1.2、1.3からアップグレードインストールに向け準備する                                   | 58        |
| 3.4.1.    | アンインストールを実行するには   | 58        |
| 3.4.2.    | SystemProvisioning Web Componentsのアンインストール  | 59        |
| 3.4.3.    | Webサーバ for DPMのアンインストール   | 59        |
| 3.4.4.    | Apache Tomcatのアンインストール  | 60        |
| 3.4.5.    | マネージャインストールを終了するには  | 60        |
| 3.4.6.    | 管理サーバ for DPMのすべてのサービスを停止するには   | 61        |
| 3.5.      | 管理サーバコンポーネントをインストール (アップグレード) する  | 63        |
| 3.5.1.    | インストール (アップグレード) を実行するには  | 63        |
| 3.5.2.    | Java 2 Runtime Environmentのインストール   | 68        |
| 3.5.3.    | Apache Tomcatのインストール  | 68        |
| 3.5.4.    | ESMPRO/ServerManagerのアップグレードインストール  | 69        |
| 3.5.5.    | Webサーバ for DPMのインストール   | 70        |
| 3.5.6.    | データベース (DPMインスタンス) のインストール  | 71        |
| 3.5.7.    | 管理サーバ for DPMのアップグレードインストール   | 72        |
| 3.5.8.    | SystemMonitor性能監視のアップグレードインストール   | 74        |
| 3.5.9.    | SystemProvisioningのアップグレードインストール  | 74        |
| 3.5.10.   | インストール (アップグレード) を完了するには  | 75        |
| 3.5.11.   | SystemMonitor 障害監視をアンインストールするには   | 76        |
| 3.5.12.   | 管理サーバ for DPM (HP-UX) をアップグレードインストールする  | 76        |
| 3.5.13.   | SIGMABLADE controllerをインストールする  | 77        |
| 3.6.      | 管理対象マシンコンポーネントをアップグレードインストールする  | 78        |
| 3.7.      | Windows (x86 / x64) 管理対象マシンへアップグレードインストールする                                       | 79        |
| 3.7.1.    | アップグレードインストールを実行するには  | 79        |
| 3.7.2.    | クライアントサービス for DPMのアップグレードインストール  | 82        |
| 3.7.3.    | アップグレードインストールを完了するには  | 82        |
| 3.8.      | Windows (IPF) 管理対象マシンへアップグレードインストールする   | 83        |
| 3.9.      | Linux管理対象マシンへアップグレードインストールする  | 84        |
| 3.10.     | HP-UX管理対象マシンへアップグレードインストールする  | 85        |
| <b>4.</b> | <b>アンインストールを実行する</b>  | <b>87</b> |
| 4.1.      | 管理サーバコンポーネントのアンインストール   | 88        |
| 4.2.      | アンインストールを始める前の注意  | 88        |

|  |            |
|--|------------|
| 4.2.1.管理サーバ for DPMおよびWebサーバ for DPMをアンインストールする際の注意 .....              | 88         |
| 4.2.2.Windows Vista / Windows Server 2008からアンインストールする際の注意 .....        | 88         |
| 4.2.3.ターミナルサービスからアンインストールする際の注意 .....                                  | 88         |
| <b>4.3. 管理サーバコンポーネントを個別にアンインストールする .....</b>                           | <b>91</b>  |
| 4.3.1.アンインストールを実行するには .....  | 91         |
| 4.3.2.SystemProvisioningのアンインストール .....                                | 93         |
| 4.3.3.SystemMonitor性能監視のアンインストール .....                                 | 93         |
| 4.3.4.管理サーバ for DPMのアンインストール .....                                     | 94         |
| 4.3.5.データベース (DPMインスタンス) のアンインストール .....                               | 94         |
| 4.3.6.Webサーバ for DPMのアンインストール .....                                    | 95         |
| 4.3.7.ESMPRO/ServerManagerのアンインストール .....                              | 95         |
| 4.3.8.Apache Tomcatのアンインストール .....                                     | 96         |
| 4.3.9.Java 2 Runtime Environmentのアンインストール .....                        | 96         |
| 4.3.10.アンインストールを完了するには .....   | 97         |
| 4.3.11.SQL Server 2005 Express Editionをアンインストールするには .....              | 97         |
| 4.3.12.管理サーバ for DPM (HP-UX) をアンインストールする .....                         | 98         |
| 4.3.13.SIGMABLADE controllerをアンインストールする .....                          | 98         |
| <b>4.4. 管理サーバコンポーネントを一括でアンインストールする .....</b>                           | <b>99</b>  |
| 4.4.1.アンインストールを実行するには .....  | 99         |
| 4.4.2.SQL Server 2005 Express Editionをアンインストールするには .....               | 101        |
| <b>4.5. 管理対象マシンコンポーネントのアンインストール .....</b>                              | <b>102</b> |
| <b>4.6. Windows (x86 / x64) 管理対象マシンよりインストーラ画面からアンインストールする .....</b>    | <b>103</b> |
| 4.6.1.アンインストールを実行するには .....  | 103        |
| 4.6.2.クライアントサービス for DPMのアンインストール .....                                | 104        |
| 4.6.3.アンインストールを完了するには .....  | 104        |
| <b>4.7. Windows (x86 / x64) 管理対象マシンからインストーラ画面表示なしでアンインストールする .....</b> | <b>105</b> |
| 4.7.1.アンインストールを実行するには .....  | 105        |
| <b>4.8. Windows (IPF) 管理対象マシンからアンインストールする .....</b>                    | <b>107</b> |
| 4.8.1.アンインストールを実行するには .....  | 107        |
| <b>4.9. Linux管理対象マシンから個別にアンインストールする .....</b>                          | <b>108</b> |
| 4.9.1.クライアントサービス for DPM をアンインストールする .....                             | 108        |
| 4.10. HP-UX 管理対象マシンからアンインストールする .....                                  | 109        |
| <b>付録 A ネットワークとプロトコル .....</b>   | <b>113</b> |
| 管理サーバ .....  | 113        |
| 管理対象マシン .....  | 114        |
| その他 .....  | 115        |
| <b>付録 B インストール関連のトラブルシューティング .....</b>                                 | <b>117</b> |





# はじめに

## 対象読者と目的

「SigmaSystemCenter インストールガイド」は、SigmaSystemCenter のインストール、アップグレードインストール、およびアンインストールを行うシステム管理者を対象読者とし、それぞれの方法について説明します。

## 本書の構成

### セクション I SigmaSystemCenterのインストール

- 1 「SigmaSystemCenterのインストールの概要」: インストールの進め方、インストーラについて説明します。
- 2 「インストールを実行する」: インストール手順を説明します。
- 3 「アップグレードインストールを実行する」: 前のバージョンからのアップグレードインストール手順を説明します。
- 4 「アンインストールを実行する」: アンインストール手順を説明します。

### 付録

付録 A 「ネットワークとプロトコル」

付録 B 「インストール関連のトラブルシューティング」

# SigmaSystemCenter マニュアル体系

SigmaSystemCenter のマニュアルは、各製品およびコンポーネントごとに以下のように構成されています。

また、本書内では、各マニュアルは「本書での呼び方」の名称で記載します。

| 製品 / コンポーネント名                                  | マニュアル名  | 本書での呼び方  |
|--|---|--|
| SigmaSystemCenter 2.0                          | SigmaSystemCenter 2.0 ファーストステップガイド                        | SigmaSystemCenter<br>ファーストステップガイド                  |
|  | SigmaSystemCenter 2.0 インストレーションガイド                        | SigmaSystemCenter<br>インストレーションガイド                  |
|  | SigmaSystemCenter 2.0 コンフィグレーションガイド                       | SigmaSystemCenter<br>コンフィグレーションガイド                 |
|  | SigmaSystemCenter 2.0 リファレンスガイド                           | SigmaSystemCenter<br>リファレンスガイド                     |
| ESMPRO/ServerManager 4.41                      | ESMPRO/ServerManager Ver.4.4 インストレーションガイド                 | ESMPRO/ServerManager<br>インストレーションガイド               |
|  | ESMPRO サーバ管理ガイド   | ESMPROサーバ管理ガイド                                     |
| WebSAM<br>DeploymentManager 5.1                | WebSAM DeploymentManager Ver5.1 ユーザーズガイド導入編               | DeploymentManager<br>ユーザーズガイド導入編                   |
|  | WebSAM DeploymentManager Ver5.1 ユーザーズガイド基本動作編             | DeploymentManager<br>ユーザーズガイド基本動作編                 |
|  | WebSAM DeploymentManager Ver5.1 ユーザーズガイド応用編               | DeploymentManager<br>ユーザーズガイド応用編                   |
|  | WebSAM DeploymentManager Ver5.1 ユーザーズガイドPackageDescriber編 | DeploymentManager<br>ユーザーズガイド<br>PackageDescriber編 |
|  | パッケージビルダマニュアル   | DeploymentManager<br>パッケージビルダマニュアル                 |
| WebSAM<br>DeploymentManager<br>(HP-UX版) R1.4.3 | WebSAM DeploymentManager (HP-UX版) ユーザーズガイド (導入編)          | DeploymentManager (HP-UX版)<br>ユーザーズガイド導入編          |
|  | WebSAM DeploymentManager (HP-UX版) ユーザーズガイド (機能編)          | DeploymentManager (HP-UX版)<br>ユーザーズガイド機能編          |
|  | WebSAM DeploymentManager (HP-UX版) 操作マニュアル                 | DeploymentManager (HP-UX版)<br>操作マニュアル              |
|  | WebSAM DeploymentManager (HP-UX版) ユーザーズガイド エラーメッセージ集      | DeploymentManager (HP-UX版)<br>ユーザーズガイド エラーメッセージ集   |
|  | WebSAM DeploymentManager (HP-UX版) R1.4.3 リリースメモ           | DeploymentManager (HP-UX版)<br>リリースメモ               |
| SystemMonitor性能監視 4.0                          | SystemMonitor性能監視 ユーザーズガイド                                | SystemMonitor性能監視<br>ユーザーズガイド                      |
|  | SigmaSystemCenter クラスタ構築資料 第4版                            | SigmaSystemCenter<br>クラスタ構築資料                      |

| 製品 / コンポーネント名                | マニュアル名   | 本書での呼び方                            |
|------------------------------|--|------------------------------------|
| SIGMABLADE controller<br>1.1 | SigmaSystemCenter SIGMABLADE<br>controller セットアップカード | SIGMABLADE controller<br>セットアップカード |
|                              | SigmaSystemCenter SIGMABLADE<br>controller ユーザーズガイド  | SIGMABLADE controller<br>ユーザーズガイド  |

SigmaSystemCenter の製品概要、インストール、設定、運用、保守に関する情報は、以下の4つのマニュアルに含みます。各マニュアルの役割を以下に示します。

#### 「SigmaSystemCenter ファーストステップガイド」

SigmaSystemCenter を使用するユーザを対象読者とし、製品概要、システム設計方法、動作環境などについて記載します。

#### 「SigmaSystemCenter インストールガイド」

SigmaSystemCenter のインストール、アップグレードインストール、およびアンインストールを行うシステム管理者を対象読者とし、それぞれの方法について説明します。

#### 「SigmaSystemCenter コンフィグレーションガイド」

インストール後の設定全般を行うシステム管理者と、その後の運用・保守を行うシステム管理者を対象読者とし、インストール後の設定から運用に関する操作手順を実際の流れに則して説明します。また、保守の操作についても説明します。

#### 「SigmaSystemCenter リファレンスガイド」

SigmaSystemCenter の管理者を対象読者とし、SigmaSystemCenter の機能説明、操作画面一覧、操作方法、メンテナンス関連情報およびトラブルシューティング情報などを記載します。「SigmaSystemCenter インストールガイド」および「SigmaSystemCenter コンフィグレーションガイド」を補完する役割を持ちます。

# 本書の表記規則

本書では、注意すべき事項、重要な事項、および関連情報を以下のように表記します。

---

**注:** は、機能、操作、および設定に関する注意事項、警告事項、および補足事項です。

---

---

**関連情報:** は、参照先の情報の場所を表します。

---

また、本章では以下の表記法を使用します。

| 表記                        | 使用方法   | 例   |
|---------------------------|--|---|
| [ ] 角かっこ                  | 画面に表示される項目 (テキストボックス、チェックボックス、タブなど) の前後                          | [マシン名] テキストボックスにマシン名を入力します。<br>[すべて] チェックボックス                   |
| 「 」 かぎかっこ                 | 画面名 (ダイアログボックス、ウィンドウなど)、他のマニュアル名の前後                              | 「設定」ウィンドウ<br>「インストールガイド」  |
| コマンドライン中の [ ] 角かっこ        | かっこ内の値の指定が省略可能であることを示します。  | add [/a] Gr1  |
| モノスペースフォント<br>(courier)   | コマンドライン、システムからの出力 (メッセージ、プロンプトなど)                                | 以下のコマンドを実行してください。<br>replace Gr1                                |
| モノスペースフォント斜体<br>(courier) | ユーザが有効な値に置き換えて入力する項目<br>値の中にスペースが含まれる場合は " " (二重引用符) で値を囲ってください。 | add <i>GroupName</i><br><br>InstallPath=" <i>Install Path</i> " |

# セクション I SigmaSystemCenter のインストール操作

このセクションでは、SigmaSystemCenter のインストール、アップグレードインストール、アンインストールについて記載します。

- 1 SigmaSystemCenterのインストールの概要
- 2 インストールを実行する
- 3 アップグレードインストールを実行する
- 4 アンインストールを実行する



# 1. SigmaSystemCenter のインストールの概要

本章では、本書の読み方および SigmaSystemCenter のインストール、アンインストールを行うインストーラについて説明します。

本章で説明する項目は以下の通りです。

- 1.1 本書の読み方 .....4
- 1.2 SigmaSystemCenterのインストーラ .....5
- 1.3 SigmaSystemCenter 2.0 のCD-R構成 .....8

## 1.1. 本書の読み方

本書では、SigmaSystemCenter のインストール、アップグレードインストール、アンインストールの手順を説明します。

SigmaSystemCenter 2.0 をインストールする場合は、「2 インストールを実行する」を参照し、インストールしてください。

ご利用のシステムに既にSigmaSystemCenter 1.3 以前のバージョン、BladeSystemCenter、ExpressSystemCenterのいずれかをインストール済みで、SigmaSystemCenter 2.0 へアップグレードインストールする場合は、「3 アップグレードインストールを実行する」を参照し、アップグレードインストールしてください。

SigmaSystemCenter 2.0 をアンインストールする場合は、「4 アンインストールを実行する」を参照し、アンインストールしてください。



## 1.2. SigmaSystemCenter のインストーラ

SigmaSystemCenter は、SigmaSystemCenter インストーラによりインストール、アンインストールができます。

インストーラは、SigmaSystemCenter の管理サーバを対象にした管理サーバコンポーネントのインストール / アンインストール、および SigmaSystemCenter の管理対象マシンを対象にした管理対象マシンコンポーネントのインストール / アンインストールができます。

---

**注:** UNC パスもしくはネットワークドライブを割り当てたドライブ上で、インストーラは実行できません。CD-R ドライブ上のインストーラを実行してください。

---

### 1.2.1. SigmaSystemCenter のインストールモード

SigmaSystemCenter のインストーラは、2 つのインストールモードを兼ね備えています。

◆ 個別インストール / アンインストール

インストール / アンインストールしたいコンポーネントを選択し、インストール / アンインストールできます。

◆ 一括インストール / アンインストール

一括インストールは、SigmaSystemCenter 2.0 CD-R (1/2) から、インストール先の情報や Windows ファイアウォールなどを指定して、その他の設定は既定値のまま、CD-R に収録されているすべてのコンポーネントをインストールする機能です。

一括アンインストールは、SigmaSystemCenter 2.0 CD-R (1/2) から、インストールオプションのみを指定してアンインストールする機能です。

---

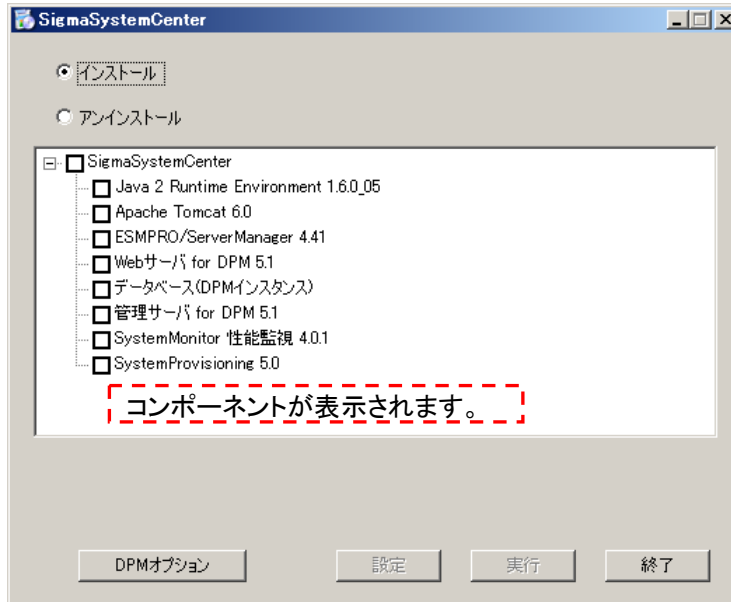
**注:** 一部一括でアンインストールできないコンポーネントがあります。

---

一括インストール / アンインストールでは、インストール / アンインストール中にインストーラ画面は表示されず、ユーザからの入力はありません。

## 1.2.2. インストーラ画面の基本構成

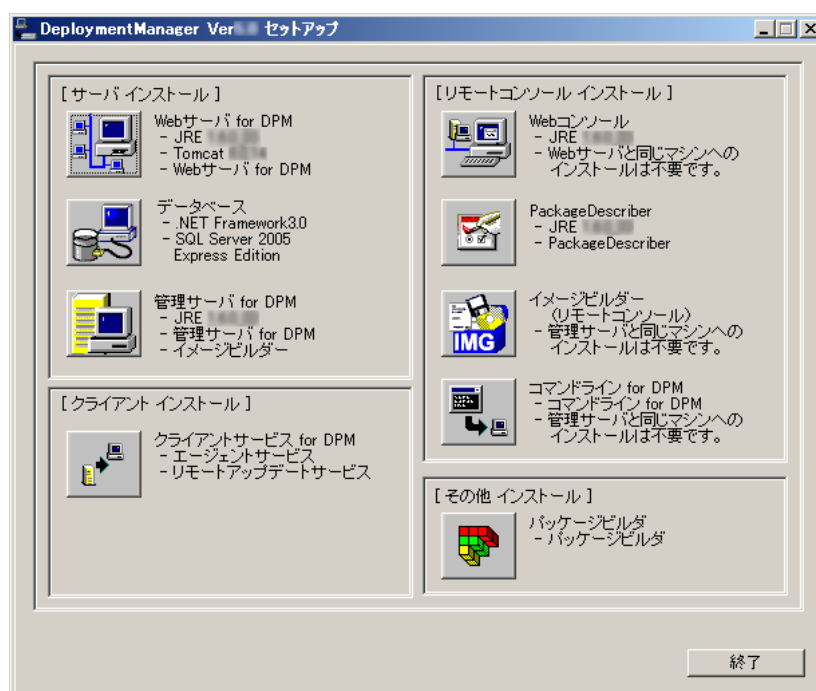
SigmaSystemCenter のインストーラの「SigmaSystemCenter」メイン画面は以下の要素で構成されています。



|                          |   |
|--------------------------|---|
| インストール                   | インストールを行います。  |
| アンインストール                 | アンインストールを行います。  |
| <b>SigmaSystemCenter</b> | この項目を選択した場合、以下の選択可能なすべてのコンポーネントが自動的に選択されます。   |
| <b>コンポーネント名</b>          | インストール / アンインストールするコンポーネント名が表示されます。   |
| <b>[DPM オプション]</b>       | 「DeploymentManager セットアップ」画面を表示します。<br>管理サーバコンポーネントの個別インストール / アンインストールの際にのみ表示されます。 |
| <b>[設定]</b>              | 設定画面を表示します。<br>インストール / アンインストールするコンポーネントを選択するまで選択不可です。                             |
| <b>[実行]</b>              | インストール / アンインストールを実行します。<br>インストール / アンインストールするコンポーネントを選択するまで選択不可です。                |
| <b>[終了]</b>              | メイン画面を閉じます。   |

### 1.2.3. DPM オプション

インストーラ画面で [DPM オプション] を選択すると、「DeploymentManager セットアップ」画面が表示されます。この画面からは、「SigmaSystemCenter」メイン画面からインストールが実行されない DPM のコンポーネントをインストールすることができます。



DPM のインストーラを開始するには、コンポーネント名の横のボタンをクリックしてください。各サブコンポーネントのインストールの詳細に関しては、「DeploymentManager ユーザーズガイド導入編」および「DeploymentManager ユーザーズガイド基本操作編」を参照してください。

## 1.3. SigmaSystemCenter 2.0 の CD-R 構成

SigmaSystemCenter のインストーラおよび各ソフトウェアコンポーネントは、次のとおり SigmaSystemCenter 2.0 CD-R に収録されています。

| SigmaSystemCenter 2.0 CD-R (1/2) |  |
|----------------------------------|--|
| ManagerSetup.exe                 | 管理サーバコンポーネント用インストーラ  |
| ManagerSetup.ini                 | 管理サーバコンポーネント用設定ファイル  |
| AgentSetup.exe                   | 管理対象マシンコンポーネント用インストーラ  |
| AgentSetup.ini                   | 管理対象マシンコンポーネント用設定ファイル  |
| └ ja¥                            |  |
| └ dotNet Framework30¥            | .NET Framework 3.0 再頒布可能パッケージ x86用                           |
| └ └ ja¥                          | .NET Framework 3.0 日本語 Language Pack x86用                    |
| └ SQLEXPRESS¥                    | SQL Server 2005 Express Edition SP2                          |
| └ EMclient¥                      | Oracle連携オプション  |
| └ DPM¥                           | DeploymentManager, Java 2 Runtime Environment, Apache Tomcat |
| └ SMM¥                           | ESMPRO/ServerManager   |
| └ RMP¥                           | SystemMonitor 性能監視   |
| └ └ PVM¥                         | SystemProvisioning   |

Enterprise Edition を購入された場合にのみ、SigmaSystemCenter 2.0 CD-R (2/2) (下記) および SigmaSystemCenter SIGMABLADE controller CD-R が送付されます。

| SigmaSystemCenter 2.0 CD-R (2/2) |                                   |
|----------------------------------|-----------------------------------|
| └ dpm_hpux¥                      | DeploymentManager (HP-UX)         |
| └ └ client¥                      | DeploymentManager (HP-UX) クライアント  |
| └ └ command¥                     | DeploymentManager (HP-UX) コマンドライン |
| └ └ java¥                        | Java 2 Runtime Environment        |
| └ └ manual¥                      | DeploymentManager (HP-UX) マニュアル   |
| └ └ n2l2¥                        | n2l2ライブラリ                         |
| └ └ server¥                      | DeploymentManager (HP-UX) 管理サーバ   |
| └ └ └ Tomcat¥                    | Apache Tomcat                     |

## 2. インストールを実行する

本章では、SigmaSystemCenter のインストール手順について説明します。管理サーバコンポーネントと管理対象マシンコンポーネントを、個別でインストールする場合と一括でインストールする場合について説明します。

本章で説明する項目は以下の通りです。

|        |   |    |
|--------|---|----|
| • 2.1  | インストールを始める前の注意 .....                                    | 10 |
| • 2.2  | 管理サーバコンポーネントのインストール.....                                | 18 |
| • 2.3  | 管理サーバコンポーネントを個別にインストールする .....                          | 19 |
| • 2.4  | 管理サーバコンポーネントを一括でインストールする .....                          | 33 |
| • 2.5  | 管理対象マシンコンポーネントのインストール.....                              | 38 |
| • 2.6  | Windows (x86 / x64) 管理対象マシンへインストール画面からインストールする .....    | 39 |
| • 2.7  | Windows (x86 / x64) 管理対象マシンへインストール画面表示なしでインストールする ..... | 43 |
| • 2.8  | Windows (IPF) 管理対象マシンへインストールする .....                    | 46 |
| • 2.9  | Linux管理対象マシンへインストールする .....                             | 47 |
| • 2.10 | HP-UX管理対象マシンへインストールする.....                              | 49 |

## 2.1. インストールを始める前の注意

SigmaSystemCenter 2.0 のインストールを始める前に、本節の注意事項をよく読んでください。

### 2.1.1. システムの構成 / 動作環境の確認

SigmaSystemCenter は、インストールする機能を、管理サーバ、管理対象マシンの構成に基づき、インストールする必要があります。機能に関する情報や、システム構成に関しては、「SigmaSystemCenter ファーストステップガイド」の「2.1. SigmaSystemCenter のシステム構成の検討」を参照してください。

また、インストールを始める前に、必ず最新の動作環境がご利用の環境に適しているか確認する必要があります。最新の動作環境に関しては、「SigmaSystemCenter ファーストステップガイド」の「3. 動作環境」を参照してください。

### 2.1.2. NetvisorPro と同一マシンにインストールする場合の注意

SigmaSystemCenter 2.0 を NetvisorPro と同一マシンにインストールする場合、先に NetvisorPro をインストールし、その後 SigmaSystemCenter 2.0 をインストールしてください。

NetvisorPro は MSDE2000 をインストールするため、SQL Server 2005 を使用する SigmaSystemCenter 2.0 が既にインストールされていると、NetvisorPro のインストールに失敗する場合があります。

詳細は、下記の Microsoft サポートページを参照してください。

<http://support.microsoft.com/kb/905618/ja>

### 2.1.3. Apache Tomcat が既にインストールされている場合の注意

既に Apache Tomcat がインストールされている場合は、インストール済みの Apache Tomcat を使用するため、Web サーバ for DPM を「SigmaSystemCenter」メイン画面からインストールできません。以下の手順に従ってインストールを実行してください。

1. SigmaSystemCenter 2.0 CD-R (1/2) を DVD/CD-RW ドライブに挿入します。
2. コマンドプロンプトで以下のコマンドを実行し、インストーラを起動します。  
インストール CD-R: ¥ManagerSetup.exe
3. インストーラが起動し、「SigmaSystemCenter」メイン画面が表示されます。  
[DPM オプション] をクリックします。
4. 「1.2.3 DPMオプション」内の「DeploymentManager セットアップ」画面が表示されます。
5. [Web サーバ for DPM] アイコンをクリックします。
6. 「インストール方法の選択」ダイアログボックスが表示されます。[カスタムインストール] を選択し、[JRE] および [Tomcat] チェックボックスをオフにします。
7. [OK] をクリックし、Web サーバ for DPM のインストールを開始します。

---

**関連情報:** DPM オプションからの Web サーバ for DPM のインストールについては「DeploymentManager ユーザーズガイド導入編」の「2.1.2 Web サーバ for DPM のカスタムインストール」を参照してください。

---

8. Webサーバ for DPMのインストール完了後、「SigmaSystemCenter」メイン画面から Webサーバ for DPM以外の管理サーバコンポーネントをインストールしてください。管理サーバコンポーネントのインストールについては、「2.2 管理サーバコンポーネントのインストール」を参照してください。

### 2.1.4. ESMPRO/ServerManager ユーザグループ設定に関する注意

セキュリティ上の理由から、ESMPRO/ServerManager を使用するユーザは、「ESMPRO ユーザグループ」と呼ばれるグループに属していなければなりません。

「ESMPRO ユーザグループ」は ESMPRO/ServerManager のインストール時に決定されます。既定では Administrators グループが指定されますが、任意のグループを指定することもできます。

任意のグループを指定する場合は、ESMPRO/ServerManager をインストールする前に、Windows のユーザ / グループ管理機能を使用してユーザグループを作成しておき、インストール時にそのグループを指定してください。

このセキュリティ機能をより有効にするために、ESMPRO/ServerManager は NTFS のドライブにインストールすることを推奨します。

なお、「ESMPRO ユーザグループ」をグローバルグループとして登録する場合は、同じ名前のローカルグループが存在しないようにしてください。また、バックアップドメインコントローラの場合は、必ずグローバルグループ指定するようにしてください。

### 2.1.5. 管理サーバ for DPM をインストールする際の注意

同一ネットワークセグメント内の複数のマシンに管理サーバ for DPM をインストールしないでください。ソフトウェアのバージョンが違っていても正常に機能しない可能性があります。

管理サーバ for DPM と NetvisorPro を同一マシンにインストールする場合は、「DeploymentManager ユーザーズガイド導入編」および NetvisorPro のユーザーズガイドの手順を参照してインストールしてください。

また、管理サーバ for DPM のインストールを行う際には、管理用 LAN とのネットワークが接続されていることを確認して行ってください。

ネットワークが接続されていない状態でインストールを行った場合は、初期設定に失敗し、管理サーバ for DPM のインストールが失敗する可能性があります。この場合、管理サーバ for DPM のインストール直前までロールバックが行われます。再度、「SigmaSystemCenter」メイン画面から管理サーバ for DPM およびインストールが実施されていないコンポーネントのインストールを行ってください。

管理サーバ for DPM をインストールする際は、「DeploymentManager ユーザーズガイド導入編」の「2.3 管理サーバ for DPM のインストール」を参照してください。

### 2.1.6. SystemProvisioning のインストールに関する注意

SystemProvisioning をインストールするには、インターネットインフォメーションサービス (IIS) マネージャおよび ASP.NET v2.0 をインストールする必要があります。

#### ◆ Windows Server 2003 の場合

Windows Server 2003 では、ASP.NET v2.0 をコントロールパネルの [プログラムの追加と削除] の [Windows コンポーネントの追加と削除 (A)] からインストールすることはできません。インターネットインフォメーションサービス (IIS) マネージャをインストールした後、以下の手順に従って ASP.NET v2.0 をインストールしてください。

1. [スタート] メニューから [コントロールパネル (C)] - [プログラムの追加と削除] を選択します。
  2. 「プログラムの追加と削除」画面が表示されます。Microsoft .NET Framework 2.0 がインストールされているかを確認します。  
既に Microsoft .NET Framework 2.0 がインストールされている場合、SystemProvisioning をインストールする前に以下の手順を実行してください。  
Microsoft .NET Framework 2.0 がされていない場合は、以下の手順を実行する必要があります。
1. [スタート] メニューから [プログラム] - [管理ツール] - [インターネットインフォメーションサービス (IIS) マネージャ] を選択し、IIS を起動します。
  2. 「インターネットインフォメーションサービス (IIS) マネージャ」画面が表示されます。左ペインで [Web サービス拡張] を選択し、[ASP.NET v2.0.50727] が表示され



ていることを確認します。

[ASP.NET v2.0.50727] が表示されていない場合は以下のコマンドを実行してください。ASP.NET v2.0.50727 がインストールされます。

```
%SystemRoot%\¥Microsoft.NET¥Framework¥v2.0.50727¥aspnet_regiis.exe -r
```

◆ Windows Server 2008 の場合

Windows Server 2008 でインターネットインフォメーションサービス (IIS) マネージャおよび ASP.NET をインストールするには、以下の手順に従ってください。

1. [サーバー マネージャ] を起動します。
2. 左ペインの [役割] を右クリックし、[役割の追加] を選択します。
3. 「役割の追加」ウィザードが表示されます。
4. 左ペインの [サーバーの役割] をクリックします。
5. [Web サーバー (IIS)] チェックボックスをオンにして、[次へ(N)]をクリックします。
6. 「Web サーバー (IIS)」画面で [次へ(N)] をクリックします。
7. 「役割サービスの選択」画面で、[静的なコンテンツ] チェックボックス、[ASP.NET] チェックボックスおよび [IIS 6 メタベース互換] チェックボックスをオンにして、[次へ(N)] をクリックします。
8. 「インストール オプションの確認」画面で [インストール(I)] をクリックします。インストールが開始されます。
9. 「インストールの結果」画面で [閉じる(O)] をクリックします。

## 2.1.7. Windows (x86 / x64) 管理対象マシンへインストールする場合の注意

Windows (x86 / x64) 管理対象マシンへインストールするには、.NET Framework 1.1 以上がインストールされている必要があります。

## 2.1.8. Windows Vista / Windows Server 2008 にインストールする際の注意

Windows Vista もしくは Windows Server 2008 上でインストーラを実行すると、「ユーザーアカウント制御」画面が表示される場合があります。その場合、[許可] をクリックして、続行してください。

### 2.1.9. .NET Framework 3.0 に関する注意

SigmaSystemCenter インストーラは、Windows Server 2008 に .NET Framework 3.0 をインストールしません。

Windows Server 2008 に管理サーバコンポーネントをインストールする場合は、事前に [サーバー マネージャ] の [機能の追加] から .NET Framework 3.0 をインストールしてください。

### 2.1.10. 管理サーバ for DPM (HP-UX) のインストールに関する注意

管理サーバ for DPM (HP-UX) を動作させるためには、別途 Java 2 Runtime Environment、Apache Tomcat が必要になります。

管理サーバ for DPM (HP-UX) を SigmaSystemCenter 管理サーバと同一マシンにインストールする場合、SigmaSystemCenter 2.0 CD-R (1/2) の SigmaSystemCenter のインストーラからインストールした Java 2 Runtime Environment、Apache Tomcat を使用してください (管理サーバ for DPM (HP-UX)、および、DPM (HP-UX) コンソールは、SigmaSystemCenter 2.0 CD-R (1/2) に同梱の Java Runtime Environment 6 Update 5 上でも動作します)。

管理サーバ for DPM (HP-UX) を SigmaSystemCenter 管理サーバと異なるマシンにインストールする場合、別途 SigmaSystemCenter 2.0 CD-R (2/2) から Java 2 Runtime Environment、Apache Tomcat をインストールする必要があります。

### 2.1.11. Ignite-UX のインストールに関する注意

DPM (HP-UX 版) にて HP-UX サーバを管理するには、管理対象マシン (HP-UX) と同一ネットワークセグメント内に Ignite-UX がインストールされたサーバ (Ignite-UX サーバ) を設置する必要があります。

Ignite-UX のインストール手順については、「DeploymentManager (HP-UX 版) ユーザーズガイド導入編」の「2.6 Ignite-UX サーバのセットアップ」を参照してください。

また、Ignite-UX サーバには、クライアントサービス for DPM (HP-UX) のインストールも必要です。

クライアントサービス for DPM (HP-UX) のインストール手順については、本書の「2.10 HP-UX管理対象マシンへインストールする」、および、「DeploymentManager (HP-UX版) ユーザーズガイド導入編」の「2.5 DeploymentManagerクライアントのセットアップ」を参照してください。

## 2.1.12. ターミナルサービスへインストールする場合の注意

Windows Server 2003 / Windows Server 2008 のターミナルサービスには以下の 2 つの動作モードがあります。

ご利用の環境を確認し、環境に応じたインストールを実行する必要があります。

### ◆ Windows Server 2003 の場合

#### • ターミナルサーバー

ターミナルサーバーはコントロールパネルの [プログラムの追加と削除] の [Windows コンポーネント ウィザード] を使用して、“ターミナル サーバー” コンポーネントを追加することで有効になります。

#### • 管理用リモートデスクトップ

管理用リモートデスクトップは既定でインストールされており、コントロールパネルの [システム] の [リモート] タブで、リモート接続を有効にすることで有効になります。

### ◆ Windows Server 2008 の場合

#### • ターミナルサーバー

ターミナルサーバーは [サーバー マネージャ] の [役割の追加] で [ターミナル サービス] を選択し、[役割サービスの選択] で “ターミナル サーバー” を追加することで有効になります。

#### • リモートデスクトップ

リモートデスクトップはコントロールパネルの [システム] の [リモートの設定 (R)] をクリックして表示される [システムプロパティ] の [リモート] タブで、以下のいずれかをクリックすることで有効になります。

- [リモート デスクトップを実行しているコンピュータからの接続を許可する (セキュリティのレベルは低くなります)(L)]
- [ネットワーク レベル認証でリモート デスクトップを実行しているコンピュータからのみ接続を許可する (セキュリティのレベルは高くなります)(N)]

管理用リモートデスクトップまたはリモートデスクトップへ管理サーバコンポーネントまたは管理対象マシンコンポーネントをインストールする場合、通常通りのインストール手順になります。次節以降を参照してインストールを実行してください。

Windows Server 2003 / Windows Server 2008 のターミナルサーバー環境へ管理サーバコンポーネントまたは管理対象マシンコンポーネントをインストールする場合には、以下の手順に従って SigmaSystemCenter のインストーラを起動し、インストールを実行してください。

### ◆ Windows Server 2003 の場合

1. SigmaSystemCenter 2.0 CD-R (1/2) を DVD/CD-RW ドライブに挿入します。
2. [スタート] メニューから [コントロールパネル (C)] - [プログラムの追加と削除] を選択します。
3. 「プログラムの追加と削除」画面が表示されます。左ペインから [プログラムの追加 (N)] をクリックします。
4. [CD または フロッピー (F)] をクリックします。
5. 「フロッピー ディスクまたは CD-ROM からのインストール」画面が表示されます。[次へ(N)] をクリックします。
6. 「インストールプログラムの実行」画面が表示されます。SigmaSystemCenter のインストーラ (ManagerSetup.exe、または、AgentSetup.exe) を指定し、[次へ(N)] をクリックします。SigmaSystemCenter のインストーラが起動します。
7. 以降、通常と同じ手順でインストールを実行します。

通常のインストールの詳細については、「2.3 管理サーバコンポーネントを個別にインストールする」および「2.6 Windows (x86 / x64) 管理対象マシンへインストーラ画面からインストールする」を参照してください。

なお、インストール中に.NET Framework 3.0 のインストール完了後、システムの再起動を促すダイアログボックスが表示され、システムを再起動した場合、システム再起動後に自動的にインストーラが起動し、「SigmaSystemCenter」メイン画面が表示されますが、この画面からインストールを行わないでください。いったん「SigmaSystemCenter」メイン画面を閉じてインストーラを終了し、2 以降の手順に従って再度インストーラを起動ください。

8. SigmaSystemCenter のインストールが完了すると、「インストール終了後」画面が表示されます。[次へ(N)] をクリックします。
9. 「管理者インストールの完了」画面が表示されます。[完了] をクリックします。

## ◆ Windows Server 2008 の場合

1. SigmaSystemCenter 2.0 CD-R (1/2) を DVD/CD-RW ドライブに挿入します。
2. [スタート] メニューから [コントロールパネル (C)] - [ターミナル サーバーへのアプリケーションのインストール] を選択します。
3. 「フロッピー ディスクまたは CD-ROM からのインストール」画面が表示されます。[次へ(N)] をクリックします。
4. 「インストールプログラムの実行」画面が表示されます。SigmaSystemCenter のインストーラ (ManagerSetup.exe、または、AgentSetup.exe) を指定し、[次へ(N)] をクリックします。SigmaSystemCenter のインストーラが起動します。
5. 以降、通常と同じ手順でインストールを実行します。  
通常のインストールの詳細については、「2.3 管理サーバコンポーネントを個別にインストールする」および「2.6 Windows (x86 / x64) 管理対象マシンへインストーラ画面からインストールする」を参照してください。  
なお、インストール中に .NET Framework 3.0 のインストール完了後、システムの再起動を促すダイアログボックスが表示され、システムを再起動した場合、システム再起動後に自動的にインストーラが起動し、「SigmaSystemCenter」メイン画面が表示されますが、この画面からインストールを行わないでください。いったん「SigmaSystemCenter」メイン画面を閉じてインストーラを終了し、2以降の手順に従って再度インストーラを起動ください。
6. SigmaSystemCenter のインストールが完了すると、「管理者インストールの完了」画面が表示されます。[完了] をクリックします。

以上でターミナルサーバーへのインストールは完了です。

---

**注:** ターミナルサービスのクライアントからターミナルサービスのマシンに対してインストール操作を行うことはできませんが、SigmaSystemCenter CD-R は、サーバマシンの CD ドライブに挿入しておく必要があります。

※UNC パスもしくはネットワークドライブを割り当てたドライブ上で、インストーラは実行できません。

---

## 2.2. 管理サーバコンポーネントのインストール

次節以降では、管理サーバコンポーネントをインストールする手順を説明します。

管理サーバコンポーネントを個別にインストールする場合は「2.3 管理サーバコンポーネントを個別にインストールする」を参照してください。

すべての管理サーバコンポーネントを一括でインストールする場合は「2.4 管理サーバコンポーネントを一括でインストールする」を参照してください。

## 2.3. 管理サーバコンポーネントを個別にインストールする

管理サーバへ管理サーバコンポーネントを個別にインストールする手順を説明します。

オプション、パラメータを指定せずにインストーラ (ManagerSetup.exe) を起動すると、各コンポーネントをインストール、アンインストールするためのインストールメニューを表示します。

コンポーネントを個別にインストールする場合、本節を参照し、必要なコンポーネントをインストールしてください。

### 2.3.1. インストールを実行するには

1. SigmaSystemCenter 2.0 CD-R (1/2) を DVD/CD-RW ドライブに挿入します。
2. コマンドプロンプトで以下のコマンドを実行し、インストーラを起動します。

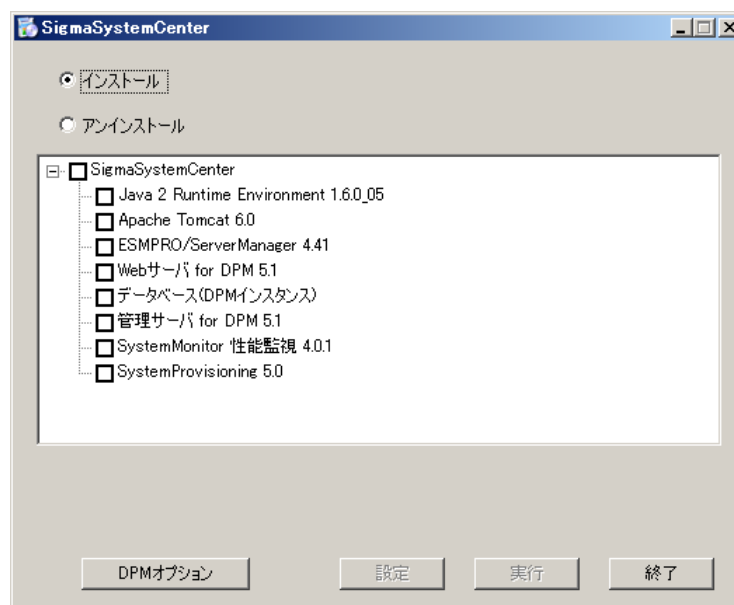
インストール *CD-R*: ¥ManagerSetup.exe

3. インストーラが起動し、「SigmaSystemCenter」メイン画面が表示されます。

[インストール] をクリックし、インストールするコンポーネントのチェックボックスをオンにします。本バージョンのコンポーネントが既にインストールされている場合は選択できません。選択完了後、[設定] をクリックします。

**注:** インストール先フォルダ、SQL Server 2005 Express Edition のインスタンス名、インストール先フォルダ、データベースのインストール先フォルダ、および Windows ファイアウォールの選択については、既定値が設定されています。

既定値を変更する場合は、[実行] をクリックしてインストールを開始する前に、[設定] をクリックして「設定」画面から変更した後、[OK] をクリックしてください。

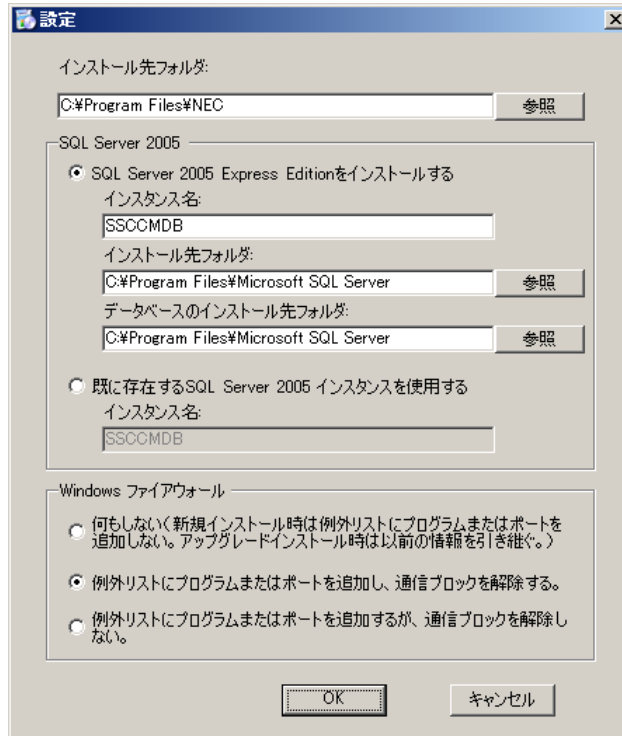


## 2 インストールを実行する

|                                   |  |
|-----------------------------------|--|
| <b>インストール</b>                     | インストールを行います。   |
| <b>アンインストール</b>                   | アンインストールを行います。   |
| <b>SigmaSystemCenter</b>          | この項目を選択した場合、以下の選択可能なすべてのコンポーネントが自動的に選択されます。  |
| <b>Java 2 Runtime Environment</b> | Java 2 Runtime Environmentをインストールします。  |
| <b>Apache Tomcat</b>              | Apache Tomcatをインストールします。<br>この項目を選択した場合、[Java 2 Runtime Environment] も自動的に選択されます。                                    |
| <b>ESMPRO/ServerManager</b>       | ESMPRO/ServerManagerをインストールします。  |
| <b>Web サーバ for DPM</b>            | Webサーバ for DPMをインストールします。<br>この項目を選択した場合、[Java 2 Runtime Environment]、[Apache Tomcat] も自動的に選択されます。                   |
| <b>データベース (DPM インスタンス)</b>        | データベース (DPMインスタンス) をインストールします。   |
| <b>管理サーバ for DPM</b>              | 管理サーバfor DPMをインストールします。<br>この項目を選択した場合、[Java 2 Runtime Environment] も自動的に選択されます。                                     |
| <b>SystemMonitor 性能監視</b>         | SystemMonitor性能監視をインストールします。   |
| <b>SystemProvisioning</b>         | SystemProvisioningをインストールします。<br>IIS 6.0以降がインストールされている場合のみ選択可能です。<br>この項目を選択した場合、[ESMPRO/ServerManager] も自動的に選択されます。 |
| <b>[DPM オプション]</b>                | 「DeploymentManager セットアップ」画面を表示します。  |
| <b>[設定]</b>                       | 設定画面を表示します。<br>インストールするコンポーネントを選択するまで選択不可です。   |
| <b>[実行]</b>                       | インストールを実行します。<br>インストールするコンポーネントを選択するまで選択不可です。   |
| <b>[終了]</b>                       | メイン画面を閉じます。  |



4. 「設定」画面が表示されます。  
必要に応じて各項目を選択 / 入力し、[OK] をクリックします。



|  |   |
|--|---|
| <p><b>インストール先フォルダ</b></p>  | <p>インストール先フォルダを指定します。<br/>255文字まで入力できます。<br/>ただし、ESMPRO/ServerManagerをインストールする場合は、Unicode特有の文字を含むフォルダは指定しないでください。<br/>既定値は (%Program Files%\%NEC) です。<br/>この項目はメイン画面で [ESMPRO/ServerManager]、[SystemMonitor性能監視]、[SystemProvisioning] のいずれかが選択された場合にのみ、入力可能です。</p>                                |
| <p><b>SQL Server 2005</b></p> <p><b>SQL Server 2005 Express Editionをインストールする</b></p> <p><b>インスタンス名</b></p> | <p>以下の項目はメイン画面で [SystemMonitor性能監視]、[SystemProvisioning] が選択された場合にのみ、選択 / 入力可能です。</p> <p>ローカルマシン上に新規にSQL Server 2005 Express Editionをインストールします。この項目を選択した場合、以下のSQLの情報が指定できます。<br/>Windows認証モードでインストールされます。<br/>既定で選択されています。</p> <p>SQLのインスタンス名を指定します。<br/>20文字まで指定できます。<br/>既定値は (SSCCMDB) です。</p> |

## 2 インストールを実行する

|  |  |  |
|--|--|--|
|  | <b>インストール先フォルダ</b>   | SQLのインストール先フォルダを指定します。<br>255文字まで入力できます。<br>既定値は (%Program Files%\Microsoft SQL Server) です。  |
|  | <b>データベースのインストール先フォルダ</b>  | SQLのデータベースのインストール先フォルダを指定します。<br>255文字まで入力できます。<br>既定値は (%Program Files%\Microsoft SQL Server) です。<br>実際のインストール先パスは "指定したインストール先フォルダ\MSSQL.n\MSSQL\Data" になります (MSSQL.n はインスタンスIDです。n にはインストールされるコンポーネントの序号が入ります)。 |
|  | <b>既に存在する SQL Server 2005 インスタンスを使用する</b>                                    | ローカルマシン上にSQL Server 2005がインストールされている場合、既存のインスタンスにデータベースを作成します。この項目を選択した場合、以下のSQLの情報が指定できます。  |
|  | <b>インスタンス名</b>   | SQLのインスタンス名を指定します。<br>20文字まで入力できます。<br>既定値は (SSCCMDB) です。  |
|  | <b>Windows ファイアウォール</b>  | Windowsファイアウォールの指定を行います。以下の値を指定できます。<br>この項目はメイン画面で [Webサーバ for DPM]、[データベース (DPMインスタンス)]、[管理サーバ for DPM]、[SystemMonitor性能監視]、[SystemProvisioning] が選択された場合にのみ、選択可能です。   |
|  | <b>何もしない (新規インストール時は例外リストにプログラムまたはポートを追加しない。アップグレードインストール時には以前の情報を引き継ぐ。)</b> | この項目を選択した場合、新規インストール時に例外リストにプログラムまたはポートを追加しません。後で手動で例外リストにプログラムまたはポートを追加する必要があります。   |
|  | <b>例外リストにプログラムまたはポートを追加し、通信ブロックを解除する。</b>                                    | この項目を選択した場合、例外リストにプログラムまたはポートを追加し、通信ブロックを解除します。既定で選択されています。  |
|  | <b>例外リストにプログラムまたはポートを追加するが、通信ブロックを解除しない。</b>                                 | この項目を選択した場合、例外リストにプログラムまたはポートを追加しますが、通信ブロックは解除しません。後で手動で通信ブロックを解除する必要があります。  |
|  | <b>[OK]</b>  | 設定を保存して画面を閉じ、メイン画面に戻ります。   |
|  | <b>[キャンセル]</b>   | 設定を保存せずに画面を閉じ、メイン画面に戻ります。  |

---

**注:**

- ・「設定」画面の [Windowsファイアウォール] の指定で [何もしない] を選択した場合、インストール完了後に手動で例外リストにプログラムまたはポートを追加する必要があります。詳細は、「付録 A ネットワークとプロトコル」を参照してください。
  - ・ESMPRO/ServerManagerは、「設定」画面で [Windowsファイアウォール] の指定を行なうことはできないため、インストール完了後に手動で例外リストにポートを追加する必要があります。詳細は、「付録 A ネットワークとプロトコル」を参照してください。
- 

**注:**

- ・SQL のインスタンスが既に存在している状態で、[SQL Server 2005 Express Edition をインストールする] を選択し、[OK] をクリックした場合、「指定されたインスタンスは既に存在しています。」というメッセージが表示され、設定画面に戻ります。既存のインスタンスを使用する場合、[既に存在する SQL Server 2005 インスタンスを使用する] を選択してください。
  - ・SQL のインスタンスが存在していない状態で、[既に存在する SQL Server 2005 インスタンスを使用する] を選択し、[OK] をクリックした場合、「指定されたインスタンスは存在しません。」というメッセージが表示され、設定画面に戻ります。インスタンスをインストールする場合、[SQL Server 2005 Express Edition をインストールする] を選択してください。
- 

5. 「SigmaSystemCenter」メイン画面に戻ります。[実行] をクリックします。
6. インストール開始確認のダイアログボックスが表示されます。[はい(Y)] をクリックします。
7. 選択したコンポーネントのインストールが開始されます。

「SigmaSystemCenter」メイン画面でインストールするコンポーネントにデータベース (DPM インスタンス)、SystemMonitor 性能監視、SystemProvisioning のいずれかを選択し、かつ、.NET Framework 3.0 がインストールされていない場合、最初に .NET Framework 3.0 がインストールされます。.NET Framework 3.0 のインストール終了後、システムの再起動が必要な場合はシステムの再起動を促すダイアログボックスが表示されます。[はい(Y)] をクリックした場合、自動的にシステムの再起動が実施されます。

[いいえ(N)] をクリックした場合、インストーラが終了しますので、手動でシステムの再起動を行ってください。コンポーネントをインストールする前に必ずシステムの再起動を行ってください。

システムの再起動後、「SigmaSystemCenter」メイン画面が表示されます。再度コンポーネントを選択し、[実行] をクリックしてください。

SQL Server 2005 Express Edition がインストールされるよう設定した場合、SQL Server 2005 Express Edition がインストールされます。このインストールは完了まで数分かかります。

.NET Framework 3.0 および SQL Server 2005 Express Edition のインストール完了後、各コンポーネントのインストールを開始します。各コンポーネントのインストールに関しては、次項以降の各コンポーネントの項を参照してください。

### 2.3.2. Java 2 Runtime Environment のインストール

Java 2 Runtime Environment を選択した場合、Java 2 Runtime Environment のインストールが開始されます。

Java 2 Runtime Environment のインストール画面が表示されますが、操作はありません。

### 2.3.3. Apache Tomcat のインストール

Apache Tomcat を選択した場合、Apache Tomcat のインストールが開始されます。

Apache Tomcat のインストール画面が表示されますが、操作はありません。

### 2.3.4. ESMPRO/ServerManager のインストール

ESMPRO/ServerManager を選択した場合、ESMPRO/ServerManager のインストールが開始されます。以下の手順に従い、インストールを進めてください。

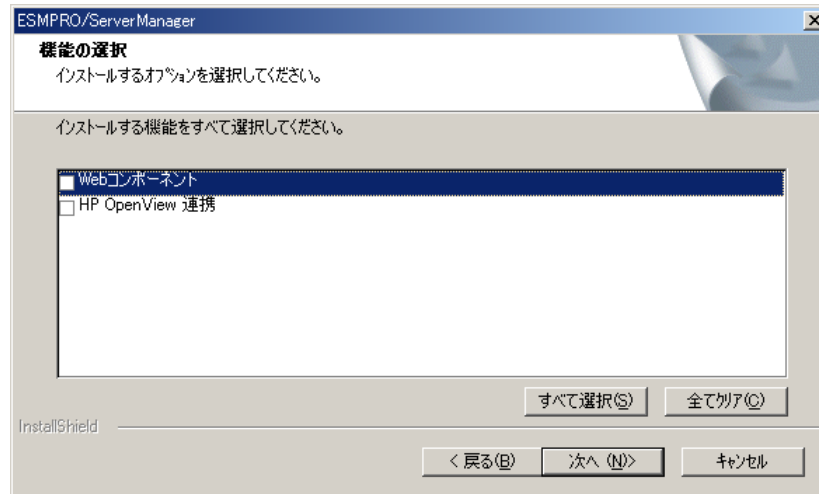
---

**注:** このコンポーネントを選択した場合、選択したすべてのコンポーネントのインストールが完了するとシステムの再起動を促すダイアログボックスが表示されます。すべてのインストールが終了し、「SigmaSystemCenter」メイン画面を閉じた後システムを再起動してください。

---

1. 「ユーザ情報」ウィザードが表示されます各項目を入力し、[次へ(N)] をクリックします。

2. 環境によっては、「機能の選択」ウィザードが表示されることがあります。インストールする機能のチェックボックスをオンにし、[次へ(N)] をクリックします。



|                       |   |
|-----------------------|---|
| <b>Web コンポーネント</b>    | WebブラウザからESMPRO/ServerManagerへのアクセスを有効にします。Internet Information Servicesがインストールされている場合に表示され選択可能となります。 |
| <b>HP OpenView 連携</b> | HP OpenViewとの連携を行います。HP OpenView Network Node Managerが管理サーバにインストールされている場合に表示され選択可能となります。              |

3. 「インストール先の選択」ウィザードが表示されます。インストール先のフォルダを指定し、[次へ(N)] をクリックします。

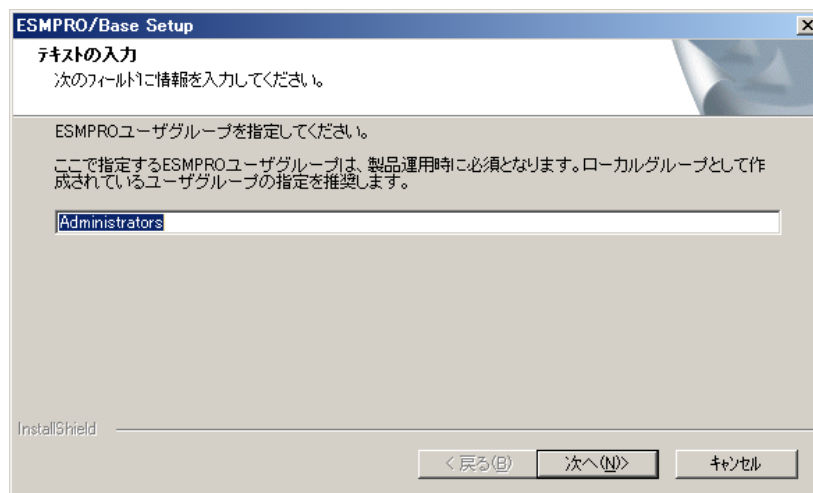
**注:** インストール先のフォルダに Unicode 特有の文字を含むフォルダは指定しないでください。

4. 「ファイルコピーの開始」ウィザードが表示されます。[次へ(N)] をクリックします。

## 2 インストールを実行する

---

5. 「テキストの入力」ウィザードが表示されます。ESMPRO ユーザグループを入力し、[次へ(N)] をクリックすると、ESMPRO/ServerManager のインストールが開始されます。



インストール中に、自動でウィンドウがいくつか開き、閉じます。

6. インストールが正常に終了すると、インストール完了のダイアログボックスが表示されます。[OK] をクリックします。

以上で ESMPRO/ServerManager のインストールは完了です。

### 2.3.5. Web サーバ for DPM のインストール

Web サーバ for DPM を選択した場合、Web サーバ for DPM のインストールが開始されます。以下の手順に従い、インストールを進めてください。

1. 「インストール先の選択」ウィザードが表示されます。[次へ(N)] をクリックします。

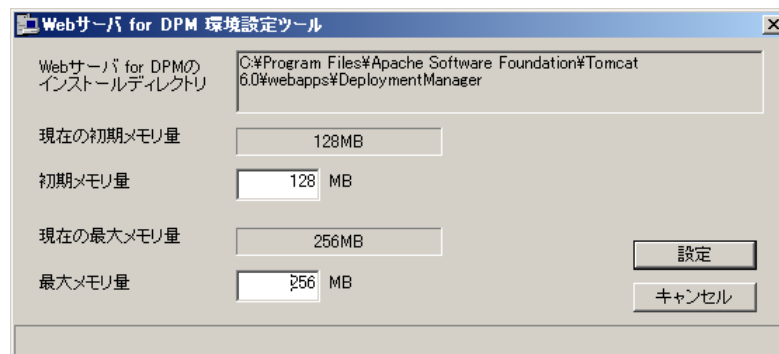
**注:** インストール先のフォルダは変更しないでください。

フォルダの既定値を変更し、インストールした場合、Web サーバ for DPM が正常に動作しない可能性があります。この場合、Web サーバ for DPM をアンインストールし、再度インストールする必要があります。

2. インストール中に「Web サーバ for DPM 環境設定ツール」ダイアログボックスが表示されます。Web サーバ for DPM が使用するメモリを 128~512MB の範囲で入力し、[設定] をクリックします。

**注:** 通常の使用では、初期メモリ量を「128」MB から変更する必要はありません。

Apache Tomcat 上で作動するソフトウェア (Web サーバ for DPM を除く) の初期メモリ量が 128MB ではない場合、この値を変更してください。



3. Web サーバサービス (Apache Tomcat) の再起動を要求するダイアログボックスが表示されます。[はい(Y)] をクリックします。
4. 「Web サーバサービス (Apache Tomcat) の起動に成功しました。」というダイアログボックスが表示されます。[OK] をクリックします。
5. インストールが正常に終了すると、「InstallShield Wizard の完了」ウィザードが表示されます。[完了] をクリックします。

以上で Web サーバ for DPM のインストールは完了です。

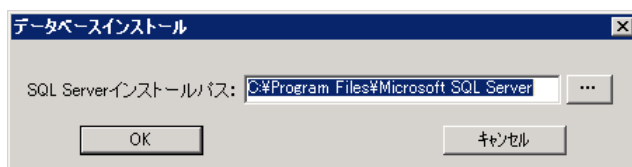
## 2 インストールを実行する

Web サーバ for DPM をインストールした場合、Java Plug-in の設定が必要です。選択したすべてのコンポーネントのインストールが完了した後、「DeploymentManager ユーザーズガイド導入編」の「2.1 Web サーバ for DPM のインストール」の「(13)～(20)」を参照し、Java Plug-in の設定を行ってください。

### 2.3.6. データベース (DPM インスタンス) のインストール

データベース (DPM インスタンス) を選択した場合、データベース (DPM インスタンス) のインストールが開始されます。以下の手順に従い、インストールを進めてください。

1. 「データベースインストール」ダイアログボックスが表示されます。既定値から変更する場合、インストール先のフォルダを指定し、[OK] をクリックします。



2. インストールが開始されます。インストール中に、自動でウィンドウがいくつか開き、閉じます。インストールは完了まで数分かかります。
3. インストールが正常に終了すると、インストール完了のダイアログボックスが表示されます。[OK] をクリックします。

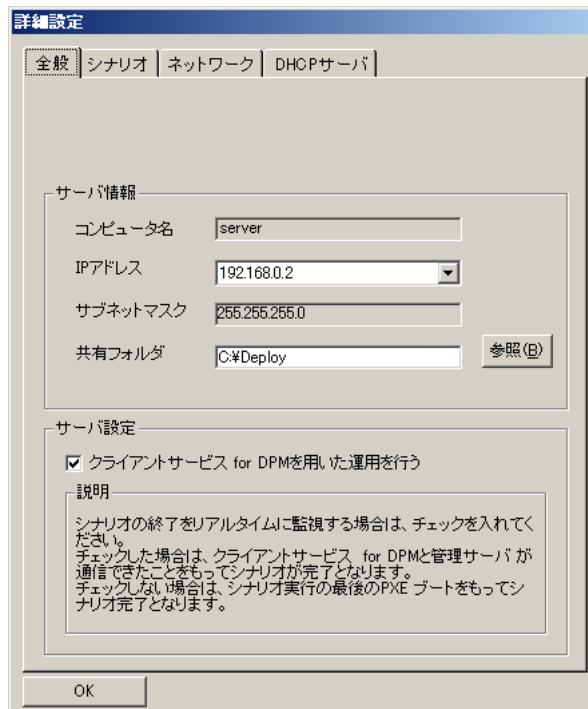
以上でデータベース (DPM インスタンス) のインストールは完了です。

### 2.3.7. 管理サーバ for DPM のインストール

管理サーバ for DPM を選択した場合、管理サーバ for DPM のインストールが開始されます。以下の手順に従い、インストールを進めてください。

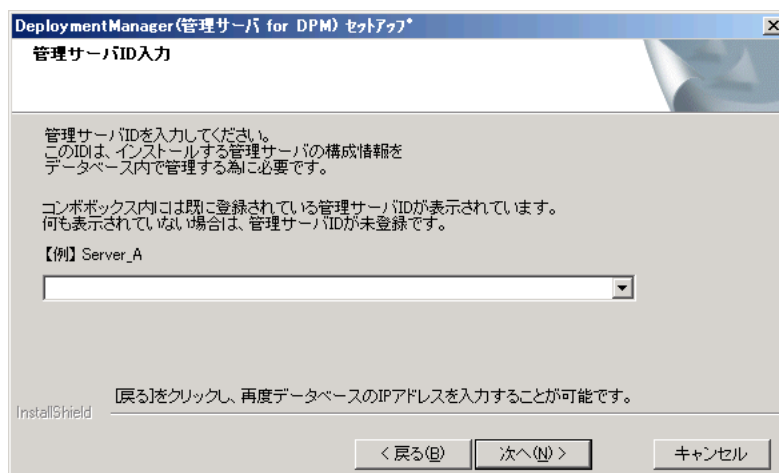
1. 「DeploymentManager セットアップへようこそ」ウィザードが表示されます。[次へ(N)] をクリックします。
2. 「使用許諾契約」ウィザードが表示されます。使用許諾契約の内容を確認のうえ、同意される場合は、[はい(Y)] をクリックします。
3. 「インストール先の選択」ウィザードが表示されます。既定値から変更する場合、インストール先のフォルダを指定し、[次へ(N)] をクリックします。
4. 「DeploymentManager の管理者パスワード設定」ダイアログボックスが表示されます。管理者パスワードを入力し、[OK] をクリックします。
5. 「詳細設定」画面が表示されます。各項目を選択 / 入力し、[OK] をクリックします。





6. 「データベースサーバ IP アドレス入力」ウィザードが表示されます。データベース (DPM インスタンス) がインストールされたサーバの IP アドレスを入力し、[次へ (N)] をクリックします。
7. 「管理サーバ ID 入力」ウィザードが表示されます。任意の ID を入力し、[次へ (N)] をクリックします。

**注:** 既に管理サーバIDが登録されているデータベース (DPM インスタンス) がインストールされたサーバの IP アドレスを指定したにも関わらず、プルダウンボックス内に管理サーバ ID が表示されていない場合は、データベースへの接続に失敗した可能性があります。画面の指示に従い、再度データベース (DPM インスタンス) がインストールされたサーバの IP アドレスを入力してください。



8. インストールが正常に終了すると、「InstallShield Wizard の完了」ウィザードが表示されます。[完了] をクリックします。

以上で管理サーバ for DPM のインストールは完了です。

### 2.3.8. SystemMonitor 性能監視のインストール

SystemMonitor 性能監視を選択した場合、SystemMonitor 性能監視のインストールが開始されます。

インストール中の操作はありません。

### 2.3.9. SystemProvisioning のインストール

SystemProvisioning を選択した場合、SystemProvisioning のインストールが開始されます。

インストール中の操作はありません。

---

**注:** このコンポーネントのインストール中にWindowsファイアウォールの例外登録失敗のメッセージが表示される場合があります。メッセージが表示された場合の詳細と対処方法については、「付録 B インストール関連のトラブルシューティング」を参照してください。

---

---

**注:** このコンポーネントを選択した場合、選択したすべてのコンポーネントのインストールが完了するとシステムの再起動を促すダイアログボックスが表示されます。すべてのインストールが終了し、「SigmaSystemCenter」メイン画面を閉じた後システムを再起動してください。

---

Windows Server 2003 に SystemProvisioning をインストールした場合、IIS の設定が必要です。選択したすべてのコンポーネントのインストールが完了した後、以下の手順に従い、IIS の設定を行ってください。

1. [スタート] メニューから [プログラム] - [管理ツール] - [インターネットインフォメーションサービス (IIS) マネージャ] を選択し、IIS を起動します。
2. 「インターネットインフォメーションサービス (IIS) マネージャ」画面が表示されます。左ペインで [Web サービス拡張] を選択し、[ASP.NET v2.0.50727] の状態を [許可] に設定します。
3. [Web サイト] - [既定の Web サイト] をダブルクリックします。左ペインに表示される [Provisioning] を右クリックし、[プロパティ] を選択します。
4. 「Provisioning のプロパティ」画面が表示されます。[仮想ディレクトリ] タブを選択し、[スクリプト ソース アクセス] チェックボックスをオンにします。
5. [OK] をクリックします。

### 2.3.10. インストールを完了するには

1. 選択したすべてのコンポーネントのインストールが完了すると、インストール完了のダイアログボックスが表示されます。[OK] をクリックします。
2. ESMPRO/ServerManager あるいは SystemProvisioning を選択した場合は、システムの再起動を促すダイアログボックスが表示されます。再起動を促すダイアログボックスが表示された場合、インストーラを終了した後システムを再起動する必要があります。[OK] をクリックしてください。
3. 「SigmaSystemCenter」メイン画面が表示されます。[終了] をクリックしてください。インストーラが終了します。
4. システムの再起動を促すダイアログボックスが表示された場合は、システムを再起動してください。

以上で管理サーバコンポーネントの個別のインストールは完了です。

### 2.3.11. 管理サーバ for DPM (HP-UX) をインストールする

管理サーバ for DPM (HP-UX) は、SigmaSystemCenter のインストーラからインストールすることはできません。

SigmaSystemCenter 2.0 CD-R (2/2) から個別にインストールする必要があります。

インストール手順の詳細については、「DeploymentManager (HP-UX 版) ユーザーズガイド 導入編」の「2.2 管理サーバマシンのセットアップ (Windows プラットフォーム編)」を参照してください。

---

**注:** 管理サーバ for DPM (HP-UX) を管理サーバと同一マシンにインストールする場合、SigmaSystemCenter 2.0 CD-R (1/2) の SigmaSystemCenter のインストーラからインストールした Java 2 Runtime Environment、Apache Tomcat を使用してください。

管理サーバ for DPM (HP-UX)、および、DPM (HP-UX) コンソールは、SigmaSystemCenter 2.0 CD-R (1/2) に同梱の Java Runtime Environment 6 Update 5 上でも動作します。

---

### 2.3.12. SIGMABLADE controller をインストールする

SIGMABLADE controller は、SigmaSystemCenter のインストーラからインストールすることはできません。

SigmaSystemCenter SIGMABLADE controller CD-R から個別にインストールする必要があります。

インストール手順の詳細については、「SIGMABLADE controller セットアップカード」を参照してください。

---

**注:** SIGMABLADE controller 1.1 を Windows Server 2008 へインストールする場合は、以下の手順に従ってください (SIGMABLADE controller 1.0 については、Windows Server 2008 へのインストールをサポートしていません)。

1. SigmaSystemCenter SIGMABLADE controller 1.1CD-ROM を CD ドライブへ挿入します。
2. [スタート] メニューから [ファイル名を指定して実行(R)] をクリックし、“cmd” を起動します。
3. CD ドライブへ移動します (ここでは E ドライブが CD ドライブとします)。

> E:

4. 以下のコマンドを実行します。

```
Setup.exe /i Setup¥Japanese¥SbcInstaller.msi  
ADDLOCAL=ALL PIDKEY= ライセンスキー (※1) DBINSTANCE=SQL  
Server インスタンス名(※2) /q
```

※1 ライセンスキーは、SIGMABLADE controller のソフトウェアライセンスキーシートに記載されています。記載内容にはハイフン (-) が含まれていますが、コマンドで指定する値はハイフン (-) を除いた 24 文字を指定します。

※2 SQL Server インスタンス名に指定する値については、以下の補足事項および、「SIGMABLADE controller セットアップカード」を参照してください。

```
例) Setup.exe /i Setup¥Japanese¥SbcInstaller.msi ADDLOCAL=ALL  
PIDKEY=123456789ABCDEF123456789  
DBINSTANCE=localhost¥SSCCMDB /q
```

---

**注:** SIGMABLADE controller で SystemProvisioning および SystemMonitor 性能監視と共通のインスタンスを使用する場合は、SQL Server 2005 Express Edition をインストールする際に、SystemProvisioning、SystemMonitor 性能監視と共通のインスタンス名を指定してください。共通インスタンス名の既定値は "SSCCMDB" です。

---

## 2.4. 管理サーバコンポーネントを一括でインストールする

管理サーバへ管理サーバコンポーネントを一括でインストールする手順を説明します。  
インストールオプションとパラメータを指定してインストールを開始すると、各コンポーネントはインストーラ画面表示なしでインストールされます。  
コンポーネントを一括でインストールする場合、本節を参照し、インストールしてください。

### 2.4.1. インストールを実行するには

1. SigmaSystemCenter 2.0 CD-R (1/2) を DVD/CD-RW ドライブに挿入します。
2. コマンドプロンプトで以下のコマンドを実行し、インストールを開始します。

---

**注:** オプション “MANAGERPASSWORD” および “MANAGEMENTSERVERIP” は必ず指定してください。このオプションが指定されていない場合、インストールは実施されず、中断します。この場合、オプションを正しく指定して再度実行してください。

---

```
インストール CD-R:¥ManagerSetup.exe /i [INSTALLDIR=Install  
Path] [INSTANCENAME=Instance Name] [FIREWALL=x]  
MANAGERPASSWORD=Password  
MANAGEMENTSERVERIP=xxx.xxx.xxx.xxx
```

```
例 ) D:¥ ManagerSetup.exe /i INSTALLDIR="C:¥Program Files¥NEC"  
INSTANCENAME="SSCCMDB" FIREWALL=1 MANAGERPASSWORD="abcdef"  
MANAGEMENTSERVERIP="192.168.1.1"
```

## 2 インストールを実行する

| オプション              | 説明  |
|--------------------|---|
| /i                 | 一括でインストールを行います。   |
| INTSTALLDIR        | インストール先パスを指定します。<br>255文字まで指定できます。<br>ただし、ESMPRO/ServerManagerをインストールする場合は、Unicode特有の文字を含むフォルダは指定しないでください。<br>このオプションが指定されていない場合、既定値 (%Program Files%\NEC) が使用されます。 |
| INSTANCENAME       | SQLのインスタンス名を指定します。<br>20文字まで指定できます。<br>このオプションが指定されていない場合、既定値 (SSCCMDB) が使用されます。  |
| FIREWALL           | Windowsファイアウォールの指定を行います。xに以下のいずれかの値を指定します。<br>このオプションが指定されていない場合、既定値 (1) が使用されます。   |
| 0                  | このオプションを選択した場合、新規インストール時に例外リストにプログラムまたはポートを追加しません。<br>後で手動で例外リストにプログラムまたはポートを追加する必要があります。   |
| 1                  | このオプションを選択した場合、例外リストにプログラムまたはポートを追加し、通信ブロックを解除します。<br>既定で選択されています。  |
| 2                  | このオプションを選択した場合、例外リストにプログラムまたはポートを追加しますが、通信ブロックは解除しません。<br>後で手動で通信ブロックを解除する必要があります。  |
| MANAGERPASSWORD    | 管理サーバ for DPMの管理者用パスワードを指定します (必須)。<br>15文字まで指定できます。  |
| MANAGEMENTSERVERIP | 管理サーバ for DPMのIPアドレスを指定します (必須)。  |

### 注:

- ・ Windowsファイアウォールの指定オプション "FIREWALL" に "0" を指定した場合、インストール完了後に手動で例外リストにプログラムまたはポートを追加する必要があります。詳細は、「付録 A ネットワークとプロトコル」を参照してください。
- ・ ESMPRO/ServerManagerは、Windowsファイアウォールの指定を行なうことはできないため、インストール完了後に手動で例外リストにポートを追加する必要があります。詳細は、「付録 A ネットワークとプロトコル」を参照してください。

オプション “/” が指定されていない場合、「2.3.1 インストールを実行するには」内の「SigmaSystemCenter」メイン画面が表示されます。この場合、個別インストールとなります。個別インストールを進めるか、「SigmaSystemCenter」メイン画面を閉じ、一括インストールを再度実行してください。

### 3. インストールが開始されます。

.NET Framework 3.0 および SQL Server 2005 Express Edition がインストールされていない場合、最初に.NET Framework 3.0 および SQL Server 2005 Express Edition がインストールされます。

.NET Framework 3.0 のインストール終了後、システムの再起動が必要な場合はシステムの再起動を促すダイアログボックスが表示されます。[はい(Y)] をクリックした場合、自動的にシステムの再起動が実施されます。[いいえ(N)] をクリックした場合、インストールが終了しますので、手動でシステムの再起動を行ってください。コンポーネントをインストールする前に必ずシステムの再起動を行ってください。再起動後は、自動でインストールが続行されます。

.NET Framework 3.0 および SQL Server 2005 Express Edition のインストール完了後、以下の順番でコンポーネントのインストールが開始されます。

コンポーネントのインストール中に以下の画面が表示されますが、操作は不要で、インストール処理は継続して正常に動作します。

- 「Installing JRE」コマンドプロンプト画面
- 「Installing Service "Tomcat"」コマンドプロンプト画面
- ファイルの展開ダイアログボックス
- 「データベースをインストールしています。しばらくお待ちください。」というメッセージ
- 「インストール先ドライブ :%Program Files%Microsoft SQL Server%90%Tools%Binn%osql.exe」コマンドプロンプト画面
- 「Microsoft Visual C++ 2005 Redistribute」ダイアログボックス

インストールは完了まで数分かかります。

## 2 インストールを実行する

---

インストーラは下記の表の終了コードで終了します。インストーラは、インストーラのログと終了コードを以下のファイルに記録します。

- Windows Server 2003 の場合  
%USERPROFILE%\Local Settings\Application Data\SSC\SetupProvisioning.log
- Windows Server 2008 の場合  
%USERPROFILE%\AppData\Local\SSC\SetupProvisioning.log

---

**注:** 以下の方法でログを参照することができます。

1. コマンドプロンプトでカレントディレクトリを移動します。

```
cd "%USERPROFILE%\Local Settings\Application Data\SSC"
```

または

```
cd %USERPROFILE%\AppData\Local\SSC
```

2. メモ帳でログファイルを開きます。

```
notepad SetupProvisioning.log
```

---

|        | 終了コード |       | インストール対象コンポーネント            | 順番 |
|--------|-------|-------|----------------------------|----|
|        | 再起動不要 | 再起動必要 |                            |    |
| 成功     | 0     | 64    | —                          | —  |
| エラー ※1 | 32    | 96    | —                          | —  |
| エラー ※2 | 1     | 65    | Java 2 Runtime Environment | 1  |
| エラー ※2 | 2     | 66    | Apache Tomcat              | 2  |
| エラー ※2 | 3     | 67    | ESMPRO/ServerManager       | 3  |
| エラー ※2 | 4     | 68    | Webサーバ for DPM             | 4  |
| エラー ※2 | 5     | 69    | データベース (DPMインスタンス)         | 5  |
| エラー ※2 | 6     | 70    | 管理サーバ for DPM              | 6  |
| エラー ※2 | 7     | 71    | SystemMonitor性能監視          | 7  |
| エラー ※2 | 8     | 72    | SystemProvisioning         | 8  |

※1 オプション指定が不正の場合、.NET Framework3.0 / SQL Server 2005 Express Editionのインストールに失敗した場合、PVMサービスの停止に失敗した場合、およびIISがインストールされていない場合

※2 対象コンポーネントのインストールに失敗した場合

以上で管理サーバコンポーネントの一括インストールは完了です。  
一括インストールの完了後、サーバを再起動してください。



管理サーバコンポーネントの一括インストールでは、SystemProvisioning がインストールされるので、一括インストールが完了した後、IIS の設定が必要です。Windows Server 2003 にインストールした場合は、以下の手順に従い、IIS の設定を行ってください。

1. [スタート] メニューから [プログラム] - [管理ツール] - [インターネットインフォメーションサービス (IIS) マネージャ] を選択し、IIS を起動します。
2. 「インターネットインフォメーションサービス (IIS) マネージャ」画面が表示されます。左ペインで [Web サービス拡張] を選択し、[ASP.NET v2.0.50727] の状態を "許可" に設定します。
3. [Web サイト] - [既定の Web サイト] をダブルクリックします。左ペインに表示される [Provisioning] を右クリックし、[プロパティ] を選択します。
4. 「Provisioning のプロパティ」画面が表示されます。[仮想ディレクトリ] タブを選択し、[スクリプト ソース アクセス] チェックボックスをオンにします。
5. [OK] をクリックします。

また、管理サーバコンポーネントの一括インストールでは、Web サーバ for DPM がインストールされるので、一括インストールが完了した後、Java Plug-in の設定が必要です。「DeploymentManager ユーザーズガイド導入編」の「2.1 Web サーバ for DPM のインストール」の「(13)~(20)」を参照し、Java Plug-in の設定を行ってください。

## 2.5. 管理対象マシンコンポーネントのインストール

次節以降では、管理対象マシンコンポーネントをインストールする手順を説明します。

管理対象マシンの OS によって、インストールが必要となるコンポーネントおよびインストール方法が異なります。

ご利用の環境やインストール方法に応じて対応する節を参照してください。

- ◆ Windows (x86 / x64) 管理対象マシンの場合

管理対象マシンコンポーネントを、インストーラ画面からインストールする場合は「2.6 Windows (x86 / x64) 管理対象マシンへインストーラ画面からインストールする」を参照してください。

管理対象マシンコンポーネントを、インストーラ画面表示なしでインストールする場合は「2.7 Windows (x86 / x64) 管理対象マシンへインストーラ画面表示なしでインストールする」を参照してください。

- ◆ Windows (IPF) 管理対象マシンの場合

「2.8 Windows (IPF) 管理対象マシンへインストールする」を参照してください。

- ◆ Linux 管理対象マシンの場合

「2.9 Linux管理対象マシンへインストールする」を参照してください。

- ◆ HP-UX 管理対象マシンの場合

「2.10 HP-UX管理対象マシンへインストールする」を参照してください。

## 2.6. Windows (x86 / x64) 管理対象マシンへインストーラ画面からインストールする

OS が Windows (x86 / x64) の管理対象マシンへは、クライアントサービス for DPM をインストールする必要があります。インストーラ画面からクライアントサービス for DPM をインストールする手順を説明します。

オプション、パラメータを指定せずにインストーラ (AgentSetup.exe) を起動すると、コンポーネントをインストール、アンインストールするためのインストールメニューを表示します。

### 2.6.1. インストールを実行するには

1. SigmaSystemCenter 2.0 CD-R (1/2) を DVD/CD-RW ドライブに挿入します。
2. コマンドプロンプトで以下のコマンドを実行し、インストーラを起動します。

インストール CD-R: ¥AgentSetup.exe

---

**注:** NET Framework 1.1 以上がインストールされていない環境でインストーラ (AgentSetup.exe) を実行すると、エラーメッセージが表示される場合があります。メッセージが表示された場合の詳細と対処方法については、「付録 B インストール関連のトラブルシューティング」を参照してください。

---

3. インストーラが起動し、「SigmaSystemCenter」メイン画面が表示されます。  
[インストール] をクリックし、[SigmaSystemCenter]もしくは [クライアントサービス for DPM] のチェックボックスをオンにします。本バージョンのクライアントサービス for DPM が既にインストールされている場合は選択できません。選択完了後、[設定] をクリックします。

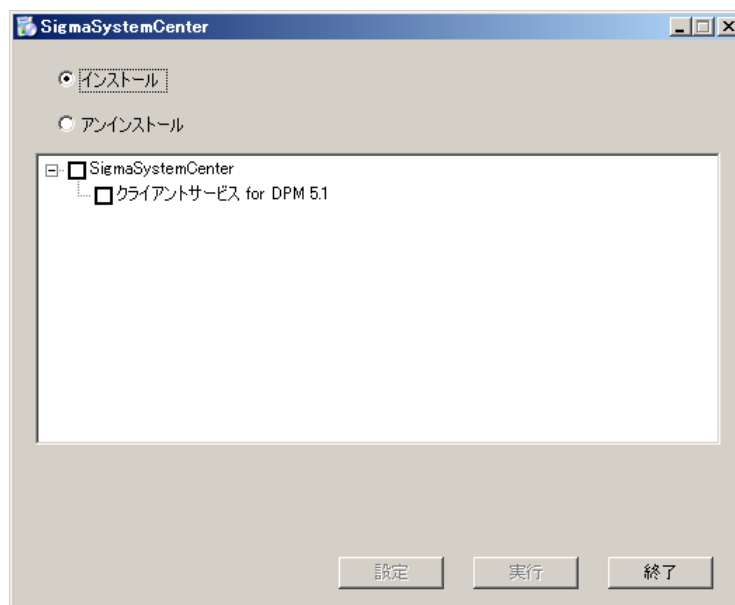
---

**注:** Windows ファイアウォールの選択については、既定値が設定されています。

既定値を変更する場合は、[実行] をクリックしてインストールを開始する前に、[設定] をクリックして「設定」画面から変更した後、[OK] をクリックしてください。

---

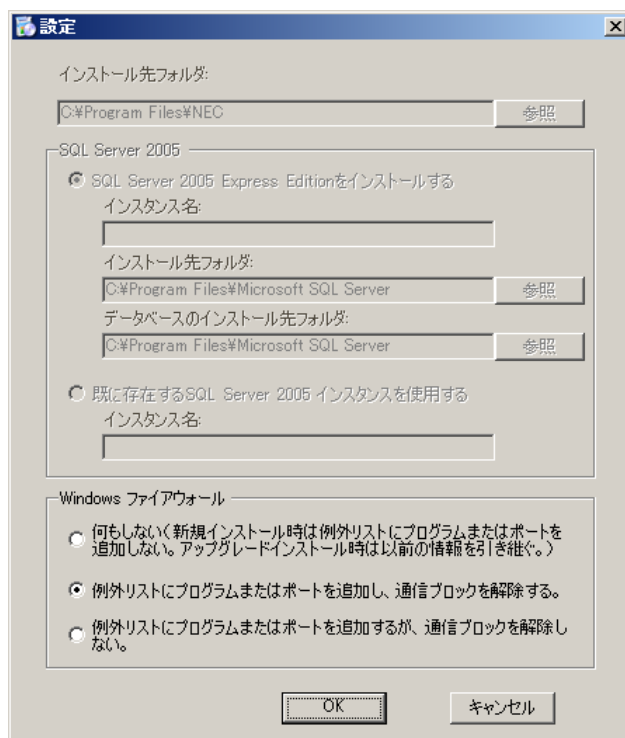
## 2 インストールを実行する



|                           |  |
|---------------------------|--|
| <b>インストール</b>             | インストールを行います。                                   |
| <b>アンインストール</b>           | アンインストールを行います。                                 |
| <b>SigmaSystemCenter</b>  | この項目を選択した場合、以下のすべてのコンポーネントが自動的に選択されます。         |
| <b>クライアントサービス for DPM</b> | クライアントサービス for DPMをインストールします。                  |
| <b>[設定]</b>               | 設定画面を表示します。<br>インストールするコンポーネントを選択するまで選択不可です。   |
| <b>[実行]</b>               | インストールを実行します。<br>インストールするコンポーネントを選択するまで選択不可です。 |
| <b>[終了]</b>               | メイン画面を閉じます。                                    |

## 4. 「設定」画面が表示されます。

[Windows ファイアウォール] グループボックス内の設定を選択し、[OK] をクリックします。



|   |  |
|---|--|
| インストール先フォルダ   | 入力不可です。  |
| SQL Server 2005   | このグループボックス内の項目は選択 / 入力不可です。  |
| Windows ファイアウォール  | Windowsファイアウォールの指定を行います。以下の値を指定できます。   |
| 何もしない (新規インストール時は例外リストにプログラムまたはポートを追加しない。アップグレードインストール時には以前の情報を引き継ぐ。) | この項目を選択した場合、新規インストール時に例外リストにプログラムまたはポートを追加しません。後で手動で例外リストにプログラムまたはポートを追加する必要があります。 |
| 例外リストにプログラムまたはポートを追加し、通信ブロックを解除する。                                    | この項目を選択した場合、例外リストにプログラムまたはポートを追加し、通信ブロックを解除します。既定で選択されています。                        |
| 例外リストにプログラムまたはポートを追加するが、通信ブロックを解除しない。                                 | この項目を選択した場合、例外リストにプログラムまたはポートを追加しますが、通信ブロックは解除しません。後で手動で通信ブロックを解除する必要があります。        |
| [OK]  | 設定を保存して画面を閉じ、メイン画面に戻ります。   |
| [キャンセル]   | 設定を保存せずに画面を閉じ、メイン画面に戻ります。  |

---

**注:** 「設定」画面の [Windowsファイアウォール] の指定で [何もしない] を選択した場合、インストール完了後に手動で例外リストにプログラムまたはポートを追加する必要があります。詳細は、「付録 A ネットワークとプロトコル」を参照してください。

---

5. 「SigmaSystemCenter」メイン画面に戻ります。[実行] をクリックします。
6. インストール開始確認のダイアログボックスが表示されます。[はい(Y)] をクリックします。
7. クライアントサービス for DPM のインストールが開始されます。クライアントサービス for DPM のインストールに関しては、次項を参照してください。

### 2.6.2. クライアントサービス for DPM のインストール

クライアントサービス for DPM のインストールが開始されます。以下の手順に従い、インストールを進めてください。

1. 「IPアドレスの入力」ウィザードが表示されます。[IP アドレス] テキストボックスに管理サーバ for DPM の IP アドレスを入力し、[次へ (N)] をクリックします。

---

**注:** 管理サーバ for DPM の IP アドレスが不明な場合や変更される場合は、一時的な IP アドレスを入力してください。空白のまま [次へ] をクリックし、インストールを進めることはできません。正しい IP アドレスは、DPM の Web コンソールを操作して管理サーバ for DPM から管理対象マシンのシャットダウン、またはリモートアップデートによるシナリオを実行すると設定されます。

---

2. インストールが正常に終了すると、「InstallShield Wizard の完了」ウィザードが表示されます。[完了] をクリックします。

以上でクライアントサービス for DPM のインストールは完了です。

### 2.6.3. インストールを完了するには

1. クライアントサービス for DPM のインストールが完了すると、インストール完了のダイアログボックスが表示されます。[OK] をクリックします。
2. 「SigmaSystemCenter」メイン画面が表示されます。[終了] をクリックしてください。インストーラが終了します。

以上で管理対象マシンコンポーネントのインストーラ画面からのインストールは完了です。

## 2.7. Windows (x86 / x64) 管理対象マシンへインストーラ画面表示なしでインストールする

OS が Windows (x86 / x64) の管理対象マシンへは、クライアントサービス for DPM をインストールする必要があります。インストーラ画面表示なしでクライアントサービス for DPM をインストールする手順を説明します。

インストールオプションとパラメータを指定してインストールを開始すると、インストーラ画面表示なしでクライアントサービス for DPM をインストールします。

### 2.7.1. インストールを実行するには

1. SigmaSystemCenter 2.0 CD-R (1/2) を DVD/CD-RW ドライブに挿入します。
2. コマンドプロンプトで以下のコマンドを実行し、インストールを開始します。

---

**注:** オプション “DPMSERVERIP” は必ず指定してください。このオプションが指定されていない場合、インストールは実施されず、中断します。この場合、オプションを正しく指定して再度実行してください。

---

---

**注:** NET Framework 1.1 以上がインストールされていない環境でインストーラ (AgentSetup.exe) を実行すると、エラーメッセージが表示される場合があります。詳細と対処方法については、「付録 B インストール関連のトラブルシューティング」を参照してください。

---

```
インストール CD-R:¥AgentSetup.exe /i [FIREWALL=x]  
DPMSERVERIP=xxx.xxx.xxx.xxx
```

例) D:¥AgentSetup.exe /i FIREWALL=1 DPMSERVERIP="192.168.1.1"

## 2 インストールを実行する

| オプション      | 説明  |
|------------|---|
| /i         | 一括でインストールを行います。   |
| FIREWALL   | Windowsファイアウォールの指定を行います。xに以下のいずれかの値を指定します。<br>このオプションが指定されていない場合、既定値 (1) が使用されます。         |
| 0          | このオプションを選択した場合、新規インストール時に例外リストにプログラムまたはポートを追加しません。<br>後で手動で例外リストにプログラムまたはポートを追加する必要があります。 |
| 1          | このオプションを選択した場合、例外リストにプログラムまたはポートを追加し、通信ブロックを解除します。<br>既定で選択されています。                        |
| 2          | このオプションを選択した場合、例外リストにプログラムまたはポートを追加しますが、通信ブロックは解除しません。<br>後で手動で通信ブロックを解除する必要があります。        |
| DPMSEVERIP | 管理サーバ for DPMのIPアドレスを指定します (必須)。  |

注: Windowsファイアウォールの指定オプション "FIREWALL" に "0" を指定した場合、インストール完了後に手動で例外リストにプログラムまたはポートを追加する必要があります。詳細は、「付録 A ネットワークとプロトコル」を参照してください。

オプション "/i" が指定されていない場合、「2.6.1 インストールを実行するには」内の「SigmaSystemCenter」メイン画面が表示されます。この場合、個別インストールとなります。個別インストールを進めるか、「SigmaSystemCenter」メイン画面を閉じ、一括インストールを再度実行してください。

3. クライアントサービス for DPM のインストールが開始されます。インストールは完了まで数分かかります。



インストーラは下記の表の終了コードで終了します。インストーラは、インストーラのログと終了コードを以下のファイルに記録します。

- Windows 2000 / Windows XP / Windows Server 2003 の場合  
%USERPROFILE%\Local Settings\Application Data\SSC\SetupProvisioning.log
- Windows Vista / Windows Server 2008 の場合  
%USERPROFILE%\AppData\Local\SSC\SetupProvisioning.log

**注:** 以下の方法でログを参照することができます。

1. コマンドプロンプトでカレントディレクトリを移動します。

```
cd "%USERPROFILE%\Local Settings\Application Data\SSC"
```

または

```
cd %USERPROFILE%\AppData\Local\SSC
```

2. メモ帳でログファイルをオープンします。

```
notepad SetupProvisioning.log
```

|        | 終了コード      | インストール対象コンポーネント    | 順番 |
|--------|------------|--------------------|----|
| 成功     | 0 (再起動不要)  | —                  | —  |
| エラー ※1 | 64 (再起動不要) | —                  | —  |
| エラー ※2 | 1 (再起動不要)  | クライアントサービス for DPM | 1  |

※1 オプション指定が不正の場合

※2 対象コンポーネントのインストールに失敗した場合

以上で管理対象マシンコンポーネントのインストーラ画面表示なしでのインストールは完了です。

## 2.8. Windows (IPF) 管理対象マシンへインストールする

OS が Windows (IPF) の管理対象マシンへは、クライアントサービス for DPM をインストールする必要があります。クライアントサービス for DPM をインストールする手順を説明します。

SigmaSystemCenter のインストーラは Windows (IPF) 管理対象マシンに対応していないため、クライアントサービス for DPM を Windows (IPF) 管理対象マシンにインストールする場合、SigmaSystemCenter 2.0 CD-R (1/2) から個別にインストールする必要があります。

「DeploymentManager セットアップ」画面 (DPM¥Launch.exe) を起動すると、DPM をセットアップするためのセットアップメニューを表示します。

### 2.8.1. インストールを実行するには

1. SigmaSystemCenter 2.0 CD-R (1/2) を DVD/CD-RW ドライブに挿入します。
2. コマンドプロンプトで以下のコマンドを実行し、「DeploymentManager セットアップ」画面を起動します。

インストール CD-R: ¥DPM¥Launch.exe

3. 「1.2.3 DPMオプション」内の「DeploymentManager セットアップ」画面が表示されます。
4. [クライアントサービス for DPM] アイコンをクリックします。
5. 「確認」ダイアログボックスが表示されます。[はい] をクリックします。
6. 「DeploymentManager クライアントサービスのインストール」ダイアログボックスが表示されます。[OK] をクリックします。
7. IP アドレス入力ダイアログボックスが表示されます。管理サーバ for DPM の IP アドレスを入力します。[OK] をクリックします。

---

**注:** 管理サーバ for DPM の IP アドレスが不明な場合や変更される場合は、一時的な IP アドレスを入力してください。空白のまま [次へ] をクリックし、インストールを進めることはできません。正しい IP アドレスは、DPM の Web コンソールを操作して管理サーバ for DPM から管理対象マシンのシャットダウン、またはリモートアップデートによるシナリオを実行すると設定されます。

---

8. インストールが正常に終了すると、インストール完了のダイアログボックスが表示されます。[OK] をクリックします。

以上でクライアントサービス for DPM のインストールは完了です。

## 2.9. Linux 管理対象マシンへインストールする

OSがLinuxの管理対象マシンへは、クライアントサービス for DPMをインストールする必要があります。クライアントサービス for DPMをインストールする手順を説明します。

SigmaSystemCenter のインストーラはLinux 管理対象マシンに対応していないため、クライアントサービス for DPM をLinux 管理対象マシンにインストールする場合、SigmaSystemCenter 2.0 CD-R (1/2) から個別にインストールする必要があります。

クライアントサービス for DPMのインストールの前に、「2.9.1 クライアントサービス for DPMのインストールに向け準備する」を参照し、クライアントサービス for DPMをインストールする環境を準備してください。

### 2.9.1. クライアントサービス for DPM のインストールに向け準備する

クライアントサービス for DPM が動作するには、以下のライブラリが必要です。以下のライブラリがない場合には、Linux OS の CD-ROM からインストールしてください。

- ◆ libpthread.so.0
- ◆ libc.so.\*
- ◆ ld-linux.so.2 (IA32 版 / EM64T 版の場合に必要です)
- ◆ ld-linux-ia64.so.2 (IPF 版の場合に必要です)

※ \*は、数値が入ります。

また、ご利用の環境によってクライアントサービス for DPM のインストールの前に必要な操作があります。ご利用の環境に応じて、以下の操作を実行してください。

- ◆ x64 版 Linux オペレーティングシステムの管理対象マシン

x64 版 Linux オペレーティングシステムの管理対象マシンにクライアントサービス for DPM をインストールする場合、ライブラリ "/lib/libgcc\_s.so.1" が必要です。

"/lib/libgcc\_s.so.1" がマシンに入っていない場合、マルチキャストを使ったりリモートアップデートは利用できません。なお、"/lib/x64" 配下にライブラリ "/libgcc\_s.so.1"が存在する場合がありますが、別途"/lib" 配下にライブラリ "/libgcc\_s.so.1" が必要です。

下記の rpm パッケージをインストールし、ライブラリをインストールしてください。

リモートアップデートを使ってインストールする場合は、ユニキャスト配信で行ってください。

- libgcc-3.4.5-2.i386.rpm

- ◆ 既に Red Hat Enterprise Linux が入っている管理対象マシン  
既に Red Hat Enterprise Linux が入っている管理対象マシンにクライアントサービス for DPMをインストールする場合、クライアントサービス for DPMのポートを有効にする必要があります。以下のポートを開放してください。

| プロトコル | ポート番号 |
|-------|-------|
| TCP   | 56000 |
| UDP   | 56001 |
| TCP   | 56010 |

### 2.9.2. クライアントサービス for DPM をインストールするには

---

注: Red Hat Enterprise Linux AS4 / ES4、SUSE Linux Enterprise 9 の場合は、"/mnt" 部を "/media" に読み替えて作業をすすめてください。

SUSE Linux Enterprise 10 の場合は、"/mnt/cdrom" 部を "/media/CD-R のボリュームラベル" に読み替えて作業をすすめてください。

---

1. root アカウントでシステムにログインします。
2. SigmaSystemCenter 2.0 CD-R (1/2) を DVD/CD-RW ドライブに挿入します。
3. 以下のコマンドを実行し、CD-R をマウントします。この例では、マウントポイントを "/mnt/cdrom" と仮定しています。

```
# mount /mnt/cdrom
```

4. ディレクトリを変更するために、以下のコマンドを実行します。

```
# cd /mnt/cdrom/DPM/Linux/クライアントアーキテクチャ/bin/agent  
クライアントアーキテクチャの部分はマシンの機種に応じて以下を指定してください。
```

- IPF アーキテクチャマシンの場合: ia64
- IA32、EM64T アーキテクチャマシンの場合: ia32

```
例) [root@localhost]# cd /mnt/cdrom/DPM/Linux/ia32/bin/agent
```

5. depinst.sh を実行します。

```
# ./depinst.sh
```

6. 以下のような管理サーバ for DPM の入力要求が表示されます。

```
Enter the IP address of the management server.  
>
```

管理サーバ for DPM の IP アドレスを入力し、[Enter] クリックします。

以上でクライアントサービス for DPM のインストールは完了です。

## 2.10. HP-UX 管理対象マシンへインストールする

OS が HP-UX の管理対象マシンへは、クライアントサービス for DPM (HP-UX) をインストールする必要があります。

SigmaSystemCenter のインストーラは HP-UX 管理対象マシンに対応していないため、クライアントサービス for DPM (HP-UX) を HP-UX 管理対象マシンにインストールする場合、SigmaSystemCenter 2.0 CD-R (2/2) から個別にインストールする必要があります。

インストール手順については、「DeploymentManager (HP-UX 版) ユーザーズガイド導入編」の「2.5 DeploymentManager クライアントのセットアップ」を参照してください。



### 3. アップグレードインストールを実行する

本章では、BladeSystemCenter、ExpressSystemCenter、SigmaSystemCenter 1.3 以前のバージョンがインストールされた環境を SigmaSystemCenter 2.0 へアップグレードインストールする手順について説明します。

本章で説明する項目は以下の通りです。

- 3.1 SigmaSystemCenter 2.0 へのアップグレードインストール ..... 52
- 3.2 インストール (アップグレード) を始める前の注意..... 53
- 3.3 BladeSystemCenter、ExpressSystemCenter、SigmaSystemCenter 1.1 からアップグレードインストールに向け準備する ..... 55
- 3.4 SigmaSystemCenter 1.2、1.3 からアップグレードインストールに向け準備する ..... 58
- 3.5 管理サーバコンポーネントをインストール (アップグレード) する ..... 63
- 3.6 管理対象マシンコンポーネントをアップグレードインストールする ..... 78
- 3.7 Windows (x86 / x64) 管理対象マシンへアップグレードインストールする..... 79
- 3.8 Windows (IPF) 管理対象マシンへアップグレードインストールする..... 83
- 3.9 Linux管理対象マシンへアップグレードインストールする..... 84
- 3.10 HP-UX管理対象マシンへアップグレードインストールする ..... 85

## 3.1. SigmaSystemCenter 2.0 へのアップグレードインストール

以降の節では、前のバージョンがインストールされた管理サーバおよび管理対象マシンを SigmaSystemCenter 2.0 へアップグレードする手順を説明します。

最初に、「3.2 インストール (アップグレード) を始める前の注意」を確認のうえ、ご利用の環境に応じて対応する節を参照し、アップグレードインストールを実行してください。

管理サーバをアップグレードするには、以下の流れに従ってください。

### 1. インストールされているバージョンを確認し、準備する

インストールされているバージョンに応じて、事前に準備が必要です。ご利用の環境にインストールされているバージョンを確認し、以下の対応する節を参照し、準備を行ってください。

- BladeSystemCenter、ExpressSystemCenter、SigmaSystemCenter 1.1 の場合  
「3.3 BladeSystemCenter、ExpressSystemCenter、SigmaSystemCenter 1.1 からアップグレードインストールに向け準備する」を参照してください。
- SigmaSystemCenter 1.2 もしくは 1.3 の場合  
「3.4 SigmaSystemCenter 1.2、1.3 からアップグレードインストールに向け準備する」を参照してください。

### 2. SigmaSystemCenter 2.0 へアップグレードする

「3.5 管理サーバコンポーネントをインストール (アップグレード) する」を参照してください。

管理対象マシンをアップグレードするには、「3.6 管理対象マシンコンポーネントをアップグレードインストールする」を参照してください。



## 3.2. インストール (アップグレード) を始める前の注意

SigmaSystemCenter 2.0 へのインストール (アップグレード) を始める前に本節の注意事項をよく読んでください。

### 3.2.1. 動作環境の確認

SigmaSystemCenter のインストール (アップグレード) を始める前に、必ず最新の動作環境がご利用の環境に適しているか確認する必要があります。最新の動作環境に関しては、「SigmaSystemCenter ファーストステップガイド」の「3. 動作環境」を参照してください。

### 3.2.2. インストール (アップグレード) に伴い NetvisorPro をインストールする際の注意

SigmaSystemCenter 2.0 をインストール (アップグレード) する際に NetvisorPro を新規インストールする場合、先に NetvisorPro をインストールし、その後 SigmaSystemCenter 2.0 をインストール (アップグレード) してください。

NetvisorPro は MSDE2000 をインストールするため、SQL Server 2005 を使用する SigmaSystemCenter 2.0 が既にインストールされていると、NetvisorPro のインストールに失敗する場合があります。

詳細は、下記の Microsoft サポートページを参照してください。

<http://support.microsoft.com/kb/905618/ja>

### 3.2.3. 管理サーバ for DPM をアップグレードインストールする際の注意

- ◆ アップグレード後には必要ないサービスパック/HotFix/アプリケーションは、事前に削除することを推奨します。
- ◆ Windows Installer 3.0 以上がインストールされていることを確認してください。インストールされていない場合はインストールしてください。

Windows Installer 3.1 は以下に格納されています。

```
インストール CD-R:¥dotNet  
Framework30¥WindowsInstaller-KB893803-v2-x86.exe
```

### 3.2.4. SystemProvisioning のアップグレードインストールに関する注意

SystemProvisioning をアップグレードインストールするには、インターネットインフォメーションサービス (IIS) マネージャおよび ASP.NET v2.0 をインストールする必要があります。

Windows Server 2003 では、ASP.NET v2.0 をコントロールパネルの [プログラムの追加と削除] の [Windows コンポーネントの追加と削除 (A)] からインストールすることはできません。インターネットインフォメーションサービス (IIS) マネージャをインストールした後、以下の手順に従って ASP.NET v2.0 をインストールしてください。

1. [スタート] メニューから [コントロールパネル (C)] - [プログラムの追加と削除] を選択します。
2. 「プログラムの追加と削除」画面が表示されます。Microsoft .NET Framework 2.0 がインストールされているかを確認します。

既に Microsoft .NET Framework 2.0 がインストールされている場合、SystemProvisioning をインストールする前に以下の手順を実行してください。

Microsoft .NET Framework 2.0 がされていない場合は、以下の手順を実行する必要はありません。

1. [スタート] メニューから [プログラム] - [管理ツール] - [インターネットインフォメーションサービス (IIS) マネージャ] を選択し、IIS を起動します。
2. 「インターネットインフォメーションサービス (IIS) マネージャ」画面が表示されます。左ペインで [Web サービス拡張] を選択し、[ASP.NET v2.0.50727] が表示されていることを確認します。

[ASP.NET v2.0.50727] が表示されていない場合は以下のコマンドを実行してください。ASP.NET v2.0.50727 がインストールされます。

```
%SystemRoot%\Microsoft.NET\Framework\v2.0.50727\aspnet_regiis.exe -r
```

### 3.3. BladeSystemCenter、ExpressSystemCenter、SigmaSystemCenter 1.1 からアップグレードインストールに向け準備する

ご利用の環境に、BladeSystemCenter、ExpressSystemCenter、SigmaSystemCenter 1.1 のいずれかがインストールされている場合、SigmaSystemCenter 2.0 へのアップグレードインストールを行う前に、BladeSystemCenter、ExpressSystemCenter、SigmaSystemCenter 1.1 で使用されている以下のコンポーネントを先にアンインストールする必要があります。本節を参照し、以下のコンポーネントをアンインストールしてください。

- ◆ Web サーバ for DPM
- ◆ Apache Tomcat
- ◆ SystemProvisioning Connector Framework

---

**注:** Apache Tomcat のアンインストールを行う前に Web サーバ for DPM のアンインストールを行ってください。

Web サーバ for DPM より先に Apache Tomcat のアンインストールを行った場合、アンインストールは終了できますが、不要なフォルダ (C:\Program Files\Apache Software Foundation\Tomcat 6.0) が残ります。この場合、手動でこのフォルダを削除する必要があります。

---

**注:**

- ・ アンインストールする製品のバージョンにより、コンポーネント名称、バージョン、画面のタイトルなど一部表記が異なる場合があります。
  - ・ 上記のコンポーネントでインストールされていないものがある場合、そのコンポーネントのアンインストールは不要です。
-

#### 3.3.1. Web サーバ for DPM をアンインストールするには

1. [スタート] メニューから [DeploymentManager] - [Web サーバ for DPM のアンインストール] を選択します。
2. 「セットアップタイプ」ウィザードが表示されます。[アンインストール] をオンにし、[次へ(N)] をクリックします。
3. 「ファイル削除の確認」ダイアログボックスが表示されます。[OK] をクリックし、アンインストールを開始します。
4. アンインストールが正常に終了すると、「メンテナンスの完了」ウィザードが表示されます。[完了] をクリックします。

以上で Web サーバ for DPM のアンインストールは完了です。

#### 3.3.2. Apache Tomcat をアンインストールするには

1. [スタート] メニューから [Apache Tomcat 4.1] - [UninstallTomcat 4.1] を選択します。
2. 「Apache Tomcat 4.1 Uninstall: Confirmation」画面が表示されます。[Uninstall] をクリックします。
3. ファイル削除確認のダイアログボックスが表示されます。[はい(Y)] をクリックします。
4. アンインストールが正常に終了すると、「Apache Tomcat 4.1 Uninstall: Completed」画面が表示されます。[Close] をクリックします。

以上で Apache Tomcat4.1 のアンインストールは完了です。

#### 3.3.3. SystemProvisioning Connector Framework をアンインストールするには

1. [スタート] メニューから [コントロールパネル (C)] - [プログラムの追加と削除] を選択します。
2. 「プログラムの追加と削除」画面が表示されます。左ペインから [プログラムの変更と削除] をクリックします。[現在インストールされているプログラム] から [NEC SystemProvisioning Connector Framework] を選択し、[削除] をクリックします。
3. 削除確認のダイアログボックスが表示されます。[はい(Y)] をクリックします。
4. アンインストールが正常に終了すると、「アンインストール完了」ウィザードが表示されず。[完了] をクリックします。

以上で SystemProvisioning Connector Framework のアンインストールは完了です。

### 3.3.4. アンインストールを完了するには

すべてのコンポーネントのアンインストール終了後、システムを再起動してください。

以上で BladeSystemCenter、ExpressSystemCenter、SigmaSystemCenter 1.1 の事前に必要なコンポーネントのアンインストールは終了です。

「3.5 管理サーバコンポーネントをインストール（アップグレード）する」以降を参照し、SigmaSystemCenter 2.0 へアップグレードインストールしてください。

## 3.4. SigmaSystemCenter 1.2、1.3 からアップグレードインストールに向け準備する

ご利用の環境に SigmaSystemCenter 1.2 もしくは 1.3 がインストールされている場合、SigmaSystemCenter 2.0 へのアップグレードインストールを行う前に、SigmaSystemCenter 1.2 および 1.3 で使用されている以下のコンポーネントを先にアンインストールする必要があります。本節を参照し、以下のコンポーネントをアンインストールしてください。

- ◆ Apache Tomcat
- ◆ Web サーバ for DPM
- ◆ SystemProvisioning Web Components

---

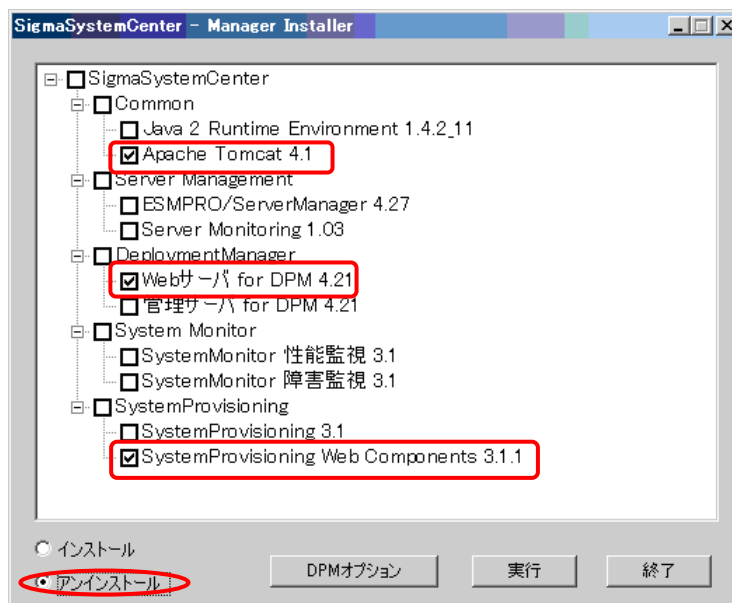
### 注:

- ・ アンインストールする製品のバージョンにより、コンポーネント名称、バージョン、画面のタイトルなど一部表記が異なる場合があります。
  - ・ 上記のコンポーネントでインストールされていないものがある場合、そのコンポーネントのアンインストールは不要です。
- 

また、アンインストールの終了後、管理サーバ for DPMのサービスを停止する必要があります。ご利用の環境により、不要な場合もあります。詳細については、「3.4.6 管理サーバ for DPMのすべてのサービスを停止するには」を参照してください。

### 3.4.1. アンインストールを実行するには

1. SigmaSystemCenter 1.2 CD-R (1/2) もしくは SigmaSystemCenter 1.3 CD-R (1/2) を DVD/CD-RW ドライブに挿入してください。
2. コマンドプロンプトで以下のコマンドを実行し、マネージャインストーラを開始します。  
*インストール CD-R: ¥ManagerSetup.exe*
3. 「SigmaSystemCenter - Manager Installer」画面が表示されます。左下の [アンインストール] を選択し、Apache Tomcat、Web サーバ for DPM、および SystemProvisioning Web Components のチェックボックスをオンにします。



4. [実行] をクリックします。各コンポーネントのアンインストールが開始されます。各コンポーネントのアンインストールに関しては、次項以降の選択したコンポーネントの項を参照してください。

### 3.4.2. SystemProvisioning Web Components のアンインストール

SystemProvisioning Web Components のアンインストールが開始されます。以下の手順に従い、アンインストールを進めてください。

1. 「SystemProvisioning Web Components - InstallShield Wizard」が表示されます。[削除(R)] をオンにし、[次へ (N)] をクリックします。
2. 削除確認のダイアログボックスが表示されます。[はい (Y)] をクリックします。
3. アンインストールが正常に終了すると、「アンインストール完了」ウィザードが表示されず。[完了] をクリックします。

以上で SystemProvisioning Web Components のアンインストールは完了です。

### 3.4.3. Web サーバ for DPM のアンインストール

Web サーバ for DPM のアンインストールが開始されます。以下の手順に従い、アンインストールを進めてください。

### 3 アップグレードインストールを実行する

---

1. 「セットアップタイプ」ウィザードが表示されます。[アンインストール] をオンにし、[次へ(N)] をクリックします。
2. 削除確認のダイアログボックスが表示されます。[OK] をクリックします。
3. アンインストールが正常に終了すると、「メンテナンスの完了」ウィザードが表示されます。[完了] をクリックします。

以上で Web サーバ for DPM のアンインストールは完了です。

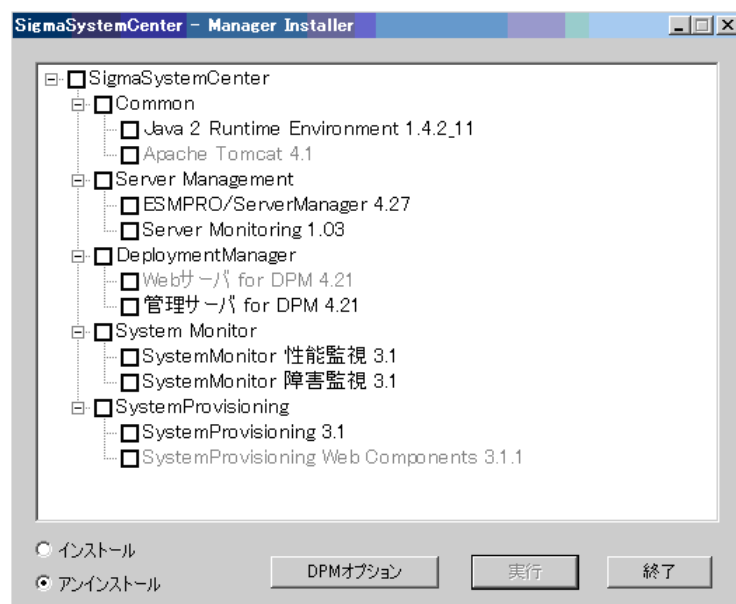
#### 3.4.4. Apache Tomcat のアンインストール

Apache Tomcat のアンインストールが開始されます。

Apache Tomcat のアンインストール画面が表示されますが、操作はありません。アンインストールが完了するまでしばらくお待ちください。

#### 3.4.5. マネージャインストーラを終了するには

選択したコンポーネントのアンインストールが完了すると、「SigmaSystemCenter - Manager Installer」画面が表示されます。選択したすべてのコンポーネントが選択不可になっていることを確認し、[終了] をクリックしてください。



以上で SigmaSystemCenter 1.2 および 1.3 の事前に必要なコンポーネントのアンインストールは完了です。



### 3.4.6. 管理サーバ for DPM のすべてのサービスを停止するには

アンインストールの終了後、以下の手順に従って管理サーバ for DPM のすべてのサービスを停止してください。

SigmaSystemCenter 1.3 からのアップグレードインストールであり、かつ修正モジュール (SSC130008-0002「管理サーバ for DPM のサービス停止時に、停止処理中状態から完了しないことがある問題を改善」) を適用している場合は、以下の手順を実行する必要はありません。

本節の手順の実行後、「3.5 管理サーバコンポーネントをインストール (アップグレード) する」以降を参照し、SigmaSystemCenter 2.0 へアップグレードインストールしてください。

---

**注:** SigmaSystemCenter 1.3 の修正モジュールの適用情報を確認するには、以下の手順を実行してください。

1. [スタート] メニューから [コントロールパネル (C)] - [プログラムの追加と削除] を選択します。
  2. 「プログラムの追加と削除」画面が表示されます。左ペインから [プログラムの変更と削除] をクリックします。[現在インストールされているプログラム] から [DeploymentManager (管理サーバ for DPM)] を選択し、[サポート情報を参照するには、ここをクリックしてください] をクリックします。
  3. [Version] に、[4.32.000] と表示されていれば、修正モジュールは適用済みです。
- 

1. [スタート] メニューから [コントロールパネル (C)] - [管理ツール] - [サービス] を選択し、サービススナップインを起動します。
2. サービス一覧から "DeploymentManager" で始まるサービス (「DeploymentManager API Service」など) を選択し、[サービスの停止] をクリックしてすべての "DeploymentManager" で始まるサービスを停止します。

### 3 アップグレードインストールを実行する

---

**注:** 停止しないサービスがある場合、以下の手順に従って対象サービスに該当するプロセスを強制終了した後、サービススナップインから残りのサービスを停止してください。

1. [スタート] メニューから [ファイル名を指定して実行 (R)] をクリックし、[名前 (O)] テキストボックスに「taskmgr」と入力し、Windows タスクマネージャを起動します。
2. [プロセス] タブを選択し、停止しないサービスに該当するプロセス (以下の表を参照) を強制終了します。

| サービス名                                       | プロセス名         |
|---|---------------|
| DeploymentManager API Service               | apiserv.exe   |
| DeploymentManager Backup/Restore Management | bkressvc.exe  |
| DeploymentManager Client Management         | cliwatch.exe  |
| DeploymentManager client start              | clistart.exe  |
| DeploymentManager Get Client Information    | depssvc.exe   |
| DeploymentManager PXE Management            | pxesvc.exe    |
| DeploymentManager PXE Mftftp                | pxemftftp.exe |
| DeploymentManager Remote Update Service     | rupdssvc.exe  |
| DeploymentManager Scenario Management       | snrwatch.exe  |
| DeploymentManager Schedule Management       | schwatch.exe  |
| DeploymentManager Transfer Management       | ftsvc.exe     |

---

## 3.5. 管理サーバコンポーネントをインストール (アップグレード) する

管理サーバへ管理サーバコンポーネントをインストール (アップグレード) する手順を説明します。

オプション、パラメータを指定せずにインストーラ (ManagerSetup.exe) を起動すると、各コンポーネントをインストール、アンインストールするためのインストールメニューを表示します。

下記のコンポーネントは、インストール中にアップグレードされます。

- ◆ ESMPRO/ServerManager
- ◆ 管理サーバ for DPM
- ◆ SystemMonitor 性能監視
- ◆ SystemProvisioning

### 3.5.1. インストール (アップグレード) を実行するには

1. SigmaSystemCenter 2.0 CD-R (1/2) を DVD/CD-RW ドライブに挿入します。
2. コマンドプロンプトで以下のコマンドを実行し、インストーラを起動します。

インストール CD-R: ¥ManagerSetup.exe

3. インストーラが起動し、「SigmaSystemCenter」メイン画面が表示されます。

[インストール] をクリックし、インストールするコンポーネントのチェックボックスをオンにします。本バージョンのコンポーネントが既にインストールされている場合は選択できません。選択完了後、[設定] をクリックします。

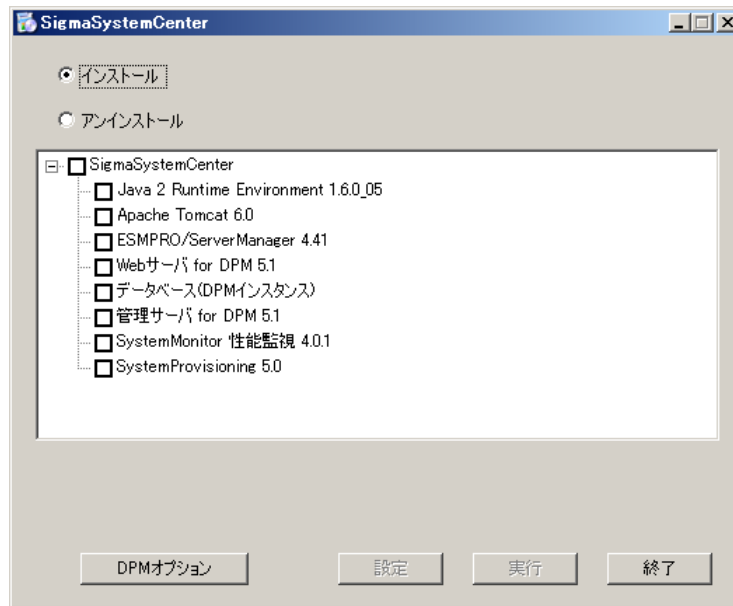
---

**注:** インストール先フォルダ、SQL Server 2005 Express Edition のインスタンス名、インストール先フォルダ、データベースのインストール先フォルダ、および Windows ファイアウォールの選択については、既定値が設定されています。

既定値を変更する場合は、[実行] をクリックしてインストールを開始する前に、[設定] をクリックして「設定」画面から変更した後、[OK] をクリックしてください。

---

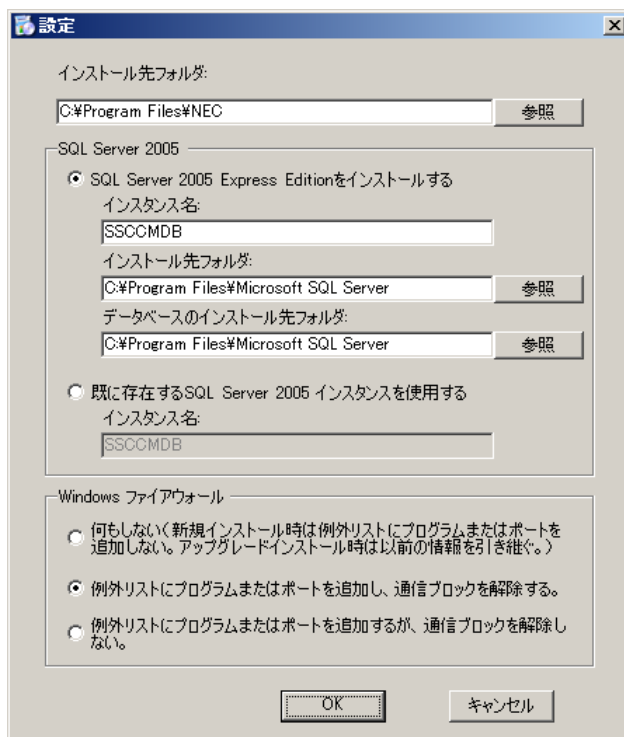
### 3 アップグレードインストールを実行する



|                                   |  |
|-----------------------------------|--|
| <b>インストール</b>                     | インストールを行います。   |
| <b>アンインストール</b>                   | アンインストールを行います。   |
| <b>SigmaSystemCenter</b>          | この項目を選択した場合、以下の選択可能なすべてのコンポーネントが自動的に選択されます。  |
| <b>Java 2 Runtime Environment</b> | Java 2 Runtime Environmentをインストールします。  |
| <b>Apache Tomcat</b>              | Apache Tomcatをインストールします。<br>この項目を選択した場合、[Java 2 Runtime Environment] も自動的に選択されます。  |
| <b>ESMPRO/ServerManager</b>       | ESMPRO/ServerManagerをインストールします。  |
| <b>Webサーバ for DPM</b>             | Webサーバ for DPMをインストールします。<br>この項目を選択した場合、[Java 2 Runtime Environment]、[Apache Tomcat] も自動的に選択されます。                       |
| <b>データベース (DPM インスタンス)</b>        | データベース (DPMインスタンス) をインストールします。   |
| <b>管理サーバ for DPM</b>              | 管理サーバfor DPMをインストールします。<br>この項目を選択した場合、[Java 2 Runtime Environment] も自動的に選択されます。   |
| <b>SystemMonitor 性能監視</b>         | SystemMonitor性能監視をインストールします。   |
| <b>SystemProvisioning</b>         | SystemProvisioningをインストールします。<br>IIS 6.0以降がインストールされている場合のみ選択可能です。<br>この項目を選択した場合、<br>[ESMPRO/ServerManager] も自動的に選択されます。 |

|                  |  |
|------------------|--|
| <b>DPM オプション</b> | 「DeploymentManager セットアップ」画面を表示します。            |
| <b>[設定]</b>      | 設定画面を表示します。<br>インストールするコンポーネントを選択するまで選択不可です。   |
| <b>[実行]</b>      | インストールを実行します。<br>インストールするコンポーネントを選択するまで選択不可です。 |
| <b>[終了]</b>      | メイン画面を閉じます。                                    |

4. 「設定」画面が表示されます。  
必要に応じて各項目を選択 / 入力し、[OK] をクリックします。



### 3 アップグレードインストールを実行する

|  |   |  |         |  |             |   |                    |   |  |
|--|---|--|---------|--|-------------|---|--------------------|---|--|
| インストール先フォルダ  | <p>インストール先フォルダを指定します。<br/>255文字まで入力できます。<br/>既定値は (%Program Files%\%NEC) です。<br/>この項目はメイン画面で [ESMPRO/ServerManager]、[SystemMonitor性能監視]、[SystemProvisioning] のいずれかが選択された場合にのみ、入力可能です。</p>                                     |  |         |  |             |   |                    |   |  |
| SQL Server 2005  | <p>以下の項目はメイン画面で [SystemMonitor性能監視]、[SystemProvisioning] が選択された場合にのみ、選択 / 入力可能です。</p>   |  |         |  |             |   |                    |   |  |
| <table border="1"> <tr> <td data-bbox="400 622 831 813">SQL Server 2005 Express Edition をインストールする</td> <td data-bbox="831 622 1385 813"> <p>ローカルマシン上に新規にSQL Server 2005 Express Editionをインストールします。この項目を選択した場合、以下のSQLの情報が指定できます。<br/>Windows認証モードでインストールされます。<br/>既定で選択されています。</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="400 813 831 943">インスタンス名</td> <td data-bbox="831 813 1385 943"> <p>SQLのインスタンス名を指定します。<br/>20文字まで指定できます。<br/>既定値は (SSCCMDB) です。</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="400 943 831 1099">インストール先フォルダ</td> <td data-bbox="831 943 1385 1099"> <p>SQLのインストール先フォルダを指定します。<br/>255文字まで入力できます。<br/>既定値は (%Program Files%\%Microsoft SQL Server) です。</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="400 1099 831 1420">データベースのインストール先フォルダ</td> <td data-bbox="831 1099 1385 1420"> <p>SQLのデータベースのインストール先フォルダを指定します。<br/>255文字まで入力できます。<br/>既定値は (%Program Files%\%Microsoft SQL Server) です。<br/>実際のインストール先パスは "指定したインストール先フォルダ\MSSQL.n\MSSQL\Data" になります (MSSQL.n はインスタンスIDです。n にはインストールされるコンポーネントの序数が入ります)。</p> </td> </tr> </table> | SQL Server 2005 Express Edition をインストールする   | <p>ローカルマシン上に新規にSQL Server 2005 Express Editionをインストールします。この項目を選択した場合、以下のSQLの情報が指定できます。<br/>Windows認証モードでインストールされます。<br/>既定で選択されています。</p> | インスタンス名 | <p>SQLのインスタンス名を指定します。<br/>20文字まで指定できます。<br/>既定値は (SSCCMDB) です。</p> | インストール先フォルダ | <p>SQLのインストール先フォルダを指定します。<br/>255文字まで入力できます。<br/>既定値は (%Program Files%\%Microsoft SQL Server) です。</p> | データベースのインストール先フォルダ | <p>SQLのデータベースのインストール先フォルダを指定します。<br/>255文字まで入力できます。<br/>既定値は (%Program Files%\%Microsoft SQL Server) です。<br/>実際のインストール先パスは "指定したインストール先フォルダ\MSSQL.n\MSSQL\Data" になります (MSSQL.n はインスタンスIDです。n にはインストールされるコンポーネントの序数が入ります)。</p> | <p>ローカルマシン上にSQL Server 2005がインストールされている場合、既存のインスタンスにデータベースを作成します。この項目を選択した場合、以下のSQLの情報が指定できます。</p> |
| SQL Server 2005 Express Edition をインストールする  | <p>ローカルマシン上に新規にSQL Server 2005 Express Editionをインストールします。この項目を選択した場合、以下のSQLの情報が指定できます。<br/>Windows認証モードでインストールされます。<br/>既定で選択されています。</p>  |  |         |  |             |   |                    |   |  |
| インスタンス名  | <p>SQLのインスタンス名を指定します。<br/>20文字まで指定できます。<br/>既定値は (SSCCMDB) です。</p>  |  |         |  |             |   |                    |   |  |
| インストール先フォルダ  | <p>SQLのインストール先フォルダを指定します。<br/>255文字まで入力できます。<br/>既定値は (%Program Files%\%Microsoft SQL Server) です。</p>   |  |         |  |             |   |                    |   |  |
| データベースのインストール先フォルダ   | <p>SQLのデータベースのインストール先フォルダを指定します。<br/>255文字まで入力できます。<br/>既定値は (%Program Files%\%Microsoft SQL Server) です。<br/>実際のインストール先パスは "指定したインストール先フォルダ\MSSQL.n\MSSQL\Data" になります (MSSQL.n はインスタンスIDです。n にはインストールされるコンポーネントの序数が入ります)。</p> |  |         |  |             |   |                    |   |  |
| <table border="1"> <tr> <td data-bbox="400 1559 831 1783">インスタンス名</td> <td data-bbox="831 1559 1385 1783"> <p>SQLのインスタンス名を指定します。<br/>SigmaSystemCenterのアップグレードインストール前に使用していたインスタンスを指定することはできません。<br/>20文字まで入力できます。<br/>既定値は (SSCCMDB) です。</p> </td> </tr> </table>   | インスタンス名   | <p>SQLのインスタンス名を指定します。<br/>SigmaSystemCenterのアップグレードインストール前に使用していたインスタンスを指定することはできません。<br/>20文字まで入力できます。<br/>既定値は (SSCCMDB) です。</p>       |         |  |             |   |                    |   |  |
| インスタンス名  | <p>SQLのインスタンス名を指定します。<br/>SigmaSystemCenterのアップグレードインストール前に使用していたインスタンスを指定することはできません。<br/>20文字まで入力できます。<br/>既定値は (SSCCMDB) です。</p>  |  |         |  |             |   |                    |   |  |

|   |   |
|---|---|
| <b>Windows ファイアウォール</b>   | Windowsファイアウォールの指定を行います。以下の値を指定できます。<br>この項目はメイン画面で [Webサーバ for DPM]、[データベース (DPMインスタンス)]、[管理サーバfor DPM]、[SystemMonitor性能監視]、[SystemProvisioning] が選択された場合にのみ、選択可能です。 |
| 何もしない (新規インストール時は例外リストにプログラムまたはポートを追加しない。アップグレードインストール時には以前の情報を引き継ぐ。) | この項目を選択した場合、アップグレードインストール前の情報を引継ぎます。ただし、SystemProvisioningに関しては、以前の情報を引き継ぎません。  |
| 例外リストにプログラムまたはポートを追加し、通信ブロックを解除する。                                    | この項目を選択した場合、例外リストにプログラムまたはポートを追加し、通信ブロックを解除します。既定で選択されています。   |
| 例外リストにプログラムまたはポートを追加するが、通信ブロックを解除しない。                                 | この項目を選択した場合、例外リストにプログラムまたはポートを追加しますが、通信ブロックは解除しません。後で手動で通信ブロックを解除する必要があります。   |
| [OK]  | 設定を保存して画面を閉じ、メイン画面に戻ります。  |
| [キャンセル]   | 設定を保存せずに画面を閉じ、メイン画面に戻ります。   |

**注:**

- ・「設定」画面の [Windowsファイアウォール] の指定で [何もしない] を選択した場合、SystemProvisioningは以前の情報を引き継がないため、インストール完了後に手動で例外リストにプログラムまたはポートを追加する必要があります。詳細は、「付録 A ネットワークとプロトコル」を参照してください。
- ・ESMPRO/ServerManagerは、「設定」画面で [Windowsファイアウォール] の指定を行なうことはできないため、インストール完了後に手動で例外リストにポートを追加する必要があります。詳細は、「付録 A ネットワークとプロトコル」を参照してください

**注:**

- ・SQL のインスタンスが既に存在している状態で、[SQL Server 2005 Express Edition をインストールする] を選択し、[OK] をクリックした場合、「指定されたインスタンスは既に存在しています。」というメッセージが表示され、設定画面に戻ります。既存のインスタンスを使用する場合、[既に存在する SQL Server 2005 インスタンスを使用する] を選択してください。
- ・SQL のインスタンスが存在していない状態で、[既に存在する SQL Server 2005 インスタンスを使用する] を選択し、[OK] をクリックした場合、「指定されたインスタンスは存在しません。」というメッセージが表示され、設定画面に戻ります。インスタンスをインストールする場合、[SQL Server 2005 Express Edition をインストールする] を選択してください。

・ アップグレードインストール前に SystemProvisioning の構成情報データベースをリモートの SQL に構築していた場合、SigmaSystemCenter 2.0 へアップグレードインストールした際に、ローカルの SQL にデータベースが構築されます。アップグレードインストール後に「SigmaSystemCenter リファレンスガイド」の「付録 B 構成情報データベースの移行」を参照して構成情報データベースをリモートの SQL に再構築してください。

---

5. 「SigmaSystemCenter」メイン画面に戻ります。[実行] をクリックします。
6. アップグレードインストール開始確認のダイアログボックスが表示されます。[はい] をクリックします。
7. 選択したコンポーネントのインストール (アップグレード) が開始されます。

「SigmaSystemCenter」メイン画面でインストールするコンポーネントにデータベース (DPM インスタンス)、SystemMonitor 性能監視、SystemProvisioning のいずれかを選択し、かつ、.NET Framework 3.0 がインストールされていない場合、最初に .NET Framework 3.0 がインストールされます。.NET Framework 3.0 のインストール終了後、システムの再起動が必要な場合はシステムの再起動を促すダイアログボックスが表示されます。[はい(Y)] をクリックした場合、自動的にシステムの再起動が実施されます。

[いいえ(N)] をクリックした場合、インストーラが終了しますので、手動でシステムの再起動を行ってください。コンポーネントをインストールする前に必ずシステムの再起動を行ってください。

システムの再起動後、「SigmaSystemCenter」メイン画面が表示されます。再度コンポーネントを選択し、[実行] をクリックしてください。

SQL Server 2005 Express Edition がインストールされるよう設定した場合、SQL Server 2005 Express Edition がインストールされます。このインストールは完了まで数分かかります。

.NET Framework 3.0 および SQL Server 2005 Express Edition のインストール完了後、各コンポーネントのインストール (アップグレード) を開始します。各コンポーネントのインストール (アップグレード) に関しては、次項以降の各コンポーネントの項を参照してください。

#### 3.5.2. Java 2 Runtime Environment のインストール

Java 2 Runtime Environment を選択した場合、Java 2 Runtime Environment のインストールが開始されます。

Java 2 Runtime Environment のインストール画面が表示されますが、操作はありません。

#### 3.5.3. Apache Tomcat のインストール

Apache Tomcat を選択した場合、Apache Tomcat のインストールが開始されます。

Apache Tomcat のインストール画面が表示されますが、操作はありません。

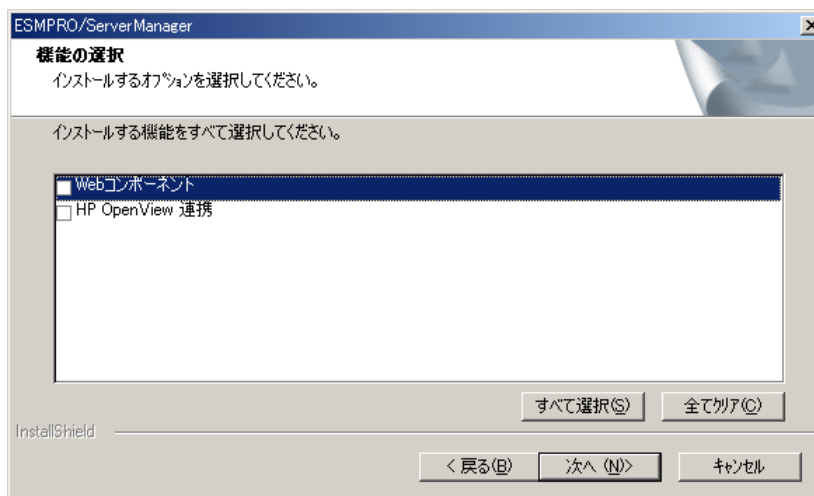


### 3.5.4. ESMPRO/ServerManager のアップグレードインストール

ESMPRO/ServerManagerを選択した場合、ESMPRO/ServerManagerのアップグレードインストールが開始されます。以下の手順に従い、アップグレードインストールを進めてください。

**注:** このコンポーネントを選択した場合選択したすべてのコンポーネントのインストール (アップグレード) が完了するとシステムの再起動を促すダイアログボックスが表示されます。すべてのインストール (アップグレード)が終了し、「SigmaSystemCenter」メイン画面を閉じた後システムを再起動してください。

1. アップグレードインストール確認の「問い合わせ」ダイアログボックスが表示されます。  
[はい(Y)] をクリックし、アップグレードインストールを実行します。
2. 環境によっては、「機能の選択」ウィザードが表示されることがあります。  
追加する機能のチェックボックスをオンにします。既に追加されている機能については表示されません。  
機能を選択し、[次へ(N)] をクリックします。



|                       |   |
|-----------------------|---|
| <b>Web コンポーネント</b>    | WebブラウザからESMPRO/ServerManagerへのアクセスを有効にします。Internet Information Servicesがインストールされている場合に表示され選択可能となります。 |
| <b>HP OpenView 連携</b> | HP OpenViewとの連携を行います。HP OpenView Network Node Managerが管理サーバにインストールされている場合に表示され選択可能となります。              |

3. 「ファイルコピーの開始」ウィザードが表示されます。[次へ(N)] をクリックします。
4. 「ESMPRO/Base セットアップ」ウィザードが表示されます。[次へ(N)] をクリックします。
5. アップグレードインストールが正常に終了すると、インストール完了のダイアログボックスが表示されます。[OK] をクリックします。

以上で ESMPRO/ServerManager のアップグレードインストールは完了です。

#### 3.5.5. Web サーバ for DPM のインストール

Web サーバ for DPM を選択した場合、Web サーバ for DPM のインストールが開始されます。以下の手順に従い、インストールを進めてください。

1. 「インストール先の選択」ウィザードが表示されます。[次へ(N)] をクリックします。

---

**注:** インストール先のフォルダは変更しないでください。

フォルダの既定値を変更し、インストールした場合、Web サーバ for DPM が正常に動作しない可能性があります。この場合、Web サーバ for DPM をアンインストールし、再度インストールする必要があります。

---

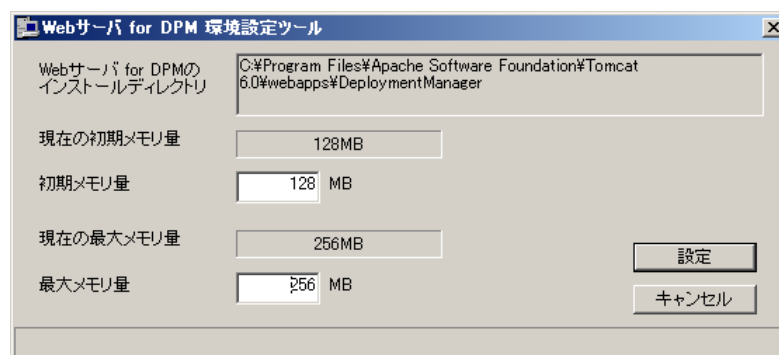
2. インストール中に「Web サーバ for DPM 環境設定ツール」ダイアログボックスが表示されます。Web サーバ for DPM が使用するメモリを 128~512MB の範囲で入力し、[設定] をクリックします。

---

**注:** 通常の使用では、初期メモリ量を「128」MB から変更する必要はありません。

Apache Tomcat 上で作動するソフトウェア (Web サーバ for DPM を除く) の初期メモリ量が 128MB ではない場合、この値を変更してください。

---



3. Web サーバサービス (Apache Tomcat) の再起動を要求するダイアログボックスが表示されます。[はい(Y)] をクリックします。
4. 「Web サーバサービス (Apache Tomcat) の起動に成功しました。」というダイアログボックスが表示されます。[OK] をクリックします。
5. 「InstallShield Wizard の完了」ウィザードが表示されます。[完了] をクリックします。

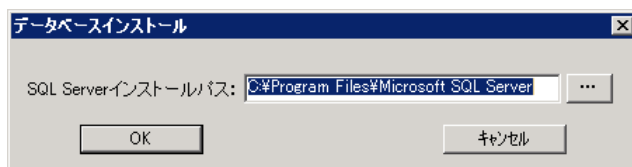
以上で Web サーバ for DPM のインストールは完了です。

Web サーバ for DPM をインストールした場合、Java Plug-in の設定が必要です。選択したすべてのコンポーネントのインストール (アップグレード) が完了した後、「DeploymentManager ユーザーズガイド基本操作編」の「23.1 Web サーバ for DPM の上書きインストール」の「(14)~(21)」を参照し、Java Plug-in の設定を行ってください。

### 3.5.6. データベース (DPM インスタンス) のインストール

データベース (DPM インスタンス) を選択した場合、データベース (DPM インスタンス) のインストールが開始されます。以下の手順に従い、インストールを進めてください。

1. 「データベースインストール」ダイアログボックスが表示されます。既定値から変更する場合、インストール先のフォルダを指定し、[OK] をクリックします。



2. インストールが開始されます。インストール中に、自動でウィンドウがいくつか開き、閉じます。インストールは完了まで数分かかります。
3. インストールが正常に終了すると、インストール完了のダイアログボックスが表示されず。[OK] をクリックします。

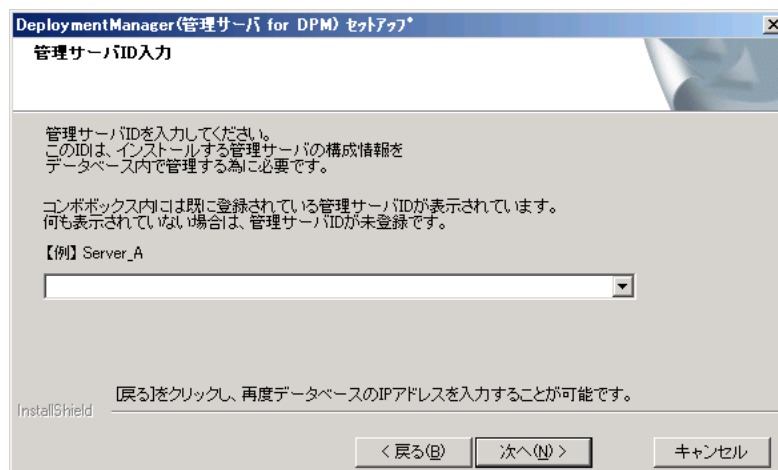
以上でデータベース (DPM インスタンス) のインストールは完了です。

#### 3.5.7. 管理サーバ for DPM のアップグレードインストール

管理サーバ for DPM を選択した場合、管理サーバ for DPM のアップグレードインストールが開始されます。以下の手順に従い、アップグレードインストールを進めてください。

1. 「セットアップタイプ」ウィザードが表示されます。[上書きインストール] を選択し、[次へ(N)] をクリックします。
2. 上書きインストール確認のダイアログボックスが表示されます。[OK] をクリックし、インストールを開始します。
3. 「データベースサーバ IP アドレス入力」ウィザードが表示されます。データベース (DPM インスタンス) がインストールされたサーバの IP アドレスを入力し、[次へ] をクリックします。
4. 「管理サーバ ID 入力」ウィザードが表示されます。任意の ID を入力し、[次へ] をクリックします。

**注:** 既に管理サーバ ID が登録されているデータベース (DPM インスタンス) がインストールされたサーバの IP アドレスを指定したにも関わらず、プルダウンボックス内に管理サーバ ID が表示されていない場合は、データベースへの接続に失敗した可能性があります。画面の指示に従い、再度データベース (DPM インスタンス) がインストールされたサーバの IP アドレスを入力してください。

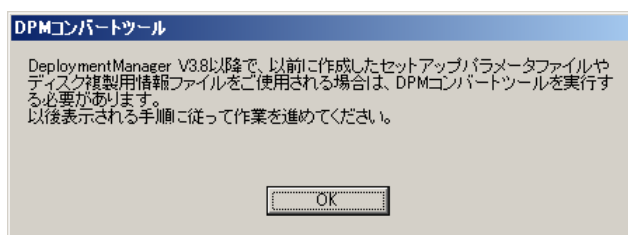


5. インストールの途中でパラメータファイルのコンバートツールが起動します。SigmaSystemCenter 2.0 では、コンバートツールを起動する必要がありません。以下の操作に従ってコンバートツールの起動をキャンセルしてください。

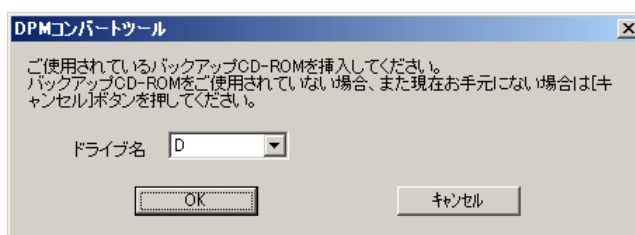
1. 最新バージョンの CD-R から OS イメージを再作成するよう促すダイアログボックスが表示されます。[OK] をクリックします。



2. コンバートツール起動確認のダイアログボックスが表示されます。[OK] をクリックします。



3. CD-R の挿入を促すダイアログボックスが表示されます。[キャンセル] をクリックし、コンバートツールの起動をキャンセルします。



6. アップグレードインストールが正常に終了すると、「メンテナンスの完了」ウィザードが表示されます。[完了] をクリックします。

以上で管理サーバ for DPM のアップグレードインストールは完了です。

#### 3.5.8. SystemMonitor 性能監視のアップグレードインストール

SystemMonitor 性能監視を選択した場合、SystemMonitor 性能監視のアップグレードインストールが開始されます。

アップグレードインストール中の操作はありません。

#### 3.5.9. SystemProvisioning のアップグレードインストール

SystemProvisioning を選択した場合、SystemProvisioning のアップグレードインストールが開始されます。

アップグレードインストール中の操作はありません。

---

##### 注:

- ・ このコンポーネントを選択した場合、選択したすべてのコンポーネントのインストール（アップグレード）が完了するとシステムの再起動を促すダイアログボックスが表示されます。すべてのインストール（アップグレード）が終了し、「SigmaSystemCenter」メイン画面を閉じた後システムを再起動してください。

- ・ インストール中に「Microsoft SQL Server Desktop Engine」ダイアログボックスが表示される場合があります。その場合、[無視] をクリックしてください。

- ・ SystemProvisioningのインストール中に構成情報データベースのエラーメッセージおよびWindowsファイアウォールの例外登録失敗のメッセージが表示される場合があります。メッセージが表示された場合の詳細と対処方法については、「付録 B インストール関連のトラブルシューティング」を参照してください。

- ・ アップグレードインストール時にアップグレード可能な構成情報データベースの容量の目安は仮想マシン 5000 台となっております。

それを超える容量であれば、構成情報データベースのエラーメッセージが表示される場合があります。

メッセージが表示された場合の詳細と対処方法については、「付録 B インストール関連のトラブルシューティング」を参照してください。

- ・ アップグレードインストール中に画面が表示されない場合がありますが、そのままの状態しばらくお待ちください。

- ・ 仮想マシン単体の移動系ポリシーアクションは、SigmaSystemCenter 2.0 で廃止されました。アップグレードインストールなどを行った場合、廃止されたポリシーアクションを登録していたポリシー設定は "なにもしない" に変換されます。

---

Windows Server 2003 で SystemProvisioning をアップグレードインストールした場合、IIS の設定が必要です。選択したすべてのコンポーネントのインストール (アップグレード) が完了した後、以下の手順に従い、IIS の設定を行ってください。

1. [スタート] メニューから [プログラム] - [管理ツール] - [インターネットインフォメーションサービス (IIS) マネージャ] を選択し、IIS を起動します。
2. 「インターネットインフォメーションサービス (IIS) マネージャ」画面が表示されます。左ペインで [Web サービス拡張] を選択し、[ASP.NET v2.0.50727] の状態を [許可] に設定します。
3. [Web サイト] - [既定の Web サイト] をダブルクリックします。左ペインに表示される [Provisioning] を右クリックし、[プロパティ] を選択します。
4. 「Provisioning のプロパティ」画面が表示されます。[仮想ディレクトリ] タブを選択し、[スクリプト ソース アクセス] チェックボックスをオンにします。
5. [OK] をクリックします。

### 3.5.10. インストール (アップグレード) を完了するには

1. 選択したすべてのコンポーネントのインストール (アップグレード) が完了すると、インストール完了のダイアログボックスが表示されます。[OK] をクリックします。
2. ESMPRO/ServerManager あるいは SystemProvisioning を選択した場合は、システムの再起動を促すダイアログボックスが表示されます。再起動を促すダイアログボックスが表示された場合、インストーラを終了した後システムを再起動する必要があります。[OK] をクリックしてください。
3. 「SigmaSystemCenter」メイン画面が表示されます。[終了] をクリックしてください。インストーラが終了します。
4. システムの再起動を促すダイアログボックスが表示された場合は、システムを再起動してください。

前のバージョンの SystemMonitor 障害監視がインストールされている場合、アップグレードインストールの終了後、手動でアンインストールする必要があります。手順については、次項を参照してください。

以上で管理サーバコンポーネントの個別のインストール (アップグレード) は完了です。

---

**注:** 管理サーバ for DPM をアップグレードインストールした場合、すべてのアップグレードインストールが終了後、クライアントサービス for DPM のアップグレードインストールを行ってください。

クライアントサービス for DPM のアップグレードインストールについては、本書「3.6 管理対象マシンコンポーネントをアップグレードインストールする」および「DeploymentManager ユーザーズガイド基本操作編」の「22.4 クライアントサービスの上書きインストール」を参照してください。

---

**注:**

・ アップグレードインストールを行う前に DPM の Web コンソールに管理サーバを登録していた場合、アップグレードインストール後に再登録する必要があります。ここで再登録する管理サーバ名は、アップグレードインストール前に登録していた名前と大文字 / 小文字を含めて同じ名前で登録してください。

手順については、「SigmaSystemCenter コンフィグレーションガイド」の「2.8.1 DPM の Web コンソールを起動するには」を参照してください。

・ アップグレードインストールを行う前に使用していた関連製品を SigmaSystemCenter 2.0 で使用するには、アップグレードインストールを行った後サブシステムとして登録する必要があります。手順については、「SigmaSystemCenter コンフィグレーションガイド」の「3.2 サブシステムを追加する」を参照してください。

---

#### 3.5.11. SystemMonitor 障害監視をアンインストールするには

前のバージョンの SystemMonitor 障害監視がインストールされている場合、アップグレードインストールの終了後、手動でアンインストールする必要があります。以下の手順に従ってアンインストールしてください。

1. [スタート] メニューから [コントロールパネル (C)] - [プログラムの追加と削除] を選択します。
2. 「プログラムの追加と削除」画面が表示されます。左ペインから [プログラムの変更と削除] をクリックします。[現在インストールされているプログラム] から [SystemMonitor] を選択し、[削除] をクリックします。
3. 削除確認のダイアログボックスが表示されます。[はい(Y)] をクリックします。
4. アンインストールが正常に終了すると、「アンインストール完了」ウィザードが表示されず。[完了] をクリックします。

以上で SystemMonitor 障害監視のアンインストールは完了です。

#### 3.5.12. 管理サーバ for DPM (HP-UX) をアップグレードインストールする

管理サーバ for DPM (HP-UX) はアップグレードインストールをサポートしていません。以前のバージョンのアンインストールを行った後、本バージョンの管理サーバ for DPM (HP-UX) のインストールを行う必要があります。

管理サーバ for DPM (HP-UX) は、SigmaSystemCenter のインストーラからインストール / アンインストールすることはできません。

SigmaSystemCenter 2.0 CD-R (2/2) から個別にインストールする必要があります。

以前のバージョンのアンインストールについては、インストールされているバージョンの DeploymentManager (HP-UX 版) のユーザーズガイドを参照してください。

本バージョンのインストール手順の詳細については、「DeploymentManager (HP-UX 版) ユーザーズガイド導入編」の「2.2 管理サーバマシンのセットアップ (Windows プラットフォーム編)」を参照してください。



### 3.5.13. SIGMABLADE controller をインストールする

SIGMABLADE controller はアップグレードインストールをサポートしていません。以前のバージョンのアンインストールを行った後、本バージョンの SIGMABLADE controller のインストールを行う必要があります。

SIGMABLADE controller は、SigmaSystemCenter のインストーラからインストールすることはできません。

SigmaSystemCenter SIGMABLADE controller CD-R から個別にインストールする必要があります。

以前のバージョンのアンインストールについては、インストールされているバージョンの SIGMABLADE controller のマニュアルを参照してください。

本バージョンのインストール手順の詳細については、「SIGMABLADE controller セットアップカード」を参照してください。

## 3.6. 管理対象マシンコンポーネントをアップグレードインストールする

次節以降では、管理対象マシンコンポーネントをアップグレードインストールする手順を説明します。

管理対象マシンの OS によって、アップグレードインストールが必要となるコンポーネントが異なります。

ご利用の環境に応じて対応する節を参照してください。

- ◆ Windows (x86 / x64) 管理対象マシンの場合  
「3.7 Windows (x86 / x64) 管理対象マシンへアップグレードインストールする」を参照してください。
- ◆ Windows (IPF) 管理対象マシンの場合  
「3.8 Windows (IPF) 管理対象マシンへアップグレードインストールする」を参照してください。
- ◆ Linux 管理対象マシンの場合  
「3.9 Linux管理対象マシンへアップグレードインストールする」を参照してください。
- ◆ HP-UX 管理対象マシンの場合  
「3.10 HP-UX管理対象マシンへアップグレードインストールする」を参照してください。

## 3.7. Windows (x86 / x64) 管理対象マシンへアップグレードインストールする

OS が Windows (x86 / x64) の管理対象マシンへは、クライアントサービス for DPM をアップグレードインストールする必要があります。クライアントサービス for DPM をアップグレードインストールする手順を説明します。

オプション、パラメータを指定せずにインストーラ (AgentSetup.exe) を起動すると、コンポーネントをインストール、アンインストールするためのインストールメニューを表示します。

詳細は次項以降を参照してください。

---

**注:** 本章のアップグレードインストール手順は SigmaSystemCenter 1.2 および 1.3 からアップグレードインストールする場合にのみ適用されます。

SigmaSystemCenter 1.1 以前のクライアントサービス for DPM をアップグレードインストールする場合は、「DeploymentManager ユーザーズガイド基本操作編」の「23.5 クライアントサービスの上書きインストール」を参照してください。

---

### 3.7.1. アップグレードインストールを実行するには

1. SigmaSystemCenter 2.0 CD-R (1/2) を DVD/CD-RW ドライブに挿入します。
2. コマンドプロンプトで以下のコマンドを実行し、インストーラを起動します。

インストール CD-R: ¥AgentSetup.exe

3. インストーラが起動し、「SigmaSystemCenter」メイン画面が表示されます。

[インストール] をクリックし、[SigmaSystemCenter] もしくは [クライアントサービス for DPM] のチェックボックスをオンにします。本バージョンのクライアントサービス for DPM が既にインストールされている場合は選択できません。選択完了後、[設定] をクリックします。

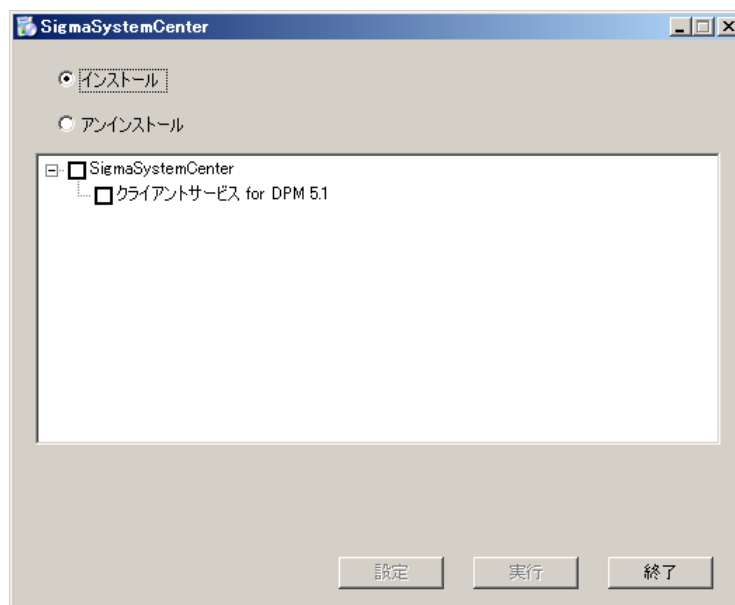
---

**注:** Windows ファイアウォールの選択については、既定値が設定されています。

既定値を変更する場合は、[実行] をクリックしてインストールを開始する前に、[設定] をクリックして「設定」画面から変更した後、[OK] をクリックしてください。

---

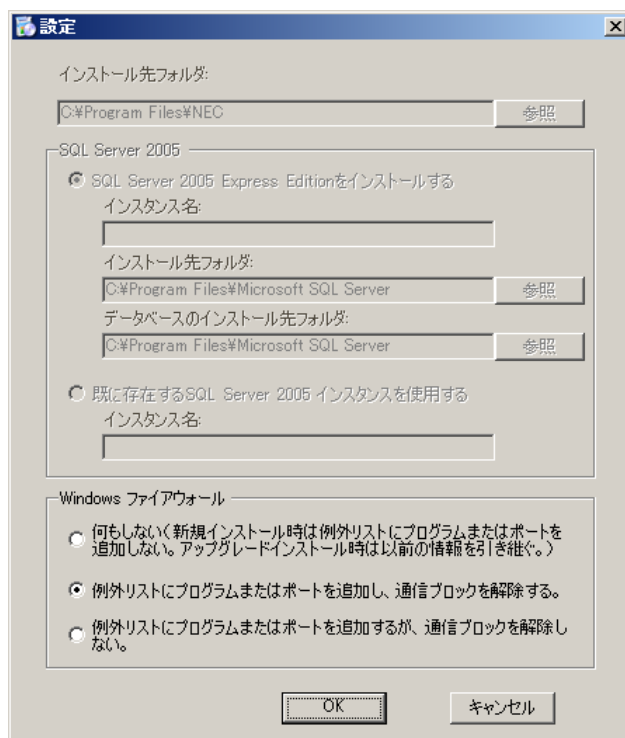
### 3 アップグレードインストールを実行する



|                    |  |
|--------------------|--|
| インストール             | インストールを行います。                                   |
| アンインストール           | アンインストールを行います。                                 |
| SigmaSystemCenter  | この項目を選択した場合、以下のすべてのコンポーネントが自動的に選択されます。         |
| クライアントサービス for DPM | クライアントサービス for DPMをインストールします。                  |
| [設定]               | 設定画面を表示します。<br>インストールするコンポーネントを選択するまで選択不可です。   |
| [実行]               | インストールを実行します。<br>インストールするコンポーネントを選択するまで選択不可です。 |
| [終了]               | メイン画面を閉じます。                                    |

## 4. 「設定」画面が表示されます。

[Windows ファイアウォール] グループボックス内の設定を選択し、[OK] をクリックします。



|   |   |
|---|---|
| インストール先フォルダ   | 入力不可です。   |
| SQL Server 2005   | 以下の項目は選択 / 入力不可です。  |
| Windows ファイアウォール  | Windowsファイアウォールの指定を行います。以下の値を指定できます。  |
| 何もしない (新規インストール時は例外リストにプログラムまたはポートを追加しない。アップグレードインストール時には以前の情報を引き継ぐ。) | この項目を選択した場合、アップグレードインストール前の情報を引き継ぎます。                                       |
| 例外リストにプログラムまたはポートを追加し、通信ブロックを解除する。                                    | この項目を選択した場合、例外リストにプログラムまたはポートを追加し、通信ブロックを解除します。既定で選択されています。                 |
| 例外リストにプログラムまたはポートを追加するが、通信ブロックを解除しない。                                 | この項目を選択した場合、例外リストにプログラムまたはポートを追加しますが、通信ブロックは解除しません。後で手動で通信ブロックを解除する必要があります。 |
| [OK]  | 設定を保存して画面を閉じ、メイン画面に戻ります。  |
| [キャンセル]   | 設定を保存せずに画面を閉じ、メイン画面に戻ります。   |

5. 「SigmaSystemCenter」メイン画面に戻ります。[実行] をクリックします。
6. インストール開始確認のダイアログボックスが表示されます。[はい (Y)] をクリックします。
7. クライアントサービス for DPM のアップグレードインストールが開始されます。クライアントサービス for DPM のアップグレードインストールに関しては、次項を参照してください。

#### 3.7.2. クライアントサービス for DPM のアップグレードインストール

クライアントサービス for DPM のアップグレードインストールが開始されます。以下の手順に従い、アップグレードインストールを進めてください。

1. 「セットアップタイプ」ウィザードが表示されます。[上書きインストール] を選択し、[次へ (N)] をクリックします。
2. インストール確認のダイアログボックスが表示されます。[OK] をクリックし、インストールを開始します。
3. 「IP アドレスの入力」ウィザードが表示されます。[IP アドレス] テキストボックスに管理サーバ for DPM の IP アドレスを入力し、[次へ (N)] をクリックします。

---

**注:** 管理サーバ for DPM の IP アドレスが不明な場合や変更される場合は、一時的な IP アドレスを入力してください。空白のまま [次へ] をクリックし、インストールを進めることはできません。正しい IP アドレスは、DPM の Web コンソールを操作して管理サーバ for DPM から管理対象マシンのシャットダウン、またはリモートアップデートによるシナリオを実行すると設定されます。

---

4. インストールが正常に終了すると、「InstallShield Wizard の完了」ウィザードが表示されます。[完了] をクリックします。

以上でクライアントサービス for DPM のアップグレードインストールは完了です。

#### 3.7.3. アップグレードインストールを完了するには

1. クライアントサービス for DPM のアップグレードインストールが完了すると、インストール完了のダイアログボックスが表示されます。[OK] をクリックします。
2. 「SigmaSystemCenter」メイン画面が表示されます。[終了] をクリックしてください。インストーラが終了します。

以上で管理対象マシンコンポーネントのインストーラ画面からのアップグレードインストールは完了です。

## 3.8. Windows (IPF) 管理対象マシンへアップグレードインストールする

OS が Windows (IPF) の管理対象マシンへは、クライアントサービス for DPM をアップグレードインストールする必要があります。

SigmaSystemCenter のインストーラは Windows (IPF) 管理対象マシンに対応していないため、クライアントサービス for DPM を Windows (IPF) 管理対象マシンにアップグレードインストールする場合、SigmaSystemCenter 2.0 CD-R (1/2) から個別にアップグレードインストールする必要があります。

Windows (IPF) 管理対象マシンへのクライアントサービス for DPM のアップグレード手順はインストール手順と同じですので、「2.8 Windows (IPF) 管理対象マシンへインストールする」を参照し、インストールしてください。

## 3.9. Linux 管理対象マシンへアップグレードインストールする

OS が Linux の管理対象マシンへは、クライアントサービス for DPM をアップグレードインストールする必要があります。

SigmaSystemCenter のインストーラは Linux 管理対象マシンに対応していないため、クライアントサービス for DPM を Linux 管理対象マシンにアップグレードインストールする場合、SigmaSystemCenter 2.0 CD-R (1/2) から個別にインストールする必要があります。

Linux管理対象マシンへのクライアントサービス for DPMのアップグレード手順はインストール手順と同じですので、「2.9 Linux管理対象マシンへインストールする」を参照し、インストールしてください。



## 3.10. HP-UX 管理対象マシンへアップグレードインストールする

OS が HP-UX の管理対象マシンへの、クライアントサービス for DPM (HP-UX) のアップグレードインストールをサポートしていません。以前のバージョンのアンインストールを行った後、本バージョンのクライアントサービス for DPM (HP-UX) のインストールを行う必要があります。

SigmaSystemCenter のインストーラは HP-UX 管理対象マシンに対応していないため、クライアントサービス for DPM (HP-UX) を HP-UX 管理対象マシンにアップグレードする場合、以前のバージョンのクライアントサービス for DPM (HP-UX) をアンインストール後、SigmaSystemCenter 2.0 CD-R (2/2) から個別にインストールする必要があります。

以前のバージョンのアンインストールについては、インストールされているバージョンの DeploymentManager (HP-UX 版) ユーザーズガイドを参照してください。

本バージョンのインストール手順の詳細については、「DeploymentManager (HP-UX 版) ユーザーズガイド導入編」の「3.3 DeploymentManager クライアントのアンインストール」「2.5 DeploymentManager クライアントのセットアップ」を参照してください。



## 4. アンインストールを実行する

本章では、SigmaSystemCenter のアンインストール手順について説明します。管理サーバコンポーネントと管理対象マシンコンポーネントを、個別でアンインストールする場合と一括でアンインストールする場合について説明します。

本章で説明する項目は以下の通りです。

- 4.1 管理サーバコンポーネントのアンインストール ..... 88
- 4.2 アンインストールを始める前の注意 ..... 88
- 4.3 管理サーバコンポーネントを個別にアンインストールする ..... 91
- 4.4 管理サーバコンポーネントを一括でアンインストールする ..... 99
- 4.5 管理対象マシンコンポーネントのアンインストール ..... 102
- 4.6 Windows (x86 / x64) 管理対象マシンよりインストーラ画面からアンインストールする 103
- 4.7 Windows (x86 / x64) 管理対象マシンからインストーラ画面表示なしでアンインストール  
する ..... 105
- 4.8 Windows (IPF) 管理対象マシンからアンインストールする ..... 107
- 4.9 Linux管理対象マシンから個別にアンインストールする ..... 108
- 4.10 HP-UX 管理対象マシンからアンインストールする ..... 109

## 4.1. 管理サーバコンポーネントのアンインストール

次節以降では、管理サーバコンポーネントをアンインストールする手順を説明します。

必要な管理サーバコンポーネントを選択し、個別にアンインストールする場合は「4.3 管理サーバコンポーネントを個別にアンインストールする」を参照してください。

すべての管理サーバコンポーネントを一括でアンインストールする場合は「4.4 管理サーバコンポーネントを一括でアンインストールする」を参照してください。

## 4.2. アンインストールを始める前の注意

SigmaSystemCenter 2.0 のアンインストールを始める前に本節の注意事項をよく読んでください。

### 4.2.1. 管理サーバ for DPM および Web サーバ for DPM をアンインストールする際の注意

管理サーバ for DPM および Web サーバ for DPM を「プログラムの追加と削除」画面からアンインストールしないでください。正常にアンインストールできない場合があります。

### 4.2.2. Windows Vista / Windows Server 2008 からアンインストールする際の注意

Windows Vista もしくは Windows Server 2008 上でインストーラを実行すると、「ユーザーアカウント制御」画面が表示される場合があります。その場合、[許可] をクリックして、続行してください。

### 4.2.3. ターミナルサービスからアンインストールする際の注意

Windows Server 2003 / Windows Server 2008 のターミナルサービスには以下の2つの動作モードがあります。

ご利用の環境を確認し、環境に応じたアンインストールを実行する必要があります。

## ◆ Windows Server 2003 の場合

## • ターミナルサーバー

ターミナルサーバーはコントロールパネルの [プログラムの追加と削除] の [Windows コンポーネント ウィザード] を使用して、“ターミナル サーバー” コンポーネントを追加することで有効になります。

## • 管理用リモートデスクトップ

管理用リモートデスクトップは既定でインストールされており、コントロールパネルの [システム] の [リモート] タブで、リモート接続を有効にすることで有効になります。

## ◆ Windows Server 2008 の場合

## • ターミナルサーバー

ターミナルサーバーは [サーバー マネージャ] の [役割の追加] で [ターミナル サービス] を選択し、[役割サービスの選択] で “ターミナル サーバー” を追加することで有効になります。

## • リモートデスクトップ

リモートデスクトップはコントロールパネルの [システム] の [リモートの設定 (R)] をクリックして表示される [システムプロパティ] の [リモート] タブで、以下のいずれかをクリックすることで有効になります。

- [リモート デスクトップを実行しているコンピュータからの接続を許可する (セキュリティのレベルは低くなります)(L)]
- [ネットワーク レベル認証でリモート デスクトップを実行しているコンピュータからのみ接続を許可する (セキュリティのレベルは高くなります)(N)]

管理用リモートデスクトップまたはリモートデスクトップから管理サーバコンポーネントまたは管理対象マシンコンポーネントをアンインストールする場合、通常通りのアンインストール手順になります。次節以降を参照してアンインストールを実行してください。

Windows Server 2003 / Windows Server 2008 のターミナルサーバー環境から管理サーバコンポーネントまたは管理対象マシンコンポーネントをアンインストールする場合には、以下の手順で SigmaSystemCenter のインストーラを起動し、アンインストールを実行してください。

### ◆ Windows Server 2003 の場合

1. SigmaSystemCenter 2.0 CD-R (1/2) を DVD/CD-RW ドライブに挿入します。
2. [スタート] メニューから [コントロールパネル (C)] - [プログラムの追加と削除] を選択します。
3. 「プログラムの追加と削除」画面が表示されます。左ペインから [プログラムの追加 (N)] をクリックします。
4. [CD または フロッピー (F)] をクリックします。
5. 「フロッピー ディスクまたは CD-ROM からのインストール」画面が表示されます。[次へ(N)] をクリックします。
6. 「インストールプログラムの実行」画面が表示されます。SigmaSystemCenter のインストーラ (ManagerSetup.exe、または、AgentSetup.exe) を指定し、[次へ(N)] をクリックします。SigmaSystemCenter のインストーラが起動します。
7. 以降、通常と同じ手順でアンインストールを実行します。  
通常のアンインストールの詳細については、「4.3 管理サーバコンポーネントを個別にアンインストールする」および「4.6 Windows (x86 / x64) 管理対象マシンよりインストーラ画面からアンインストールする」を参照してください。
8. SigmaSystemCenter のアンインストールが完了すると、「インストール終了後」画面が表示されます。[次へ(N)] をクリックします。
9. 「管理者インストールの完了」画面が表示されます。[完了] をクリックします。

### ◆ Windows Server 2008 の場合

1. SigmaSystemCenter 2.0 CD-R (1/2) を DVD/CD-RW ドライブに挿入します。
2. [スタート] メニューから [コントロールパネル] - [ターミナル サーバーへのアプリケーションのインストール] を選択します。
3. 「フロッピー ディスクまたは CD-ROM からのインストール」画面が表示されます。[次へ(N)] をクリックします。
4. 「インストールプログラムの実行」画面が表示されます。SigmaSystemCenter のインストーラ (ManagerSetup.exe、または、AgentSetup.exe) を指定し、[次へ(N)] をクリックします。SigmaSystemCenter のインストーラが起動します。
5. 以降、通常と同じ手順でアンインストールを実行します。  
通常のアンインストールの詳細については、「4.3 管理サーバコンポーネントを個別にアンインストールする」および「4.6 Windows (x86 / x64) 管理対象マシンよりインストーラ画面からアンインストールする」を参照してください。
6. SigmaSystemCenter のアンインストールが完了すると、「管理者インストールの完了」画面が表示されます。[完了] をクリックします。

以上でターミナルサーバーからのアンインストールは完了です。

---

**注:** ターミナルサービスのクライアントからターミナルサービスのマシンに対してインストール操作を行うことはできませんが、SigmaSystemCenter CD-R は、サーバマシンの CD ドライブに挿入しておく必要があります。

※UNC パスもしくはネットワークドライブを割り当てたドライブ上で、インストーラは実行できません。

---

## 4.3. 管理サーバコンポーネントを個別にアンインストールする

管理サーバから管理サーバコンポーネントを個別にアンインストールする手順を説明します。

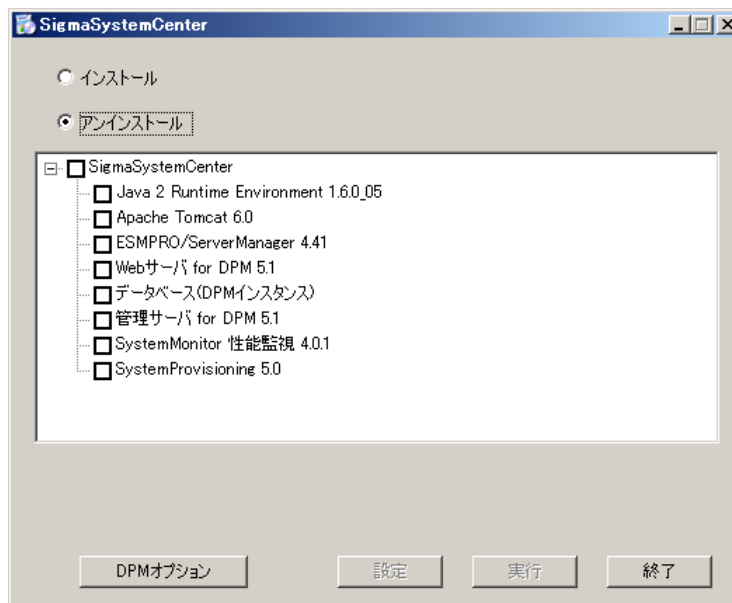
オプション、パラメータを指定せずにインストーラ (ManagerSetup.exe) を起動すると、各コンポーネントをインストール、アンインストールするためのインストールメニューを表示します。

コンポーネントを個別にアンインストールする場合、本節を参照し、不要なコンポーネントをアンインストールしてください。

### 4.3.1. アンインストールを実行するには

1. SigmaSystemCenter 2.0 CD-R (1/2) を DVD/CD-RW ドライブに挿入します。
2. コマンドプロンプトで以下のコマンドを実行し、インストーラを起動します。  
インストール CD-R: ¥ManagerSetup.exe
3. インストーラが起動し、「SigmaSystemCenter」メイン画面が表示されます。

[アンインストール] をクリックし、アンインストールするコンポーネントのチェックボックスをオンにします。選択完了後、[実行] をクリックします。



#### 4 アンインストールを実行する

|                                   |  |
|-----------------------------------|--|
| インストール                            | インストールを行います。   |
| アンインストール                          | アンインストールを行います。   |
| <b>SigmaSystemCenter</b>          | この項目を選択した場合、以下の選択可能なすべてのコンポーネントが自動的に選択されます。  |
| <b>Java 2 Runtime Environment</b> | Java 2 Runtime Environmentをアンインストールします。<br>この項目を選択した場合、[Apache Tomcat]、[Webサーバ for DPM]、[管理サーバ for DPM] も自動的に選択されます。 |
| <b>Apache Tomcat</b>              | Apache Tomcatをアンインストールします。<br>この項目を選択した場合、[Webサーバ for DPM] も自動的に選択されます。  |
| <b>ESMPRO/ServerManager</b>       | ESMPRO/ServerManagerをアンインストールします。<br>この項目を選択した場合、[SystemProvisioning] も自動的に選択されます。                                   |
| <b>Web サーバ for DPM</b>            | Webサーバ for DPMをアンインストールします。  |
| <b>データベース (DPM インスタンス)</b>        | データベース (DPMインスタンス) をアンインストールします。   |
| <b>管理サーバ for DPM</b>              | 管理サーバfor DPMをアンインストールします。  |
| <b>SystemMonitor 性能監視</b>         | SystemMonitor性能監視をアンインストールします。   |
| <b>SystemProvisioning</b>         | SystemProvisioningをアンインストールします。  |
| <b>[DPM オプション]</b>                | 「DeploymentManager セットアップ」画面を表示します。  |
| <b>[設定]</b>                       | 選択不可です。  |
| <b>[実行]</b>                       | アンインストールを実行します。<br>アンインストールするコンポーネントを選択するまで選択不可です。   |
| <b>[終了]</b>                       | メイン画面を閉じます。  |

4. アンインストール開始確認のダイアログボックスが表示されます。[はい (Y)] をクリックします。
5. 選択したコンポーネントのアンインストールが開始されます。各コンポーネントのアンインストールに関しては、次項以降の各コンポーネントの項を参照してください。



### 4.3.2. SystemProvisioning のアンインストール

SystemProvisioning を選択した場合、SystemProvisioning のアンインストールが開始されます。

アンインストール中の操作はありません。

---

**注:** このコンポーネントを選択した場合、選択したすべてのコンポーネントのアンインストールが完了するとシステムの再起動を促すダイアログボックスが表示されます。すべてのアンインストールが終了し、「SigmaSystemCenter」メイン画面を閉じた後システムを再起動してください。

---

---

**注:** SystemProvisioning のアンインストール後、Windows ファイアウォールの [例外] タブに [SystemProvisioning] が登録されたままになっている場合、手動で削除する必要があります。削除するには、選択したすべてのコンポーネントのアンインストールが完了した後、以下の手順に従ってください。

1. [スタート] メニューから [コントロールパネル (C)] - [Windows ファイアウォール] を選択します。
  2. 「Windows ファイアウォール」画面が表示されます。[例外] タブを選択し、[プログラムおよびサービス(P):] グループボックスの [SystemProvisioning] チェックボックスをオンにします。
  3. [削除(D)] をクリックします。
  4. 確認ダイアログボックスが表示されます。[はい(Y)] をクリックします。
  5. [OK] をクリックし、「Windows ファイアウォール」画面を閉じます。
- 

### 4.3.3. SystemMonitor 性能監視のアンインストール

SystemMonitor 性能監視を選択した場合、SystemMonitor 性能監視のアンインストールが開始されます。

アンインストール中の操作はありません。

---

**注:** このコンポーネントを選択した場合、選択したすべてのコンポーネントのアンインストールが完了するとシステムの再起動を促すダイアログボックスが表示されます。すべてのアンインストールが終了し、「SigmaSystemCenter」メイン画面を閉じた後システムを再起動してください。

---

#### 4.3.4. 管理サーバ for DPM のアンインストール

管理サーバ for DPM を選択した場合、管理サーバ for DPM のアンインストールが開始されます。以下の手順に従い、アンインストールを進めてください。

1. 「セットアップタイプ」ウィザードが表示されます。[アンインストール] を選択し、[次へ(N)] をクリックします。
2. 「ファイル削除の確認」ダイアログボックスが表示されます。[OK] をクリックします。
3. 「セットアップステータス」ウィザードが表示され、アンインストールが開始されます。
4. 「メンテナンスの完了」ウィザードが表示されます。[完了] をクリックします。

以上で管理サーバ for DPM のアンインストールは完了です。

#### 4.3.5. データベース (DPM インスタンス) のアンインストール

データベース (DPM インスタンス) を選択した場合、データベース (DPM インスタンス) のアンインストールが開始されます。以下の手順に従い、アンインストールを進めてください。

1. 「データベースをアンインストールしています。しばらくお待ちください。」というメッセージが表示されます。アンインストールは完了まで数分かかります。
2. アンインストール完了のダイアログボックスが表示されます。[OK] をクリックします。

以上でデータベース (DPM インスタンス) のアンインストールは完了です。

### 4.3.6. Web サーバ for DPM のアンインストール

Web サーバ for DPM を選択した場合、Web サーバ for DPM のアンインストールが開始されます。以下の手順に従い、アンインストールを進めてください。

---

**注:** Web サーバ for DPM のアンインストール中に、Apache Tomcat 6.0 が一時停止します。Apache Tomcat 6.0 が他のアプリケーションで使用されている場合は、該当アプリケーションの処理完了を待つなど、Apache Tomcat 6.0 が一時停止しても問題ない状態で、Web サーバ for DPM のアンインストールを行ってください。

---

---

**注:** Web サーバ for DPM のアンインストール中に「レジストリ情報の取得に失敗しました。」というメッセージが表示される場合がありますが、[OK] をクリックし、処理を続行してください。アンインストールは正常に終了します。

---

1. 「セットアップタイプ」ウィザードが表示されます。[アンインストール] を選択し、[次へ(N)] をクリックします。
2. 「ファイル削除の確認」ダイアログボックスが表示されます。[OK] をクリックします。
3. 「メンテナンスの完了」ウィザードが表示されます。[完了] をクリックします。

以上で Web サーバ for DPM のアンインストールは完了です。

### 4.3.7. ESMPRO/ServerManager のアンインストール

ESMPRO/ServerManager を選択した場合、ESMPRO/ServerManager のアンインストールが開始されます。以下の手順に従い、アンインストールを進めてください。

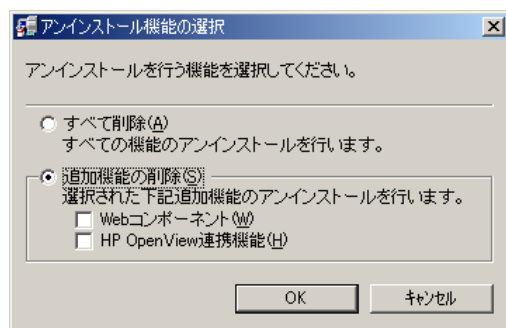
---

**注:** このコンポーネントを選択した場合、選択したすべてのコンポーネントのアンインストールが完了するとシステムの再起動を促すダイアログボックスが表示されます。すべてのアンインストールが終了し、「SigmaSystemCenter」メイン画面を閉じた後システムを再起動してください。

---

## 4 アンインストールを実行する

1. 「アンインストール機能の選択」画面が表示されます。アンインストールする機能を選択し、[OK] をクリックします。



|                         |  |
|-------------------------|--|
| <b>すべて削除</b>            | ESMPRO/ServerManagerおよび追加された機能がすべて削除されます。          |
| <b>追加機能の削除</b>          | 選択した機能が削除されます。追加されていない機能は選択不可となっています。選択できる項目は以下です。 |
| <b>Web コンポーネント</b>      | Webコンポーネントを削除します。                                  |
| <b>HP OpenView 連携機能</b> | HP OpenView連携機能を削除します。                             |

2. アンインストールの確認ダイアログボックスが表示されます。実行中のすべてのアプリケーションが終了していることを確認した後、[OK] をクリックし、アンインストールを開始します。
3. アンインストール完了のダイアログボックスが表示されます。[OK] をクリックします。

以上で ESMPRO/ServerManager のアンインストールは完了です。

### 4.3.8. Apache Tomcat のアンインストール

Apache Tomcat を選択した場合、Apache Tomcat のアンインストールが開始されます。Apache Tomcat のアンインストール画面が表示されますが、操作はありません。

### 4.3.9. Java 2 Runtime Environment のアンインストール

Java 2 Runtime Environment を選択した場合、Java 2 Runtime Environment のアンインストールが開始されます。

Java 2 Runtime Environment のアンインストール画面が表示されますが、操作はありません。

#### 4.3.10. アンインストールを完了するには

1. 選択したすべてのコンポーネントのアンインストールが完了すると、アンインストール完了のダイアログボックスが表示されます。[OK] をクリックします。
2. ESMPRO/ServerManager、SystemMonitor 性能監視、あるいは SystemProvisioning を選択した場合は、システムの再起動を促すダイアログボックスが表示されます。再起動を促すダイアログボックスが表示された場合、インストーラを終了した後システムを再起動する必要があります。[OK] をクリックしてください。
3. 「SigmaSystemCenter」メイン画面が表示されます。[終了] をクリックしてください。インストーラが終了します。
4. システムの再起動を促すダイアログボックスが表示された場合は、システムを再起動してください。

以上で管理サーバコンポーネントの個別のアンインストールは完了です。

#### 4.3.11. SQL Server 2005 Express Edition をアンインストールするには

SigmaSystemCenter のインストーラは、SQL Server 2005 Express Edition のアンインストールをサポートしていません。アンインストールする場合は、以下の手順に従ってください。

---

**注:** Windows Server 2008 の場合、インスタンスのアンインストール中に「Microsoft SQL Server 2005 セットアップ」ダイアログボックスが表示される場合があります。その場合、[無視] をクリックしてください。

---

1. [スタート] メニューから [コントロールパネル (C)] - [プログラムの追加と削除] を選択します。
2. 「プログラムの追加と削除」画面が表示されます。左ペインから [プログラムの変更と削除 (H)] をクリックします。[現在インストールされているプログラム] から [Microsoft SQL Server 2005] を選択し、[削除] をクリックします。
3. 「コンポーネントの選択」ウィザードが表示されます。[SQL Server 2005 インスタンスのコンポーネントを削除する] チェックボックスをオンにし、[インスタンスの選択] で SigmaSystemCenter のインストーラからインストールしたインスタンスをオンにします。

---

**注:** 既定でインストールされていると [SSCCMDB: データベースエンジン] と表示されます。

---

[次へ] をクリックします。

4. 「確認」ウィザードが表示されます。[完了] をクリックします。しばらくお待ちください。
5. アンインストールが正常に完了すると、「プログラムの追加と削除」に戻ります。

以上で SQL Server 2005 Express Edition のアンインストールは完了です。

#### 4.3.12. 管理サーバ for DPM (HP-UX) をアンインストールする

管理サーバ for DPM (HP-UX) は、SigmaSystemCenter のインストーラからアンインストールすることはできません。

SigmaSystemCenter 2.0 CD-R (2/2) から個別にアンインストールする必要があります。

アンインストール手順の詳細については、「DeploymentManager (HP-UX 版) ユーザーズガイド導入編」の「3.1.1 DeploymentManager 管理サーバのアンインストール」を参照してください。

#### 4.3.13. SIGMABLADE controller をアンインストールする

SIGMABLADE controller は、SigmaSystemCenter のインストーラからアンインストールすることはできません。

SigmaSystemCenter SIGMABLADE controller CD-R から個別にアンインストールする必要があります。

アンインストール手順の詳細については、「SIGMABLADE controller セットアップカード」を参照してください。

## 4.4. 管理サーバコンポーネントを一括でアンインストールする

管理サーバから管理サーバコンポーネントを一括でアンインストールする手順を説明します。

インストールオプションを指定してアンインストールを開始すると、インストーラ画面表示なしで各コンポーネントをアンインストールします。

コンポーネントを一括でアンインストールする場合、本節を参照し、アンインストールしてください。

---

**注:** Java 2 Runtime Environment、ESMPRO/ServerManager、およびSIGMABLADE controllerは、一括でアンインストールされません。アンインストールする場合は、「4.3.9 Java 2 Runtime Environmentのアンインストール」、「4.3.7 ESMPRO/ServerManagerのアンインストール」、および「4.3.13 SIGMABLADE controllerをアンインストールする」を参照し、個別にアンインストールしてください。

---

### 4.4.1. アンインストールを実行するには

1. SigmaSystemCenter 2.0 CD-R (1/2) を DVD/CD-RW ドライブに挿入します。
2. コマンドプロンプトで以下のコマンドを実行し、アンインストールを開始します。

インストール CD-R: ¥ManagerSetup.exe /x

| オプション | 説明                |
|-------|-------------------|
| /x    | 一括でアンインストールを行います。 |

オプション “/x” が指定されていない場合、「4.3.1 アンインストールを実行するには」内の「SigmaSystemCenter」メイン画面が表示されます。

3. アンインストールが開始されます。  
アンインストールが実行されると、マネージャインストーラは下記の順番でコンポーネントをアンインストールします。

コンポーネントのアンインストール中に「データベースをアンインストールしています。しばらくお待ちください。」というメッセージおよび「Uninstalling Service "Tomcat"」コマンドプロンプト画面が表示されますが、操作は不要で、アンインストール処理は継続して正常に動作します。

アンインストールは完了まで数分かかります。

#### 4 アンインストールを実行する

---

インストーラは下記の表の終了コードで終了します。インストーラは、インストーラのログと終了コードを以下のファイルに記録します。

- Windows Server 2003 の場合  
%USERPROFILE%\Local Settings\Application Data\SSC\SetupProvisioning.log
- Windows Server 2008 の場合  
%USERPROFILE%\AppData\Local\SSC\SetupProvisioning.log

---

**注:** 以下の方法でログを参照することができます。

1. コマンドプロンプトでカレントディレクトリを移動します。

```
cd "%USERPROFILE%\Local Settings\Application Data\SSC"
```

または、

```
cd %USERPROFILE%\AppData\Local\SSC
```

2. メモ帳でログファイルを開きます。

```
notepad SetupProvisioning.log
```

---

|        | 終了コード |       | アンインストール<br>対象コンポーネント | 順番 |
|--------|-------|-------|-----------------------|----|
|        | 再起動不要 | 再起動必要 |                       |    |
| 成功     | 0     | 64    | —                     | —  |
| エラー ※1 | 32    | 96    | —                     | —  |
| エラー ※2 | 8     | 72    | SystemProvisioning    | 1  |
| エラー ※2 | 7     | 71    | SystemMonitor性能監視     | 2  |
| エラー ※2 | 6     | 70    | 管理サーバfor DPM          | 3  |
| エラー ※2 | 5     | 69    | データベース (DPMインスタンス)    | 4  |
| エラー ※2 | 4     | 68    | Webサーバ for DPM        | 5  |
| エラー ※2 | 2     | 66    | Apache Tomcat         | 6  |

※1 PVMサービスの停止に失敗した場合

※2 対象コンポーネントのアンインストールに失敗した場合

以上で管理サーバコンポーネントの一括アンインストールは完了です。  
一括アンインストールの完了後、サーバを再起動してください。



#### 4.4.2. SQL Server 2005 Express Edition をアンインストールするには

SigmaSystemCenter のインストーラは、SQL Server 2005 Express Edition のアンインストールをサポートしていません。アンインストールする場合は、以下の手順に従ってください。

---

**注:** Windows Server 2008 の場合、インスタンスのアンインストール中に「Microsoft SQL Server 2005 セットアップ」ダイアログボックスが表示される場合があります。その場合、[無視] をクリックしてください。

---

1. [スタート] メニューから [コントロールパネル (C)] - [プログラムの追加と削除] を選択します。
2. 「プログラムの追加と削除」画面が表示されます。左ペインから [プログラムの変更と削除 (H)] をクリックします。[現在インストールされているプログラム] から [Microsoft SQL Server 2005] を選択し、[削除] をクリックします。
3. 「コンポーネントの選択」ウィザードが表示されます。[SQL Server 2005 インスタンスのコンポーネントを削除する] チェックボックスをオンにし、[インスタンスの選択] で SigmaSystemCenter のインストーラからインストールしたインスタンスをオンにします。

---

**注:** 既定でインストールされていると [SSCCMDB: データベースエンジン] と表示されます。

---

[次へ] をクリックします。

4. 「確認」ウィザードが表示されます。[完了] をクリックします。しばらくお待ちください。
5. アンインストールが正常に完了すると、「プログラムの追加と削除」に戻ります。

以上で SQL Server 2005 Express Edition のアンインストールは完了です。

## 4.5. 管理対象マシンコンポーネントのアンインストール

次節以降では、管理対象マシンコンポーネントをアンインストールする手順を説明します。  
管理対象マシンの OS によって、アンインストールするコンポーネントおよびアンインストール方法が異なります。

ご利用の環境やアンインストール方法に応じて対応する節を参照してください。

◆ Windows (x86 / x64) 管理対象マシンの場合

管理対象マシンコンポーネントを、インストーラ画面からアンインストールする場合は「4.6 Windows (x86 / x64) 管理対象マシンよりインストーラ画面からアンインストールする」を参照してください。

管理対象マシンコンポーネントを、インストーラ画面表示なしでアンインストールする場合は「4.7 Windows (x86 / x64) 管理対象マシンからインストーラ画面表示なしでアンインストールする」を参照してください。

◆ Windows (IPF) 管理対象マシンの場合

「4.8 Windows (IPF) 管理対象マシンからアンインストールする」を参照してください。

◆ Linux 管理対象マシンの場合

「4.9 Linux管理対象マシンから個別にアンインストールする」を参照してください。

◆ HP-UX 管理対象マシンの場合

「4.10 HP-UX 管理対象マシンからアンインストールする」を参照してください。

## 4.6. Windows (x86 / x64) 管理対象マシンよりインストーラ画面からアンインストールする

OS が Windows (x86 / x64) の管理対象マシンからは、クライアントサービス for DPM をアンインストールする必要があります。インストーラ画面からクライアントサービス for DPM をアンインストールする手順を説明します。

オプション、パラメータを指定せずにインストーラ (AgentSetup.exe) を起動すると、コンポーネントをインストール、アンインストールするためのインストールメニューを表示します。

詳細は次項以降を参照してください。

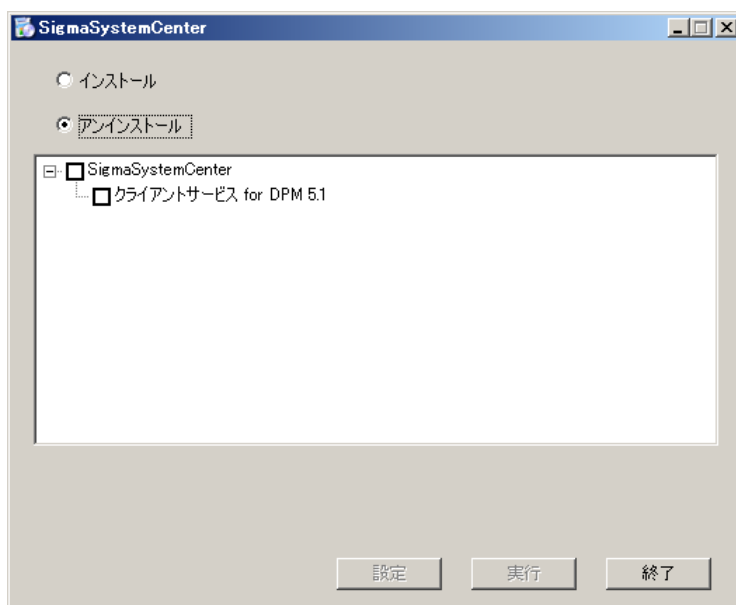
### 4.6.1. アンインストールを実行するには

1. SigmaSystemCenter 2.0 CD-R (1/2) を DVD/CD-RW ドライブに挿入します。
2. コマンドプロンプトで以下のコマンドを実行し、インストーラを起動します。

インストール CD-R: ¥AgentSetup.exe

3. インストーラが起動し、「SigmaSystemCenter」メイン画面が表示されます。

[アンインストール] をクリックします。[SigmaSystemCenter]もしくは [クライアントサービス for DPM] のチェックボックスをオンにします。選択完了後、[実行] をクリックします。



|                          |  |
|--------------------------|--|
| インストール                   | インストールを行います。                                       |
| アンインストール                 | アンインストールを行います。                                     |
| <b>SigmaSystemCenter</b> | この項目を選択した場合、以下の選択可能なすべてのコンポーネントが自動的に選択されます。        |
| クライアントサービス for DPM       | クライアントサービス for DPMをアンインストールします。                    |
| [設定]                     | 選択不可です。  |
| [実行]                     | アンインストールを実行します。<br>アンインストールするコンポーネントを選択するまで選択不可です。 |
| [終了]                     | メイン画面を閉じます。  |

4. アンインストール開始確認のダイアログボックスが表示されます。[はい(Y)] をクリックします。
5. クライアントサービス for DPM のアンインストールが開始されます。クライアントサービス for DPM のアンインストールに関しては、次項を参照してください。

#### 4.6.2. クライアントサービス for DPM のアンインストール

クライアントサービス for DPM のアンインストールが開始されます。以下の手順に従い、アンインストールを進めてください。

1. 「セットアップタイプ」ウィザードが表示されます。[アンインストール] を選択し、[次へ(N)] をクリックします。
2. 「ファイル削除の確認」ダイアログボックスが表示されます。[OK] をクリックします。
3. 「メンテナンスの完了」ウィザードが表示されます。[完了] をクリックします。

以上でクライアントサービス for DPM のアンインストールは完了です。

#### 4.6.3. アンインストールを完了するには

1. クライアントサービス for DPM のアンインストールが完了すると、アンインストール完了のダイアログボックスが表示されます。[OK] をクリックします。
2. 「SigmaSystemCenter」メイン画面が表示されます。[終了] をクリックしてください。インストーラが終了します。

以上で管理対象マシンコンポーネントのインストーラ画面からのアンインストールは完了です。

## 4.7. Windows (x86 / x64) 管理対象マシンからインストーラ画面表示なしでアンインストールする

OS が Windows (x86 / x64) の管理対象マシンからは、クライアントサービス for DPM をアンインストールする必要があります。インストーラ画面表示なしでクライアントサービス for DPM をアンインストールする手順を説明します。

インストールオプションを指定してアンインストールを開始すると、インストーラ画面表示なしでクライアントサービス for DPM をアンインストールします。

詳細は次項を参照してください。

### 4.7.1. アンインストールを実行するには

1. SigmaSystemCenter 2.0 CD-R (1/2) を DVD/CD-RW ドライブに挿入します。
2. コマンドプロンプトで以下のコマンドを実行し、アンインストールを開始します。

インストール `CD-R:¥AgentSetup.exe /x`

| オプション | 説明                |
|-------|-------------------|
| /x    | 一括でアンインストールを行います。 |

オプション “/x” が正しく指定されていない場合、「4.6.1 アンインストールを実行するには」内の「SigmaSystemCenter」メイン画面が表示されます。この場合、個別アンインストールとなります。個別アンインストールを進めるか、「SigmaSystemCenter」メイン画面を閉じ、一括アンインストールを再度実行してください。

3. クライアントサービス for DPM のアンインストールが開始されます。アンインストールは完了まで数分かかります。

#### 4 アンインストールを実行する

---

インストーラは下記の表の終了コードで終了します。インストーラは、インストーラのログと終了コードを以下のファイルに記録します。

- Windows 2000 / Windows XP / Windows Server 2003 の場合  
%USERPROFILE%\Local Settings\Application Data\SSC\SetupProvisioning.log
- Windows Vista / Windows Server 2008 の場合  
%USERPROFILE%\AppData\Local\SSC\SetupProvisioning.log

---

**注:** 以下の方法でログを参照することができます。

1. コマンドプロンプトでカレントディレクトリを移動します。

```
cd "%USERPROFILE%\Local Settings\Application Data\SSC"
```

または

```
cd %USERPROFILE%\AppData\Local\SSC
```

2. メモ帳でログファイルをオープンします。

```
notepad SetupProvisioning.log
```

---

|        | 終了コード     | インストール対象コンポーネント    | 順番 |
|--------|-----------|--------------------|----|
| 成功     | 0 (再起動不要) | —                  | —  |
| エラー ※1 | 1 (再起動不要) | クライアントサービス for DPM | 1  |

※1 対象コンポーネントのアンインストールに失敗した場合

以上で管理対象マシンコンポーネントのインストーラ画面表示なしでのアンインストールは完了です。

## 4.8. Windows (IPF) 管理対象マシンからアンインストールする

OS が Windows (IPF) の管理対象マシンからは、クライアントサービス for DPM をアンインストールする必要があります。クライアントサービス for DPM をアンインストールする手順を説明します。

SigmaSystemCenter のインストーラは Windows (IPF) 管理対象マシンに対応していないため、クライアントサービス for DPM を Windows (IPF) 管理対象マシンからアンインストールする場合、SigmaSystemCenter 2.0 CD-R (1/2) から個別にアンインストールする必要があります。

詳細は次項を参照してください。

### 4.8.1. アンインストールを実行するには

1. SigmaSystemCenter 2.0 CD-R (1/2) を DVD/CD-RW ドライブに挿入します。
2. コマンドプロンプトで以下のコマンドを実行し、クライアントサービス for DPM がインストールされているフォルダに移動します。

```
cd %SystemRoot%\system32
```

3. コマンドプロンプトで以下のコマンドを実行し、クライアントサービス for DPM をアンインストールします。

```
rupdsvc.exe -remove  
del rupdsvc.exe  
del clisvc.ini  
depagent.exe -remove  
del depagent.exe  
del depagent.dll  
del depinfo.dll  
del L4dpm.ini  
del L4dpm.dll
```

以上でクライアントサービス for DPM のアンインストールは完了です。

## 4.9. Linux 管理対象マシンから個別にアンインストールする

OS が Linux の管理対象マシンからは、クライアントサービス for DPM をアンインストールする必要があります。クライアントサービス for DPM をアンインストールする手順を説明します。

SigmaSystemCenter のインストーラは Linux 管理対象マシンに対応していないため、クライアントサービス for DPM を Linux 管理対象マシンからアンインストールする場合、SigmaSystemCenter 2.0 CD-R (1/2) から個別にアンインストールする必要があります。

詳細は次項を参照してください。

### 4.9.1. クライアントサービス for DPM をアンインストールする

---

**注:** Red Hat Enterprise Linux AS4/ES4、SUSE Linux Enterprise 9 の場合は、"/mnt" 部を "/media" に読み替えて作業をすすめてください。

SUSE Linux Enterprise 10 の場合は、"/mnt/cdrom" 部を "/media/CD-R のボリュームラベル" に読み替えて作業をすすめてください。

---

1. root アカウントでシステムにログインします。
2. SigmaSystemCenter 2.0 CD-R (1/2) を DVD/CD-RW ドライブに挿入します。
3. 以下のコマンドを実行し、CD-R をマウントします。この例では、マウントポイントを "/mnt/cdrom" と仮定しています。

```
# mount /mnt/cdrom
```

4. ディレクトリを変更するために、以下のコマンドを実行します。

```
# cd /mnt/cdrom/DPM/Linux/クライアントアーキテクチャ/bin/agent
```

クライアントアーキテクチャの部分はマシンの機種に応じて以下を指定してください。

- IPF アーキテクチャマシンの場合: ia64
- IA32、EM64T アーキテクチャマシンの場合: ia32

例) [root@localhost]# cd /mnt/cdrom/DPM/Linux/ia32/bin/agent

5. depuninst.sh を実行します。

```
# ./depuninst.sh
```

以上でクライアントサービス for DPM のアンインストールは完了です。



## 4.10. HP-UX 管理対象マシンからアンインストールする

OS が HP-UX の管理対象マシンからは、クライアントサービス for DPM (HP-UX) をアンインストールする必要があります。

SigmaSystemCenter のインストーラは HP-UX 管理対象マシンに対応していないため、コンポーネントを HP-UX 管理対象マシンからアンインストールする場合、SigmaSystemCenter 2.0 CD-R (2/2) から個別にアンインストールする必要があります。

アンインストール手順については、「DeploymentManager (HP-UX 版) ユーザーズガイド導入編」の「3.3 DeploymentManager クライアントのアンインストール」を参照してください。



# 付録

- 付録 A ネットワークとプロトコル
- 付録 B インストール関連のトラブルシューティング



## 付録 A ネットワークとプロトコル

SigmaSystemCenter のコンポーネントは既定で以下のネットワークポートを使用するよう設定してあります。管理対象サーバや管理対象マシンを含むシステム環境で Windows Firewall などのファイアウォール機能が有効な場合、以下のポートを開いてください。

### 管理サーバ

|                           | 項目  | プロトコル | ポート番号   | プログラム名  |
|---------------------------|---|-------|---|---|
| DeploymentManager         | 管理サーバ for DPM (Windows)                       | UDP   | 67, 69, 4011, 56021, 56040                                    |   |
|                           |   | TCP   | 56011, 56020, 56022, 56023, 56024, 56028, 56030, 56050, 56060 |   |
|                           | データベース (DPMインスタンス)                            | TCP   | 56070   |   |
|                           | Webサーバ for DPM                                | TCP   | 8080  |   |
| DeploymentManager (HP-UX) | 管理サーバ for DPM (HP-UX)                         | TCP   | 8080, 15416, 15417  | -   |
| SystemProvisioning        | SystemProvisioning                            | TCP   | 26102, 26150  | ¥Program Files¥NEC¥PVM¥bin¥PVMSERVICEPROC.exe                     |
| System Monitor            | System Monitor Performance Monitoring Service | TCP   | 26200   | ¥Program Files¥NEC¥SystemMonitorPerformance¥bin¥rm_pfmSERVICE.exe |
| ESMPRO/ServerManager      | ESMPRO/ServerManager                          | UDP   | 162   |   |
|                           |   | TCP   | 31134, 8806   |   |

## 管理対象マシン

|                              | 項目                              | プロトコル           | ポート番号                       | プログラム名            |
|------------------------------|---------------------------------|-----------------|-----------------------------|-------------------|
| DeploymentManager            | ICMP Echo                       | ICMP            | -                           | DeploymentManager |
|                              | クライアントサービス<br>for DPM (Windows) | UDP             | 56001                       | DeploymentManager |
|                              |                                 | TCP             | 56000,<br>56010,<br>56025   | DeploymentManager |
|                              | クライアントサービス<br>for DPM (Linux)   | UDP             | 56001                       | なし                |
| TCP                          |                                 | 56000,<br>56010 | なし                          |                   |
| DeploymentManager<br>(HP-UX) | クライアント                          | TCP             | 7, 23,<br>15420,<br>15421   | -                 |
|                              |                                 | UDP             | 68                          | -                 |
| System Monitor               | 性能データ取得                         | UDP             | 137 ※1                      |                   |
|                              |                                 | TCP             | 139, 445 ※1                 |                   |
|                              |                                 |                 | 22, 23 ※2                   |                   |
|                              |                                 |                 | 443 ※3                      |                   |
| Server Management            | ICMP Echo                       | ICMP            | --                          |                   |
|                              | Power On                        | UDP             | 10101                       |                   |
|                              | ESMPRO/ServerAgent<br>(Windows) | UDP             | 161                         |                   |
|                              |                                 | TCP             | 1024~5000<br>のいずれか<br>ひとつ   |                   |
|                              | ESMPRO/ServerAgent<br>(Linux)   | UDP             | 161, 111                    |                   |
|                              |                                 | TCP             | 32767以上<br>のポートのい<br>ずれかひとつ |                   |

- ※1 Windows管理対象マシンの性能データ収集時に使用します。
- ※2 Telnet (23) もしくはSSH (22) 経由で性能データを収集する場合に使用します。
- ※3 VMware ESX Server、Xen Serverの性能データ収集時に使用します。詳細については、「SystemMonitor性能監視ユーザーズガイド」の「1.7.4. 管理サーバと監視対象サーバ間の使用ポート」を参照してください。

## その他

|                           | 項目                                | プロトコル | ポート番号                                       | プログラム名  |
|---------------------------|-----------------------------------|-------|---|---|
| Mail Server               | ESMPRO/Server Manager             | TCP   | 25  |   |
|                           | ESMPRO/Server Agent               | TCP   | 25  |   |
| DHCP Server               | Network Boot                      | UDP   | 67  |   |
|                           | Network Boot                      | UDP   | 67  |   |
| NFS                       | Linux OS Clear Installation       | UDP   | 1048, 2049                                  |   |
|                           |                                   | TCP   | 111, 1048, 2049                             |   |
| System Monitor            | System Monitor Management Console | TCP   | 26202                                       | ¥Program Files¥NEC¥SystemMonitorPerformance¥bin¥RM_PFMCONSOLE.exe |
| DeploymentManager (HP-UX) | Ignite-UXサーバ                      | UDP   | 67, 69, 111, 2049, 4045, 49152~65535        | -   |
|                           |                                   | TCP   | 20, 21, 111, 2049, 4045, 15421, 49152~65535 | -   |





# 付録 B インストール関連のトラブルシューティング

インストール、アップグレードインストール、およびアンインストール中に問題が起こった際に表示されるメッセージと対処方法について記載します。

| エラーのタイミング   | メッセージ   | 対処方法  |
|---|---|---|
| 管理サーバへの SystemProvisioning の個別インストール時、および、アップグレードインストール時        | Windowsファイアウォールの例外登録に失敗しました。  | 本メッセージはWindows Firewall / Internet Connection Sharing (ICS) サービスが停止している場合に表示されます。<br>インストール完了後、Windows Firewall / Internet Connection Sharing (ICS) サービスを開始し、Windowsファイアウォールの例外リストに SystemProvisioningのプログラムを手動で追加してください。   |
| 管理サーバコンポーネントのアップグレードインストール中の SystemProvisioning のアップグレードインストール時 | コンバート前の構成情報データベースへの接続に失敗しました。<br>コンバート前の構成情報データベースのサービスが起動していない可能性があります。<br>「MSSQL\$PVMINF_INSTANCE」サービスを確認してください。インストールを中止します。 | 以下の操作を行い、構成情報データベースのコンバートを再実行してください。<br><br>1. コンバート前の構成情報データベースのサービス「MSSQL\$PVMINF_INSTANCE」が起動していることを確認してください。<br>サービスが停止している場合は、起動してください。<br><br>2. SystemProvisioningのインストールフォルダ配下にある "CmdbConverter.exe" を実行してください。<br><br>3. コマンドプロンプトが表示され、構成情報データベースのコンバート処理が実行されます。<br><br>4. コンバート処理が完了すると、"データベースのコンバートが完了しました。データベースのコンバートを終了します。何かキーを押してください。" というメッセージが表示されます。何かキーを押して終了してください。 |

| エラーのタイミング  | メッセージ   | 対処方法  |
|--|---|---|
| <p>管理サーバコンポーネントのアップグレードインストール中の SystemProvisioning のアップグレードインストール時</p> | <p>SSC2.0の構成情報データベースへの接続に失敗しました。</p> <p>SSC2.0の構成情報データベースのサービスが起動していない可能性があります。</p> <p>「SQL Server (SSCCMDB)」サービス(既定値)を確認してください。インストールを中止します。</p> | <p>以下の操作を行い、構成情報データベースのコンバートを再実行してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. インストールする構成情報データベースのサービス「SQL Server (SSCCMDB)」(既定値)が起動しているか確認してください。<br/>サービスが停止している場合は、起動してください。</li> <li>2. SystemProvisioningのインストールフォルダ配下にある "CmdbConverter.exe" を実行してください。</li> <li>3. コマンドプロンプトが表示され、構成情報データベースのコンバート処理が実行されます。</li> <li>4. コンバート処理が完了すると、" データベースのコンバートが完了しました。データベースのコンバートを終了します。何かキーを押してください。" というメッセージが表示されます。何かキーを押して終了してください。</li> </ol>   |
| <p>管理サーバコンポーネントのアップグレードインストール中の SystemProvisioning のアップグレードインストール時</p> | <p>データベースのコンバート中にエラーが発生しました。</p> <p>コンバート前のバックアップデータをリストアしてください。インストールを中止します。</p>   | <p>以下の操作を行い、構成情報データベースのコンバートを再実行してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. コンバート前の構成情報データベースのサービス「MSSQL\$PVMINF_INSTANCE」、または、インストールする構成情報データベースのサービス「SQL Server (SSCCMDB)」(既定値)が起動しているか確認してください。<br/>サービスが停止している場合は、起動してください。</li> <li>2. あらかじめバックアップしておいた、コンバート前の構成情報データベースのバックアップデータをリストアしてください。</li> <li>3. SystemProvisioningのインストールフォルダ配下にある "CmdbConverter.exe" を実行してください。</li> <li>4. コマンドプロンプトが表示され、構成情報データベースのコンバート処理が実行されます。</li> <li>5. コンバート処理が完了すると、" データベースのコンバートが完了しました。データベースのコンバートを終了します。何かキーを押してください。" というメッセージが表示されますので、何かキーを押して終了してください。</li> </ol> |

| エラーのタイミング   | メッセージ  | 対処方法   |
|---|--|--|
| 管理サーバコンポーネントのアップグレードインストール中の SystemProvisioning のアップグレードインストール時 | データベースのコンバート中にエラーが発生しました。インストールを中止します。   | <p>以下の操作を行い、構成情報データベースのコンバートを再実行してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. コンバート前の構成情報データベースのサービス「MSSQL\$PVMINF_INSTANCE」、または、インストールする構成情報データベースのサービス「SQL Server (SSCCMDB)」(既定値) が起動しているか確認してください。<br/>サービスが停止している場合は、起動してください。</li> <li>2. あらかじめバックアップしておいた、コンバート前の構成情報データベースのバックアップデータをリストアしてください。</li> <li>3. SystemProvisioningのインストールフォルダ配下にある "CmdbConverter.exe" を実行してください。</li> <li>4. コマンドプロンプトが表示され、構成情報データベースのコンバート処理が実行されます。</li> <li>5. コンバート処理が完了すると、" データベースのコンバートが完了しました。データベースのコンバートを終了します。何かキーを押してください。" というメッセージが表示されますので、何かキーを押して終了してください。</li> </ol> |
| Windows (x86 / x64) 管理対象マシンへのインストール時                            | <p>「ダイナミックリンクライブラリ mscoree.dllが指定されたパスに見つかりませんでした。」</p> <p>もしくは</p> <p>「アプリケーションを正しく初期化できませんでした (0x0000135)。[OK] をクリックしてアプリケーションを終了してください」</p> | .NET Framework 1.1以上をインストール後、再度インストーラ (AgentSetup.exe) を実行してください。  |



